

北星ピア・サポーター
活動報告書
2023

2024.5.31

北星学園大学学習サポートセンター発行

「北星ピア・サポーター2023 年度活動報告書集」の発刊にあたって

北星ピア・サポーター2023 年度 三役一同

北星ピア・サポーターは、学生同士の学び合いや学びのサポートを目的に 2014 年度に発足した大学公認の組織であり、2024 年度で 10 周年を迎えました。組織発足当時から自分たちの経験を踏まえたサポート活動をモットーとしているところは 10 年経っても変わっておりません。4 月のオリエンテーション期間に学科ごとで実施している「新入生説明会」では、入学者のほとんどが参加してくださり、同期間の「なんでも相談会」では、558 名の悩みや不安の解消に努めることができました。多くの学生に私たちの活動が認知されていることを大変嬉しく思います。

北星ピア・サポーターでは、6 月を年度初めとして、翌年 5 月を年度終わりとして活動しています。この度、次の新体制に向けて各自所属している学科・係で今年度の振り返りを実施し、活動報告書を作成しました。活動報告書をまとめ、今年度の集大成として「北星ピア・サポーター2023 年度活動報告書集」という形で発刊できることを嬉しく思います。

2023 年度は、4 月のオリエンテーション期間はもちろん、各学科で開催されるゼミ説明会や勉強会といった企画も多数実施されました。学生に寄り添った企画を実施することができた一方で、企画実施に向けた資料作成や打ち合わせなど様々な準備過程を乗り越え、北星ピア・サポーター自身の成長もできました。

また、2023 年度は、北海道内外のピア・サポーターと深く関わる機会がありました。交流や情報交換を行い、北星ピア・サポーターが実施している学習支援活動だけではない多種多様な支援活動に触れる機会となりました。遠く離れた他団体とも SNS を通してつながり、意見交換やサポート活動における相談ができる仲間を作ることができました。これらの繋がりをきっかけに全国のピア・サポート団体の活動がより充実することを願います。

北星ピア・サポーターのこれまでの活動のすべての活動を掲載しているわけではありませんが、本報告書をご覧になった皆様に北星ピア・サポーターの 2023 年度の活動を知って頂ければ幸いです。

2024.5.31

目次

活動全体に関する資料	5
三役・係	8
三役	9
定例会	13
カウンターシフト	16
リーダーズ会議	18
スタートアップ研修	20
キックオフ会	26
新入生説明会準備 進捗報告会	30
新入生説明会 中間リハーサル	32
新入生説明会 最終リハーサル	34
新入生応援 BOOK	36
なんでも相談会	38
総務人事係	40
スタートアップ研修 係紹介	43
定例会議事録作成	44
2023 年度 北星ピア・サポーターインターンシップ	46
2024 年度 北星ピア・サポーター公募面接	48
広報係	50
ネーム作成	57
名刺作成①・②	59
X 運用	60
Instagram 運用	62
ピアサポ写真集	65
企画係	67
スタートアップ研修（アイスブレイク・夜アイスブレイク）	70
キックオフ会（昼・夜アイスブレイク）	72
学科	74
英文学科	75
ゼミ冊子	78
新入生説明会	80
心理・応用コミュニケーション学科	82
新入生説明会	85
経済学科	87
経済学科ゼミ相談強化週間	91
経済学科新入生説明会	93
経営情報学科	98
経営情報学科 ゼミ説明会	100

経営情報学科 新入生説明会	103
経済法学科.....	105
北星ピア・サポーター経済法学科主催ゼミ相談会	108
新入生説明会	112
ゼミ相談会.....	118
福祉臨床学科.....	120
ゼミ冊子作成.....	123
社会福祉学科.....	125
社会福祉学科 新入生説明会	127
心理学科	129
心理学科 1 年生対象勉強方法の発信.....	133
心理学統計法勉強会～jamovi の操作に慣れよう～	138
心理学科ゼミ説明会.....	143
2024 年度心理学科オリエンテーション	146
短期大学部英文学科	149
2024 年度新入生説明会	152
生活創造学科.....	154
新入生歓迎会	156
イベント参加.....	158
関西遠征（1 日目）	159
関西遠征（2 日目）	162
成城大学 Supporter's Forum2023 at Seijo University and Konan University	165
その他.....	171
アドバイザー企画	172

活動全体に関する資料

■2023 年度各学科構成員

	英文	心コミ	経済	経情	経法	計画	臨床	福心	短英	生活	合計
1 年目	3	4	3	3	3	2	2	4	3	0	27
2 年目	2	2	3	2	3	3	4	3	2	1	25
アドバイザー	3	3	4	2	1	3	1	3	1	0	21
小計	8	9	10	7	7	8	7	10	6	1	73
インターン	1	3	2	2	0	0	0	0	-	-	8
合計	9	12	12	9	7	8	7	10	6	1	81

※1 年目とは四大 2 年次生・短期大学部 1 年次生を指し、2 年目とは四大 3 年次生・短期大学部 2 年次生を指す。アドバイザーとは四大 4 年次生・短期大学部からの編入した四大 3 年次生を指す。

※ピアサポの任期は基本的に 2023 年 6 月から 2024 年 5 月までである。なお、留学・休学・退学・自主的なピアサポが辞退など、やむを得ない事情がある場合、任期はこの限りではない。

※アドバイザーおよび短英(短期大学部英文学科)、生活(短期大学部生活創造学科)の 2 年目ピア・サポーターの任期は 2023 年 6 月から 2024 年 3 月まで(卒業のため)。

※インターン(四大 1 年次生)の任期は 2023 年 10 月・11 月(各インターンの申込日)から 2023 年 1 月まで。なお、インターン終了後、北星ピア・サポーターに応募するかどうかは本人の意思に委ねるものとする。

■2023 年度三役・係構成員

三役

- リーダー 1 名(2 年目)
- 副リーダー 2 名(2 年目)
- 3 名(1 年目)※1 月より加入の次期三役

係

- 総務・人事係 9 名 (1 年目 4 名、2 年目 2 名、アドバイザー 3 名)
- 広報係 13 名 (1 年目 1 名、2 年目 3 名、アドバイザー 6 名)
- 企画係 7 名 (1 年目 1 名、2 年目 5 名、アドバイザー 1 名)

■2023 年度活動年表（全体）

2023 年	6 月	新体制スタート 任命式 スタートアップ研修
	9 月	1 年目向け学習会
	10 月	大学祭（3 店舗）
	11 月	ぴあのわ in 北海道@北星学園大学 成城大学学外研修 ピアサポ交流イベント
	12 月	キックオフ会
2024 年	2 月	進捗報告会 ホームカミングデー ピアサポ研修会@関西大学、大阪経済大学 中間リハーサル
	3 月	アドバイザー企画 最終リハーサル
	4 月	北星ピア・サポーターによる説明会 ピアサポなんでも相談会 北星ピア・サポーター採用活動

※北星ピア・サポーターは 6 月に代替わりをおこなう。

※各学科の活動においては、以降の係・学科ごとの報告によりおこなう。

三役・係

北星ピア・サポーターには役割として、三役（運営の管理）と3つの係（総務人事係、広報係、企画係）があり、それぞれの目的に沿った活動をおこなっています。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/05/11

三役		
メンバー	1 年目	北島楓、佐藤涼美、吉田侑夏
	2 年目	今泉瑠菜、土屋日奈子、正木瑛翔
	アドバイザー	
目的・目標	・ 北星ピア・サポーター全体を統括し、活動の基盤を支える役割を担う。 ・ 定例会や研修など、組織全体に関わる活動の運営を行い、個人、学科、係まで様々な活動をサポートする。 ・ 組織全体が活動しやすい組織づくりを目指す。	
活動概要	・ 定例会の準備・運営 ・ カウンターシフトを作成し、ラーニング・コモンズにおける北星ピア・サポーターの学習相談体制の確立 ・ 各係リーダーとリーダーズ会議を開催 ・ 年度のはじめにスタートアップ研修を実施 ・ 4 月の新入生支援に向けてのキックオフ会開催 ・ 新入生説明に向けて進捗報告会、中間・最終リハーサルの開催 ・ なんでも相談会の企画、運営 ・ 活動報告書の添削 ・ ピアサポバンクの管理 * ピアサポ Bank とは、ピアサポで保有しているお金のことで金庫による保管を行っている。主な歳入は、学校祭である。協議事項で認められた後に、使用することができる。 ・ ピアサポ資料館の管理	

良かった点	・ 三役会議では、有意義な打ち合わせを行うことができた。 理由：毎回、打ち合わせの内容を明確に示したうえで実施していたため。また、スタートアップ研修で学んだファシリテーションやホワイトボードを用いる会議を目指し、打ち合わせ能力の向上を図ることができたため。 ・ 三役として活動していく中で、SOS が必要な時は、即座に連絡を取り合うことができた。 理由：様々な問題について連絡を取り合うことで、誰かがサポートにまわり三役内で柔軟に対応し、解決することができたため。 ・ 1年目三役とも協力をしながら、オリエンテーション期間を成立させることができた。 理由：リーダーの活動休止により、2年目三役の実働人数が2人となった中、1年目三役とは新三役発表後から活動を共にした。主に新入生説明会に向けた活動では、様々な役割を1年目三役とも分担を行い、組織運営を共にできたことが成果としてあげることができるため。
反省点	・ 重要な連絡含め、様々な連絡が遅めだった。 理由：先を見越した活動が苦手な運営陣だったため。 ・ 組織全体が活発になるように、様々な活動を促したが、精神的に傷ができたメンバーを作ってしまった。 理由：活動をしていく中で、様々な役割や責任を負うこともあるが、メンバー1人に集中させてしまうことがあり、辛い活動をさせてしまったため。また、受け身なメンバーが多いこともあり、全員でカバーし合えるような組織状況ではなかったため。それらを含め、三役ではサークル感という言葉を使って、このような問題と向き合ってきたが、改善できたとは言えないため。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 81 ）点
展望	全体を統括する役割としては、活動の基盤を支えると同時に、メンバーが活動しやすい環境を整えることができているかが重要だと考えている。 次年度の三役は、きっと今年度とは違った組織の問題を抱えていくことになると思う。このときに重要なのが、その問題を解決することでどんな風になりたいかを1人ではなく、メンバーや学習サポートデスク（以下、デスク）と一緒に考えていくことである。そうすれば1つの目的・目標が見えてくるので、その達成方法をシンプルに考えてみることだ。 組織問題を1人で考え、悩むことは非常に効率が悪く、複雑なものになりやすい。三役メンバー含め、ピアサポメンバーやデスクにも頼りながら、より良い組織づくりを目指してほしい。

年間スケジュール	
2023年6月	定例会・前期カウンターシフト開始（12日～） （4月21日：スタートアップ研修初回会議） 1日：任命式 6日：リーダーズ会議 14日：スタートアップ研修のしおりをセンター長に送信 24日、25日：スタートアップ研修実施 リーダーズ会議（28日）
7月	
8月	
9月	後期カウンターシフト開始（18日～）
10月	11日：キックオフ会初回会議
11月	7日：リーダーズ会議 10日：リーダーズ会議
12月	1日：キックオフ会のしおりをセンター長に送信 9日、10日：キックオフ会実施
2024年1月	10日：進捗報告会初回会議 11日：中間リハーサル、最終リハーサル初回会議 16日：新入生応援ブックの作成決定
2月	9日、10日：進捗報告会 20日：中間リハーサル
3月	18日、19日：最終リハーサル 27日：新入生応援ブックの印刷完了

	14 日：なんでも相談会初回会議	↓
4 月	2 日：なんでも相談会マニュアルブックを全体共有 2 日、3 日：北星ピア・サポーターによる新入生説明会 3 日、4 日、6 日：北星ピア・サポーターによるなんでも相談会 世代交代前までのカウンターシフト開始（15 日）	
5 月	活動報告書添削	

活動名称	定例会		
日時	2023 年 6 月 2 日～2024 年 5 月 31 日		
場所	各大学講義室		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	各回による
目的	・ 北星ピア・サポーターが週に 1 度集まり、諸活動の報告を行う。 ・ 組織全体での意思決定の場として、協議を行い活動を進めていく。		
準備	【アジェンダ】 毎週金曜日の定例会で扱う内容を事前に三役が把握し、アジェンダを作成した。OneDrive の共同編集を活用し、各係リーダーをはじめ報告がある者がアジェンダを編集できるようにした。具体的には、月曜日に Slack/Teams の定例会チャンネルにアジェンダの編集リンクをあげ、報告がある者は水曜日までに編集するというルールを設けた。印刷についてはアジェンダが完成次第、定例会の時間までに三役が行った。 【欠席者の把握】 出席簿を回し参加者に各自でチェックしてもらった。事前に欠席が分かっている場合は、Slack/Teams の定例会チャンネルの各回アジェンダの投稿にその旨を返信する形で把握した。		
実施内容	第 1 回（6 月 2 日） ・ 各種報告（以下省略） ・ 学習サポートデスクから（以下省略） 第 2 回（6 月 9 日）：協議事項（定例会と意思決定について、星学祭模擬店参加の意向について） 第 3 回（6 月 16 日）：協議事項（星学祭模擬店参加の意向について） 第 4 回（6 月 23 日） 第 5 回（6 月 30 日） 第 6 回（7 月 7 日） 第 7 回（7 月 14 日）：協議事項（インターン活動の実施について） 第 8 回（7 月 21 日） 第 9 回（7 月 28 日） 第 10 回（9 月 22 日） 第 11 回（9 月 29 日）		

	第12回（10月6日） 第13回（10月13日）：協議事項（星学祭売上金の使い道について） 第14回（10月20日） 第15回（10月27日） 第16回（11月3日） 第17回（11月10日） 第18回（11月17日） 第19回（11月24日） 第20回（12月1日）：協議事項（キックオフ会でのピアサポバンク使用について） 第21回（12月8日） 第22回（12月15日） 第23回（12月22日） 第24回（2024年1月19日） 第25回（3月18日） 第26回（4月12日） 第27回（4月19日） 第28回（4月26日） 第29回（5月10日） 第30回（5月17日） 第31回（5月24日）：協議事項（倉庫の片付けについて） 提出時現在。
良かった点	・ 定例会の準備を役割毎に固定したことで自分のやるべき活動と認識ができるため、余裕をもって準備を行うことが可能であり、定例会の準備を行いやすい結果につながった。 理由：定例会の準備の際、三役内で、アジェンダ編集リンクの共有、アジェンダの投稿、アジェンダの印刷、と役割を固定で分担したため。 ・ 定例会の内容に応じて、人柄や役職を考えて司会を行う工夫をした。 理由：司会の進行は、基本的に三役内でローテーションだったが、協議事項や大切な情報を共有する際に、印象に残りやすくする工夫の一環として行ったため。 ・ 定例会の時間を使って、研修要素を取り入れ、組織内の知識、技能の成長を促した。 理由：定例会の内容が早く終わった際、余った時間を有効活用するために企画係やデスク、三役によるスキルアップを提供したため。 ・ 昨年度の定例会アジェンダから、今年度は打ち合わせ事項とスキルアップを追加した。 項目を作ったことで、伝えたい事柄をより明確に伝えることができ、定例会の活性化につながった。

	理由：昨年度までは、全て報告事項で賄っていたが、報告的内容ではないことも含まれており、定例会の活性化を目指し、見やすいアジェンダを作成するため項目を追加した。
反省点	・ 協議事項含め、様々な提案、報告を行った後に、メンバーからの質問がほとんどない。 理由：グループ間で、話し合うなどの方法は実施したが、実施したところで、何か質問が出てくるかと言えば、そうでもない。様々な意思決定が行われる中で、様々な疑問が出てきてもおかしくないが、一様に提案等に従うだけで、組織の決定としては、不安が残るため。 ・ 出席シートで記録しているが、活用ができていない。 理由：出席者と欠席者を把握することはできるが、有効な使い道を見出すことができていないため。 ・ 使い道を見いだせなかった。また、欠席者が目立つ日もあった。欠席者へのフォローは主に議事録を確認してもらうことで満たされるとはいえ、欠席者が本当に確認を行っているのかは、わからない。 メンションを付けるなど、より確認をしてもらう方法を考える必要がありそう。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 78 ）点
展望	定例会は議論を交わす場でもあるため、組織決定していくためにも、様々な疑問が解消された後に決定されることが望ましい。今年度は、組織決定は数回行われた一方で、満場一致がほとんどを占めた。しかし、なぜ賛成なのかについて、理由をきく機会を設けなかったので、理由を聞ける定例会ができると、提案側も参加側もより理解が深まる組織決定になるのではないか。方法としては、賛成派の人の中から指名し、理由を答えてもらう。また、理由を書くシートを用意し、メンバーに書いてもらうなどの方法があげられる。次年度は、組織全体の理解が深まる定例会を目指していく。 欠席者が目立つ定例会もあった。欠席者への情報のフォローは議事録をみってもらうことになるが、必ずみているとは限らない。そのため、確実な情報フォローを行うために出席シートを活用し、欠席者を把握したのち、Teams のメンション機能を使い、議事録の確認を促すことなどがあげられる。 欠席者が情報不足とならないようなフォローを行っていく。

活動名称	カウンターシフト		
日時	2023 年 6 月 12 日～2024 年 5 月 31 日		
場所	ラーニング・コモンズ		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	1～3 人（シフト制）
目的	・ 学生の学習や大学生活に関する相談に対応する。 ・ PC や文具セットなど学習に関する備品の貸し出しを行う。		
準備	・ 事前に Google フォームで希望調査をし、希望順を考慮しつつ、学科が重複しないようにシフトを組んだ。 ・ 定例会やスタートアップ研修で、カウンターシフトを実施するにあたっての心得をデスクから共有。		
実施内容	・ 自身が割り当てられたシフトの時間にラーニング・コモンズのカウンターに常駐し、相談者が来訪した際に、対応した。 ・ 対応の際には、相談対応記録用紙への記入を実施。 ・ パソコン等の備品の貸し出し業務。		
良かった点	・ カウンターシフト内での活動がメンバー間の交流のきっかけとなった。 理由：他学科同士が活動できるように意識したシフトを作成したため ・ 相談や備品の貸し出しの際には、迅速に対応し、学生の支援ができた。 理由：パソコンの操作を行う人、備品を持ってくる人などで分担ができていたため。 また、混雑しない時間帯のシフトは1人にするなど、1人でも活動を行いやすい体制づくりができたため。 ・ PS の予約など、デスクの方が必要な際には、迅速につなぐ役割ができた。 理由：メンバー各自が、ピアサポとして支援ができることと、ピアサポだけでは難しい対応を理解することができたため。 ・ 昨年度より利用者が多い。 理由：ピアサポやデスクの広報活動があり、それらの情報が学生に伝わったため。		

反省点	・ カウンターに来た学生が話しづらそうにしていることがあった。 理由：ピアサポ同士での会話、各自の作業に集中しすぎてしまう状況があったため。 ・ ピアサポ以外の学生が勘違いを起こして、カウンターではなく、デスクに直接足を運んでしまう。 理由：ネームを付けなくて、デスクを出入りするピアサポが、時々見られたため。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 80 ）点
展望	カウンターシフトの時間を通して、メンバー間の交流を促せた一方で、会話や各自の作業に集中してしまった結果、カウンターに来た学生が話しかけて良いのか迷っているケースが見られた。 迷っている学生にも気を遣って、一言、声をかけてみるなど、カウンターに来た学生が頼りやすい環境づくりを行っていく。 また、カウンターシフト外で、サポートデスクに入室する際に、ネームを付けていないと、ピアサポ以外の学生が入室してしまう問題があった。 定例会で、デスクよりこの旨の連絡があり、改善傾向にあるが、ネームの着用を面倒がって、怠ることが無くなるよう、ネームの着用を徹底していく。

活動名称	リーダーズ会議		
日時	2023 年 6 月 6 日・28 日、11 月 7 日・10 日		
場所	ラーニング・コモンズ		
対象者	北星ピア・サポーター 三役・各係リーダー	参加者数	6 人
目的	・ 三役と各係リーダーが活動に関する情報の共有、意見交換を行うことでピアサポ全体の活動を円滑にする。		
準備	・ 事前に議題の提案や日程調整、場所の確保を行った。基本的にラーニング・コモンズで対面で実施した。		
実施内容	・ Slack のリーダーズ会チャンネル/Teams のリーダーズ会チャットにて、係にメンバーが所属した場合は報告するというシステムにし、各係メンバー状況を把握できるようにした。 第 1 回(6 月 6 日) ・ スタートアップ研修（係スライドの進捗状況と係紹介、下見について） ・ 星学祭について ・ 各係の今後の予定 ・ 係の入り方の見直し 第 2 回（6 月 28 日） ・ 係体験会について ・ 星学祭当日の参加状況について 第 3 回（11 月 7 日） ・ キックオフ会でインターン生は宿泊するか ・ 総務人事係について 第 4 回（11 月 10 日） ・ キックオフ会（インターン生の宿泊、スケジュールについて） ・ キックオフ会の一部を企画係に協力してもらいたい		

良かった点	・ 三役からの依頼や各係からの依頼に対して、批判することなく、上手く行える方法を模索できた。 理由：提案について、賛同した中で各リーダーがどんな役割を担うべきかを考えて議論ができたから。
反省点	・ 日ごろから連携が取れている状況ではなかった。 理由：三役、各係で決定したことは、リーダーズ会に共有されることなく、定例会で報告されていたため。それらに対して、意見を述べる時も定例会時となってしまっているため。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 63 ）点
展望	リーダー同士で多くのコミュニケーションが取れたかというところではなかった。三役・各係で、決定した事項については、リーダーズ会で、共有を行ってから全体に共有ができると組織の重役で認められた情報が共有されることになるため全体に理解が得やすい。重役同士で困った際に、声を掛け合いやすい関係性を大事にしていくべきである。

活動名称	スタートアップ研修		
日時	2023 年 6 月 24 日、6 月 25 日		
場所	学生交流会館 kirari、ラーニング・commons		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	57 人
目的	1. ピア・サポーターとしての役割と自覚を認識する 2. 北星ピア・サポーターとして活動していく中で必要な基礎知識を身につける 基礎知識： ・ 「レスキュー」と「サポート」の違い ・ チームで活動するうえで求められるコミュニケーション・スキル ・ 企画書作成までの流れとポイント 3. ピアサポ活動を充実させていくための関係を築く		
準備	4 月 21 日(金)：1 日目の流れやセッション内容を決めた。 4 月 28 日(金)：1 日目のアイスブレイクと 2 日目のワークの案だしを行った。 集合時間と開始時間を確定させた。 スタートアップ研修の仮日程を slack の全体連絡で共有した。 5 月 12 日(金)：デスクの実施したいことと三役の実施したいことをすり合わせて確認をした。 研修日程の大まかな流れと内容・ねらいを共有した。 5 月 19 日(金)：2 日目ワーク「企画書つくってみよう」の流れと準備することについて確認した。 「係紹介」について実施方法と記載事項について考えた。 5 月 26 日(金)：2 日目ワーク「企画書をつくってみよう」の実施内容や方法についてデスクに相談した。 本学学長へ依頼する講演の日程を調整し研修 1 日目の日程を変更した。 各係リーダーに係紹介におけるスライド作成の依頼と内容事項について slack のグループチャンネルで連絡をした。(E) 5 月 29 日(月)：kirari の下見を行った。(キッチンや研修室などの確認) 本学学長へご講演いただく講演内容について三役で案だしを行った。 5 月 30 日(火)：本学学長への講演依頼メール文の作成開始 5 月 31 日(水)：本学学長への講演依頼メール文の添削指導（職員） →主に講演内容に関するアドバイスをいただいた。		

	6月2日(金)：本学学長への講演依頼メール文の添削指導（教員） →メール文の文章校正をしていただいた。 2日目第3セッション「2年目会振り返り」の実施内容や流れの確認と三役で準備することを共有した。 本学学長へ講演依頼メール文の送信（D） 6月3日(土)：本学学長からメールを受信 6月4日(日)：本学学長へ返信メールを送信（D） 6月9日(金)：2日目第4セッション「企画書をつくってみよう」の時間を決めるため、三役でデモ企画書を作成 6月14日(水)：松浦センター長へしおりの確認願いのメールを送信（F） 6月16日(金)：2日目第4セッション「企画書をつくってみよう」の具体的なグループ決め、テーマ決め、時間配分について話し合った。 6月21日(水)：資料の体裁確認、司会の分担決め、印刷資料確認 6月23日(金)：資料印刷、「企画書をつくってみよう」の時間配分決め、2年目ワークの詳細決め 松浦センター長へ完成版のしおりをメールで送信（F）
実施内容	6月24日（研修1日目） 研修開始前 ・ 研修で使用する資料の印刷・最終確認 12時00分～12時50分 ・ kirariへ物品移動 12時50分～13時00分 ・ 布団搬入 13時00分～13時30分 開会式（司会：D）13時30分～13時40分 アイスブレイク（担当：企画係）13時40分～14時25分 第1セッション「ピアサポを知ろう」（担当：職員、司会：F）14時30分～16時00分 ● ピア・サポートとは？（座学） ・ 基本的なピア・サポートに関する知識を身につけよう ・ これまでの活動やピアサポとしての役割を理解しよう 第2セッション「仲間づくりのコミュニケーション・スキル」（担当：本学学長、司会：D） 16時10分～17時20分 ● 仲間づくりにおけるコミュニケーション・スキルとは？ ・ コミュニケーションは全身的な活動 ・ 自己開示と説得

	・ 思いだけでは伝わり難い ・ コミュニケーションにはルールがある 第3セッション ● 学年、学科をこえて協力し楽しく交流しよう 17時30分～20時00分 ・ (1年目・アドバイザー)夕食準備 ● これまでを振り返り今後の活動に活かそう 17時30分～19時20分 ・ (2年目)1年間の振り返りと今後の展望 夕食(片付けの時間込み) 20時00分～21時30分 撤収 22時00分 6月25日(研修2日目) 布団片付け 8時00分～8時30分 朝食準備 8時30分～8時45分 朝食 8時45～9時30分 片付け(職員) 9時30分～ 第4セッション「チームで活かすコミュニケーション」(担当:教員、司会:F) 9時30分～12時00分 ● 協働するときのコミュニケーションについて理解しよう(座学) ・ ファシリテーションについて理解しよう(座学) ・ 会議時の役割を体験しよう(グループワーク) ピアサポ全体の年間目標を作ろう 昼食 12時00分～13時00分 片付け(アドバイザー) 13時00分～ 第5セッション「企画書をつくってみよう」(担当:三役と教員、司会:E) 13時05分～14時30分 ● 企画書はどのように作成するのだろうか?(学科グループワーク) ・ 企画書作成までの流れを確認する ・ 実際に企画書を作成してみよう kirari 撤収のための片付け・ラーニング・コモンズへ移動 14時30分～15時10分
--	---

	第6セッション「リフレクション」（司会：D）15時10分～15時30分 ● リフレクションシートの記入（個人ワーク） ・ この研修合宿を振り返ってみよう ・ 学んだことや感じたことなど今年度の活動に活かせることを考えてみよう 閉会式（司会：D）15時30分～15時40分
良かった点	・ 打ち合わせをするときに毎回目的やゴールを確認しながら進めることができた。 理由：会議の最初に目的やゴールを明確にし、それに沿って会議を進めることで、話がそれることがなく、有意義な会議を行うことができたため。 ・ 夕食づくりを通して1年目内の交流が深まったように感じた。 理由：夕食作りで交流する機会を作ったことで、そこで話す機会が増え、2日目の打ち解け具合が良い雰囲気を漂わせていたため。 ・ 主体的に動いてくれた人が多かった。 理由：各セッションのグループワークから食器の片付け、kirariの退去時まで、自分から「これやります」と言って動いてくれる人が多く、三役がすべてを指示しなくても動いてくれたため。 ・ 本学学長のセッションで質問が多くでて、ピア・サポーターが主体的に学べる環境を提供できた。 理由：本学学長の講義内容が興味深く、みんなが積極的に質問をして学んでいる様子を見ることができたから。 ・ 2年目セッションにおいて、1年間の活動を通して良かった点や改善点を話し合い今後の活動に活かせるアイデアがたくさん出たことが良かった。 理由：2年目だけで、じっくり話をする機会を設けたことで、ピアサポ活動についての考え、悩みを共有し、今後の展望を話し合うことができたため。 ・ 三役内の仕事を臨機応変に分担できた。 理由：臨機応変にできた理由として事前に研修の流れをしっかりと確認をしたことや、情報共有をマメにできたため。

反省点	・ kirari の場所を事前に共有する必要性があった。 理由：研修当日は kirari 集合にしたが、1 年目で kirari の場所がわからないという人が多く、ラーニング・コモンズに集合してから kirari に向かう層がいたため。 ・ 片付けの時間を考慮したプログラムを作成していなかった。 理由：食事をした後（1 日目夕食と 2 日目昼食）の片付けの時間や掃除をする時間をプログラムの中に組み込むことを忘れてしまい、当日急遽時間を作ることになり、他のセッションの時間を押してしまう原因となったため。 ・ kirari 内のみの研修だと昨年度と比べてメリハリをつけることが難しい。 理由：エアコンがない環境で集中がしづらく、ずっと同じ場所であることでリフレッシュがきかないため。 ・ 研修で必要な物品の準備が遅かった。研修 1 週間前までにはデスクと共有しておくべきだった。 理由：例えば 2 年目ワークで使用する模造紙を研修 3 日前にデスクと共有したことで、模造紙代を急遽準備していただくことになってしまったため。 ・ kirari 内のマイクやスクリーンの操作を三役全員で確認して誰でも対応できるようにするべきで、実際 2 年目ワークでプロジェクターにスライドが映らず、2 年目ワークのスタート時間が少し遅れてしまった。 理由：kirari の利用の予約が埋まってしまっていたことと、三役の講義の予定と合わず、三役全員での確認ができなかったため。 ・ 配布資料に文字のフォントや大きさなど統一感があればより見やすい。 理由：統一感がない資料を作成し、見づらい資料となってしまったため。 ・ 第 5 セッション内の手順をスライド化すればよかった。 理由：実際セッションを行う際に何から手をつけてよいのかわからない人がいたため、口頭だけではなく視覚的情報も必要だと考えたため。 ・ 三役個人の段取りを共有しておけばよかった。 理由：臨機応変に対応した反面、誰がどのような準備を行うのかを事前に把握することで、誰が指示を出すのか、誰が資料を配るのかといった役割を任せることができ、三役個人としてどのように動くかを判断しやすいため。 ・ 出席名簿があると人数が分かる 理由：全日程出席、一部出席など研修に参加する人数の変動が多かったため、人数確認・把握に時間がかかってしまったため。 ・ 清掃をする係を事前に決めていればよかった。
---	--

	理由：今回三役が急遽指示を出してみんなに臨機応変に動いてもらったが、事前に清掃担当を決めておけば、指示する手間が省けほかのことに時間をさけたため。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 73 ）点
展望	準備 研修に向けてデスクの職員とは、綿密に会議を重ね、プログラムの内容を確定させることができたが、必要物品の共有に関しては、研修の直前となってしまった。ピアサポの備品を借りる必要性もあったことから直前の必要物品の共有は、避ける必要がある。そのために、必要物品リストを作成し、必要な物品を随時書き込む形式をとって、研修の1週間前には、デスクとの共有を図る。そうすることで、デスクとの必要物品の共有ができ、三役も物品リストを見ながら準備をすることで、忘れ物がないかの確認もしやすい。 当日 kirari 内における研修のメリハリを向上させるために、スクリーンに時間を表示して個人が時間を気にしながら行動してもらうことを意識させ、アウトプット型の研修内容を増やし単調さを避けることが必要だと考える。また、食事の準備から片づけまでの時間はプログラム予定時間よりもかかったのも、次年度も食事を作る場合は昨年度よりもタイムスケジュールに余裕をもって行くと良いだろう。限られた時間の中でうまく進める一つとしてピア・サポーターの人数が多いので特に掃除や食事の片づけなど事前に役割分担を振っておくと手持ちぶさたになる人が減り、効率よく進めることができるだろう。

活動名称	キックオフ会		
日時	2023 年 12 月 9 日、12 月 10 日		
場所	学生交流会館 kirari、大学各教室		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	53 人
目的	1. 新入生説明会、なんでも相談会等のオリエンテーション期間に行う新入生企画の開催目的と活動内容を知る。 2. オリエンテーション期間を含む北星ピア・サポーターの活動目的や役割を確認し、価値観を揃え、同じ方向性を持って活動できるようにする。 3. 研修合宿という形で、メンバー同士の交流を図ることで、新入生説明会の準備から当日の運営に相互が頼りやすい関係性を築く。 4. 新入生説明会に向けた準備をスムーズに行うためにグランドルールを決める。 5. インターン生に北星ピア・サポーターの活動を知ってもらう。		
準備	10 月 11 日（水）：目的決め、イメージの共有・振り返り 10 月 13 日（金）：目的決め 10 月 22 日（日）：日程決め 10 月 25 日（水）：大枠について 11 月 7 日（火）：インターン生の宿泊について 11 月 10 日（金）：スケジュール、インターン生の宿泊、企画係への協力依頼 11 月 22 日（水）：日程、夕食、新入生説明会準備について 12 月 1 日（金）：しおりをセンター長に送信		
実施内容	12 月 9 日(研修 1 日目) 研修開始前 ・ 研修で使用する資料の最終確認 12 時 30 分 ・ kirari へ物品移動 12 時 45 分～13 時 00 分 ・ 布団搬入 14 時 00 分～14 時 30 分 アイスブレイク（担当：企画係）14 時 30 分～15 時 10 分 夕食作り 1 年目：15 時 20 分～16 時 30 分 2 年目：16 時 30 分～17 時 40 分 ・ 夕食作りを通して、学年・学科を超えたメンバー間の交流を促進する。		

ワーク①「今のピアサポについて話そう！」（担当：F）15時20分～16時30分

- 今のピアサポについて話そう
 - ・ 現在の北星ピア・サポーターについて話し合いを行い、北星ピア・サポーターの現状を確認する。そのうえで、2年目として、組織を支えていくために何ができるかを考える機会とする。

ワーク②「入学時の困難を考える！」（担当：企画係）16時30分～17時40分

- 入学時の困難を考える
 - ・ 入学時に困ったことは何か
 - ・ ワーク②の目的
 - ・ どんな支援があったら良いか

お楽しみ（担当：企画係）20時00分～20時30分

- 1日目の研修内容が終わり、お疲れ様の意を込めて。

撤収 22時00分

12月10日（研修2日目）

朝食 7時00分～8時30分

食堂・部屋片付け 8時30分～9時20分

大学 C501 教室へ移動・休憩 9時20分～9時30分

昼食作り 9時20分～11時30分

ワーク③「ピア・サポートを見つめなおす」（担当：職員）9時30分～10時30分

- ピア・サポートを見つめなおす（座学）
 - ・ 北星ピア・サポーターの役割と活動指針を確認し、現状の活動とのズレを修正する。

ワーク④「新入生説明会に向けて～グランドルールを決める～」
（担当：D、E）10時30分～11時30分

- オリエンテーション期間の活動内容を知る（座学）
- グランドルールを決める（学科グループワーク）
 - ・ 新入生説明会の開催目的について確認を行い、活動内容を共有したうえで、学科ごとにグランドルールを作成し、準備活動を始めるに際しての土台を固める。

	kirari へ移動・昼食 11 時 30 分～12 時 30 分 食堂片付け・大学 C501 教室へ移動 12 時 30 分～13 時 30 分 ワーク⑤「タイムマネジメントを身につける！」（担当：教員）13 時 30 分～15 時 10 分 ・ タイムマネジメントを身につける ・ 個人のスケジュールを見直し、時間の使い方や優先順位をつける。 ・ 学科メンバーで互いのスケジュールを共有し、新入生説明会準備に向けたスケジュールをたてる。 振り返り（担当：F）15 時 15 分～15 時 50 分 ・ 研修で行ったセッションや学んだことを個人で振り返り、今後の活動における目標をつくり共有をする。 閉会式（担当：F）15 時 50 分～16 時 00 分
良かった点	●準備 ・ 朝食、掃除の当番を前もって割り振れた。 理由：スタートアップ研修の反省から、事前に役割をふることで、手持ちぶさたになる人がいなく効率よく進めることができたため。 ・ スケジュールに片付けの時間を含められていた。 理由：スタートアップ研修の反省から、スケジュールに余裕をもって時間を設定したため、大幅に時間が延びることなく進めることができた。 ・ 出席簿に個々の参加できる時間など、細かい部分まで記載した。 理由：途中参加や途中退出、宿泊の有無などが把握しやすかったため。 ・ 短時間で効率よく、準備を進めることができた。 理由：準備時間は少なかったが、役割を分担することで自分の担当に集中し、効率よく準備をすることができた。 ・ 現状に合わせて、明確な目的をたてることができた。 理由：現状をしっかり把握しながら、今何が必要なのか、しっかり考えたため。 ・ プログラム通りに進めることができた。 理由：スタートアップ研修の改善点を踏まえることができたため。 ・ kirari の事前確認をきちんと行ったため、スムーズに行うことができた。 理由：トラブル時のデータ移行がうまくできたため。 ●当日 ・ 当日のお手伝いさんを募ったことで、研修のスタート時間に間に合うことができた。

	理由：お手伝いさんにも役割を振って、キラリにきたピアサポの誘導をお願いするなど、役割を振って、準備を行うことができたため。 ・ 2 年目ワーク（今のピアサポについて話そう）を実施したことで、2 年目の雰囲気ワーク後から急激に良くなった。 理由：2 年目で行うことを、全員が納得した状態で決定できたため。 ・ ワークを行う場所にスムーズに誘導ができ、掃除も担当が決められていたことで、全員が何かしらの役割につき、掃除をテキパキと行うことができた。 理由：しおりにワークを行う場所等の詳細と、掃除の分担票を作成したことで、全員が何を行うべきかを把握できたため。 ・ 当日の欠席がでて、臨機応変に対応することができた。 理由：出席名簿を作成し、当日も持ち歩いていたことで、誰が出席し、誰が何時に退出するのかを把握することができたため。
反省点	●準備 ・ 2 日目のワークに使うスライドを、ぎりぎりになって完成した。 理由：三役内、デスクの方に確認してもらった時間がとることができなかった。 ●当日 ・ 1 日目のワーク時の部屋の施錠に関して、一部の部屋に不便が生じた。 理由：部屋リーダーを、公務員講座に参加している人に指定していたため。 ・ 振り返りシートを回収しやすいような仕組みを取るべきだった。 理由：持ち帰らせる仕組みの振り返りシートのため、後日、DM で書いた内容を送ってもらう手間を取らせてしまったため。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 76 ）点
展望	●準備 今回のキックオフ会は組織の現状を大きく考慮した研修となり、4 月の準備に向けた研修味は薄くなってしまった。しかしながら、三役会議の準備段階から、組織の現状を踏まえてどんな研修にするのかを考えられた。その点で、研修ギリギリまで、内容面で悩み、準備がギリギリになってしまった。早めに準備できるものは早めに片づけ、即座に決めることができないことには時間を使えるように、来年度の企画・運営には期待したい。 ●当日 メンバーの参加状況を考慮し、部屋リーダーを決めるなど、細部に気を遣うことができると、急なアクシデントで時間を押すことはない。 次回のキックオフ会は、我々はアドバイザーという立場での参加になる。現役には、現役がやらなくても良いことはアドバイザーに任せ、研修に十分集中できる環境を作れるようアドバイザーを頼ってほしい。

活動名称	新入生説明会準備 進捗報告会		
日時	2024 年 2 月 9 日（金）10 日（土）		
場所	A703、C502 教室		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	37 人
目的	- 各学科の新入生説明会の準備状況を学科内、学年内と全体で共有する。 - 各学科の発表スライドや台本を共有し、第三者からアドバイスをもらい、自学科の発表の参考にする。 - 春休み中は定例会がないため、全体に関わる情報を共有する機会にする。 - 他学科の状況を知ること、スライド作成等への刺激を得る。		
準備	1 月 10 日（水）：三役会議を行い、実施する日程を考えた 1 月 16 日（火）：日程を確定した 2 月 5 日（月）：三役会議を行い、最終確認をした 2 月 8 日（木）：ワークシートの作成完了		
実施内容	- OneDrive に現在のスライド、台本をアップロードしてもらい、他学科のものを参考にできるようにした。 - 各学科から学科内、学年内に向けて新入生説明会のスライド、台本の現在の進行状況を共有した。 - グループをいくつか作り、準備するうえで気を付けたことや分からないこと、今後のスケジュールなどを話してもらった。		
良かった点	- 他学科と比べてみることで、自学科の進捗が分かりあせりを感じることができた。 理由：焦りを感じることで、より良いものを提供しようという組織内での競争意識が起これ、新入生説明会に向けての意識が向上するため。 - 他学科の進め方（ミーティングなど）が参考になった。 理由：学科内の情報を他学科に共有できる機会となったため。 - 発表姿勢の説明では、マイク等の備品について考えるよい機会となった。 理由：新入生説明会に向けた補足情報として、三役が行い、備品についても目を向けるきっかけとなるように実施したため。 2 年目内での話し合いを行うことで、中間リハーサル、最終リハーサルの参加率アップにつながった。		

	理由：話し合いの中では、支援の仕方などの悩みを話し合い、お互いにアドバイスを送った。後輩の活動に対する意識を向けるきっかけとなったため。 ・ 締め切りがあったことで、作業が捗った。 理由：スライドと台本の提出締め切りを設けたことで、作業を進めるきっかけとなったため。
反省点	・ 過去のスライドを見てみたかった。 理由：過去のものを参考にスライドをつくった学科もあったため。 ・ ワークシートを活用することができなかった。 理由：刺激を得る面で、スムーズな進捗をしている学科の準備方法をワークシートを用いて、共有しようとしたが、突出して準備ができている学科が見つからなかったため。 ・ 進捗報告会后に今後の予定やスライド作成をする作業時間を設けてもよかった。 理由：進捗報告会が終わったあと、すぐに解散する学科が多かったため。メンバーが集まれる機会を活かして説明会に向けた準備ができるとより有意義な時間になるため。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 73 ）点
展望	過去のスライドを参考にしている学科もあったことから、自学科の過去のスライドに限らず、他学科の過去のスライドも共有すると、より参考になる。共有のタイミングは、キックオフ会で出来ると一番良いタイミングだと思われ、過去の様々な学科のスライドを参考にできる機会を与えることは有効だと考える。 ワークシートに関しては、必ずしも必要なものではないが、進捗報告会までの振り返り要素もあり、他学科と共有する際に、思い出すことに活用できる。しかし、今年度は、ワークシートを回収した後に企画当初想定していた、突出した学科の方法についての共有ができなかった。 原因としては、ワークシートの内容の項目が多かったなど、書きづらさがあげられるが、他学科共有の際には、会話の中に方法についてアドバイスを求めている学科も見られた。それらを考えると、ワークシートは回収せずに、今までの振り返りもできつつ、今後の予定についても重点的に考え、今後も活用できるワークシートを用意すると、より有意義なものになるのではないかな。

活動名称	新入生説明会 中間リハーサル		
日時	2024 年 2 月 20 日（火）8:50～19:00		
場所	B405 教室		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	31 人
目的	・ 4 月の新入生説明会に向けて、現段階の発表を他学科メンバー、デスクに見てもらうことで、アドバイスをもらう。 ・ もらったアドバイスを比較、検討をすることによるスキルアップを目指す。 ・ 本番を想定し、通すことによって、新入生説明会を良くするための情報に気づく。		
準備	1 月 11 日（木）：三役会議にて、実施日を模索・決定 2 月 9 日（金）：中間リハーサル出欠アンケートを Google フォームを用いて実施、中間リハーサルに使用する備品を各学科に Excel を用いて記入 2 月 16 日（金）：三役会議にて、当日の分担、流れの確認、デスクに使用備品の共有、その他備品の準備、リアクションペーパーの準備 2 月 18 日（日）：当日の日程を全体共有 2 月 19 日（月）：録画機能のリハーサルを実施 2 月 20 日（火）：中間リハーサル当日		
実施内容	8：50-事務連絡開始 （三役・デスクより） ・ 目的確認、1 日の流れ、リアクションペーパーの説明を行った。 ① 社会福祉学科 ② 経済学科 ③ 英文学科 ④ 経営情報学科 休憩 ⑤ 生活創造学科 ⑥ 心理学科 ⑦ 短大英文学科 ⑧ 経済法学科 ⑨ 心理・応用コミュニケーション学科 終了		

	録画は、Zoom を使用。 デスクから学科ごとに録画の URL を配布行い、ピアサポ PC で録画を保存した
良かった点	・ 全学科を 1 日で行い、1 日で終わる良さがあった。 ・ 本番を想定した発表をすることができた。 ➤ 自分たちの発表をより客観的に捉えることができ、スライド・台本・話し方等に客観的な視点を取り入れることができた。
反省点	・ 内職している人（PC、リアクションペーパーを書いているなど）が多かった。 ➤ こちらから声をかけるといった対応をした。そのためか分からないが、リアクションペーパーの記載量が少ない人もいた。 ・ 2 日日程で行うと、学科内で日程調整がしやすいため、1 日で行うよりは発表順を選びやすい。 ・ 各学科で Zoom の URL を設定したため、準備時間にかなり時間をとってしまった。 ➤ 更新などで、つなぎ直しが必要になったため。三役全員が対応をできるようにしておきたい。 ・ 1 日日程だったため、参加できなかった人たちは全学科の発表を見ることができていない。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 72 ）点
展望	中間リハーサルに関しては、1 日日程で行ったが、1 日に集中して発表ができ、メンバーも予定を調整しやすい分、今回のように全学科の発表をすべてみる人は一部に限られるなど、全員でチェックできる体制がとれているかと言われれば、疑問に残る点もあった。次年度は、メンバーの参加率も考慮し、改めて 1 日で行うか 2 日で行うかを検討するのが望ましい。 内職をしているメンバーが今回目立ったので、発表順をランダムにするなどの対策を練る必要がある。

活動名称	新入生説明会 最終リハーサル		
日時	2024 年 3 月 18 日（月）19 日（火）8:50～17:50		
場所	A501 教室、生活創造学科のみ C702 教室		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	33 人
目的	・ 中間リハーサルでの反省点や改善点を踏まえて、より良い発表を目指す。 ・ 誤った情報提供がされていないかを全員で確認する。		
準備	1 月 11 日（木）：三役会議にて、実施日を模索・決定 3 月 11 日（月）：最終リハーサルの出欠確認を Google フォームにて、使用備品の調査を Excel にて実施 3 月 14 日（木）：三役会議にて当日の役割分担の決定 3 月 15 日（金）：当日の日程を全体共有、リアクションペーパーの準備完了、デスクに使用備品の共有、その他備品の準備（バインダー等） 3 月 18 日（月）、19 日（火）：最終リハーサル当日		
実施内容	3 月 18 日（月） 8 時 50 分～事務連絡開始 ・ 目的、当日の流れの確認 ① 経済学科 ② 社会福祉学科 休憩 ③ 生活創造 ④ 心理・応用コミュニケーション学科 ⑤ 定例会 3 月 19 日（火） 8 時 50 分～事務連絡開始 目的、当日の流れの確認 ① 経済法学科 ② 短大英文学科 休憩 ③ 心理学科 ④ 英文学科学科		

	⑤ 経営情報学科 終了 録画は、中間リハ同様 Zoom を使用。今回は、学科ごとに URL を分けることなく、1 つの URL を用いて行った。
良かった点	・ 中間リハーサルに比べて終日参加する人が増えた。 ・ 1 年目のフィードバックが積極的であった。 ➢ ふだん発言の少ない人からもフィードバックがあった。 ・ 時間割と同じタイムテーブルにしたことで、全体で無意識にタイムキーパーが出来ていた。結果的に、発言しやすい環境になっていた。 ・ 時間通りに進められた。 ➢ Zoom の録画を 1 本にしたことが時間短縮につながった。
反省点	・ 2 日間とも終日参加する人が少なかった。 ・ 印刷物を直前まで準備している学科があった。 ➢ デスクに印刷を頼むため、余裕をもって準備を進める必要がある。 ➢ 最終リハーサルという機会を設けている意味をもう一度考えてほしい。 ・ 中間リハーサルよりも機材トラブルが多かった。 ➢ 前日に機材設置等の準備を再確認しておく。 ・ 録画データの保存でトラブルが生じた。 ➢ 録画したものを保存するフォルダを事前に作成しておく。 ・ 学科によりフィードバックの時間に差があった。 ➢ 発表者の人数を決めると時間に差がでにくい、あまり時間制限を設けたくない。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 79 ）点
展望	フィードバック時は、毎回同じメンバーが発表してくれるなどフィードバック者の偏りが多かったので、全員 1 回は必ずフィードバックを行う形式をとることを検討。 最終リハーサル後の修正を行ったスライドや台本については、確認作業が不可欠。今年度は、この確認作業を怠ったため、誤った情報を提供してしまった学科が出てしまった。最終リハーサル後のスライド確認もオリエンテーション期間に向けた一つのイベントとして組み入れることは要検討する。 学部ごとに日付を決めて実施するなど案が出た。 新入生説明会に向けたリハーサルのイベントは全員で確認を行うことが重要である。そのために、どうして全員が参加するのかを理解してもらうために丁寧な説明と早めの日程の共有をしていくよう心掛ける。

活動名称	新入生応援 BOOK		
日時	2024 年 1 月 16 日(火)～2024 年 3 月 27 日(水)		
場所	新入生オリエンテーション資料に封入		
対象者	2024 年度 北星学園大学・北星学園大学短期大学部 1 年生	参加者数	—
目的	・ 新入生に北星ピア・サポーターのことやピア・サポーター主催の新入生説明会、なんでも相談会について知ってもらう。 ・ 公式 SNS や学科メールアドレスなど、北星ピア・サポーターの活動に興味を持っている学生や質問がある学生にとって役に立つ情報を発信する。 ・ 時間割作成のポイントや各学科の必修科目が入った時間割を載せて、時間割作成の混乱を軽減する。また、To Do リストを載せて、オリエンテーション期間のタスクを把握、管理できるようにする。		
準備	1 月 16 日(火)応援 BOOK を三役で担当することを決定 3 月 15 日(金)各学科に時間割作成の依頼 3 月 18 日(月)各学科に新入生説明会で必要なものを聞いた 3 月 22 日(金)1 年目チャット、2 年目チャットで協力してくれる人を募集して時間割を作成 3 月 25 日(月)職員に最終チェックを依頼 3 月 27 日(水)全学科分の応援 BOOK が印刷完了		
実施内容	・ 北星ピア・サポーターの活動等について、北星ピア・サポーター主催の各種イベントについての告知、時間割作成のポイント、To Do リストなどを記載した冊子を各学科分作成 ・ 新入生オリエンテーション資料として封入		
良かった点	・ Teams で作業を手伝ってくれる人を募集すると、学科学年問わず多くの人が手伝いに来てくれた点。 ・ 去年の時間割作成のポイントに加えて、今年は学科特有のポイントを学科に手伝ってもらい新しく取り入れた部分があったこと。 ・ ピアサポの活動の情報や、ピアサポが行うオリエンテーション期間の活動の日時と場所、時間割作成など、入学時に役立てることができる情報を 1 冊で得られる内容にすることができた。		

反省点	・ 学科メンバーを募らず、三役だけで作業をしたため仕事量が多かった。また、最初時間割作成のポイントも三役で行っていたため分からない部分が多かった。 ・ 準備にとりかかるのが遅かった。 ・ 職員に確認を依頼するのが遅くなってしまったこと。 ・ 「時間割作成のポイント」を学科に依頼して、それぞれの特色を書いてもらったが、書く内容に差が出てしまった。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 50 ）点
展望	・ 学科メンバーを募らず三役で作成をしたが、「時間割作成のポイント」は学科依頼すると効率よく進められると考えられる。また、「北星ピア・サポーターについて」はふだんから写真を管理している広報係に担当してもらうなど、全てを三役で作成するのではなく、分担したほうがよいと考える。 ・ 準備にとりかかるのが遅かったため、学科に依頼・職員に確認依頼をするのがぎりぎりになってしまった。そのため、担当メンバー内でスケジュールリングをして余裕をもった準備期間にしたい。

活動名称	なんでも相談会		
日時	2024 年 4 月 3 日（水）4 日（木）6 日（土）		
場所	大学 C 館 6 階ラウンジ		
対象者	北星学園大学・北星学園大学短期大学部在学学生	参加者数	558 人
目的	・ 学科ごとに不安や分からないことが多い新入生に向けて学習や大学生活について相談対応を行う。 ・ 留学や編入学、ゼミ選択など在校生に向けても相談対応を行う。		
準備	1 月 17 日（水）：なんでも相談会の開催日を決定 3 月 14 日（木）：なんでも相談会に向けた打ち合わせを実施 3 月 22 日（金）：Google フォームにて、出欠調査、対応可能項目調査を実施 3 月 28 日（火）：学科別履修ガイド、時間割、相談シートの印刷 4 月 1 日（月）：デスクに必要備品の共有 4 月 2 日（火）：なんでも相談会マニュアルブックを全体に共有、マニュアルブック印刷完了		
実施内容	4 月 3 日（水）・4 日（木）・6 日（土）：各学科で相談対応を行った。		
良かった点	・ 受付（Google フォーム）で対応した数が明確に記録された ・ 対応シートにより、相談内容が視覚化されるので、例えば、教職については教職担当を呼ぶといった準備をスムーズに行うことにつながった。 ・ マニュアルブックを作成し、誰がどの項目を担当できるかなど、ピアサポ内での連携やピアサポでの対応が難しい際の対応先につなぐ役割を全うできた。 ・ ピアサポ内のモチベーションアップを目的に満足度を聞くアンケートを実施した。グラフにカラーシールを貼る形式と付箋に満足したところやお礼を書いてもらう形式で行い、たくさんの人から高い評価をもらった。 ・ 学科によって相談に来る時間帯がバラバラだったが、混雑時には、経済学部によく割り振っていた教室をうまく活用するなど、学科間で連携を図った。		

反省点	・ 各学科の混み具合の関係で、受付をシフト通りには回せなかった。 ・ 時間割等数部だけを印刷したが、相談に来た人が持って帰ってしまうことがあった。 ➤ ピアサポが自分の PC を使って説明することになった。 ・ 新入生の時間割の完成形（最低でも入っているべき科目）を把握しきれていなかった。 ➤ 2 日目には新入生と同じ時間割を、教職を取る場合等の複数パターンを作成して、確認作業に利用した。 ・ 教職を取っているピアサポが引っ張りだこだった。 ・ 空いている時間帯に入れる講義について悩んでいる人が長居していた。 ➤ 家でもできるような内容だったため。 ・ 受付シートの内容を受付と各教室に行ったときに、結局同じ内容（詳細）を伝えなければいけない ➤ 単位のチェックだけ等、他学科でもできることなら手が空いている他学科に任せてもいいのではないか。 ・ 学科の教室に加えて、フリー教室を一部屋設ける。 ➤ 相談者がお互いに解決したり、単位を数えるだけの人たちの一時避難に使用するため。 ・ 相談に来た人の優先順位をつける ➤ 同じ学科じゃなくても大丈夫そうな人とか（資格、学科特有の悩み） ➤ 受付で相談内容をもう少し明確にする。 ・ 受付フォームは三役の Google アカウントだけではなく、他の Google アカウントも必要。 ➤ 回答の下書き状態になってしまうため
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 87 ）点
展望	・ 各学科のイベント（例：テストがある）で、相談会に参加する学科の時間帯と人数が偏るので、学科のイベントを把握し、特に英文学科と経済学科は参加人数が多いので、来る時間帯になったら、大人数が来ても対応しやすい環境を作っておくなど、学科別で時間ごとの対策をしても良いかもしれない。 ・ 今年度は待たせる学生を作ることが少なかった。その背景には、相談マニュアルや相談シートを活用した、学科間の連携が取れていたからだと考えられる。来年度以降もピアサポ内で連携できる仕組みが確立できると参加者にとっても無駄な時間を過ごすことが無い相談会となりそうだ。

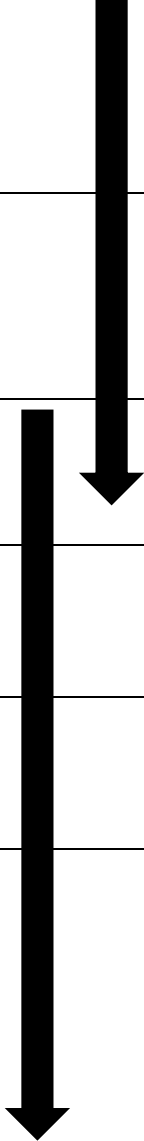
北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/ 5/23

学科・係名	総務人事係	
メンバー	1 年目	大川原未羽、吉田侑夏、戸沼祐水、山崎日和香
	2 年目	斉藤弥沙紀、白崎快、五十嵐聡汰
	アドバイザー	大久保秀哉、田中志帆、瀬川大輔
目的・目標	北星ピア・サポーターの活動を円滑に進める手助けをする。	
活動概要	・ スタートアップ研修 係紹介 ・ 定例会議事録作成 ・ 2023 年度 北星ピア・サポーターインターンシップ ・ 2024 年度 北星ピア・サポーター公募面接	
良かった点	・ 係メンバーが少ないことに加え、実習等で活動に参加できないメンバーがいる中、各世代の係メンバーが協力することで、インターン企画や公募企画を準備・実施することができた。 ・ 総務人事係でしか体験できない仕事にメンバー全員が取り組んだことで、各々のスキルアップに繋がった。 ・ 対面での係会議が難しい場合には、Zoom 等を用いてオンラインでの会議を実施した。	
反省点	・ 人数が少なかったことにより 1 人 1 人に割当たる仕事量が多くなってしまった結果、係活動を続けることが難しくなり、スキルアップできる機会が減ってしまう状態となってしまった。 ・ 三役との連携がうまく取れず、連絡不足になりがちだった。	
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 65 ）点	
展望	・ 係活動をより多く北星ピア・サポーターに知ってもらい、より多くの人 が係活動を通してスキルアップできる機会となるよう目指す。	

	・ より多くの人が参加することにより、相互の教え合いなど、係活動がより有意義なものとなるよう努力していく。 ・ 1人1人が係に参加しているという自覚を持ち、より積極的に係活動に関わることで充実した係活動を行うことができるよう係全体で意識していく。
--	--

年間スケジュール	
2023年6月	6月2日 第1回定例会議事録作成、新メンバーslack導入 6月9日 第2回定例会議事録作成 6月13日 第3回定例会議事録作成 6月20日 第4回定例会議事録作成 6月27日 第5回定例会議事録作成
7月	7月7日 第6回定例会議事録作成 7月14日 第7回定例会議事録作成 7月21日 第8回定例会議事録作成 7月28日 第9回定例会議事録作成
8月	
9月	9月22日 第10回定例会議事録作成 9月28日 第11回定例会議事録作成
10月	10月6日 第12回定例会議事録作成 10月13日 第13回定例会議事録作成 10月18日 総務人事係会議 10月20日 第14回定例会議事録作成 10月27日 第15回定例会議事録作成 10月31日 インターン生顔合わせ
11月	11月1日 インターン生顔合わせ 11月3日 第16回定例会議事録作成 11月10日 第17回定例会議事録作成 11月17日 第18回定例会議事録作成 11月24日 第19回定例会議事録作成

12 月	12 月 1 日 第 20 回定例会議事録作成	
	12 月 8 日 第 21 回定例会議事録作成	
	12 月 15 日 第 22 回定例会議事録作成	
	12 月 22 日 第 23 回定例会議事録作成	
2024 年 1 月	1 月 16 日 総務人事係会議	
	1 月 19 日 第 24 回定例会議事録作成	
2 月	2 月 9 日 進捗報告会議事録作成	
3 月	3 月 18 日 第 25 回定例会議事録作成	
4 月	4 月 12 日 第 26 回定例会議事録作成	
	4 月 19 日 第 27 回定例会議事録作成	
	4 月 22 日 公募面接	
	4 月 23 日 公募面接	
	4 月 24 日 公募面接	
	4 月 26 日 第 28 回定例会議事録作成	
5 月	5 月 10 日 第 29 回定例会議事録作成	
	5 月 17 日 第 30 回定例会議事録作成	
	5 月 22 日 第 31 回定例会議事録作成	
	5 月 29 日 第 32 回定例会議事録作成	

No.1

活動名称	スタートアップ研修 係紹介		
日時	2023 年 5 月 26 日 ～ 2023 年 6 月 24 日		
場所	Kirari		
対象者	北星ピア・サポーター 全員	参加者数	なし
目的	スタートアップ研修を通して総務人事係を紹介し係活動の認知度・参加率を上げる。		
準備	5 月 26 日：三役より係紹介の依頼文章が共有される。 5 月 28 日～6 月 19 日：スライド作成 6 月 19 日：スライド提出 6 月 24 日：スタートアップ研修 係紹介実施		
実施内容	・ スタートアップ研修「第 1 セクション ピアサポを知ろう」にて実施する係紹介にて、総務人事係の活動内容の紹介、新メンバー募集の旨の説明を実施した。 ・ アドバイザー中心に資料を作成した。		
良かった点	・ スライドができ次第すぐ共有するなど、スピード感のある準備を行えた。 ・ スライド作成に当たり、内容の相談を全員で行いながら作成を進めることができた。 ・ 対面で集まるのが厳しい中であったが、Slack や LINE を用いてお互いの進捗状況を確認することができていた。		
反省点	・ メンバーで集まる時間を取り共同で作業することが難しかったため、一部の人に任せることになってしまった。		
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 90 ）点		
展望	・ 役割分担を行い、1 人に当たるスライド作成の負担を軽減させる。 ・ 定期的に進捗を報告するなど、連絡を常に取りれる状況を作っておく。		

No.2

活動名称	定例会議事録作成		
日時	2023 年 6 月 2 日 ～ 2024 年 5 月 29 日		
場所	対面(A401・C702・A705) / Slack(定例会チャンネル)・Teams(定例会チャンネル)		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	各回による
目的	毎週行われる定例会の内容・協議事項の結果を確認・共有する。		
準備	・ リーダーが該当日の担当者を決める ・ 三役から共有されたアジェンダをダウンロードする ・ 定例会の録音をする ・ 議事録担当者が当日の議事録を記入する。		
実施内容	・ 定例会で共有された内容(発言者・発言内容・議決・締切など)を録音記録し、その後議事録として作成する。 ・ 作成された議事録を総務人事係内で添削を行う。 ・ 議事録作成後は次週定例会までに「総務人事係チャンネル/チャンネル」にて担当職員及び他メンバーで共有・確認 ・ 上記確認作業が終わり次第、「全体連絡チャンネル/チャンネル」にて北星ピア・サポーターへ共有		
良かった点	・ 議事録を作成するメンバーの順番を決めることで、均等に作業が割り当てられ各々のスキルアップに繋がった。 ➤ 定例会以外の場面でも、話を簡素にまとめる・メモを取る等のスキルを活かせるようになった。 ・ 議事録作成の担当者が急遽欠席した場合でも、臨機応変に対応できた。 ・ 三役から事前にアジェンダの Word 版を共有してもらっていた為、誰が書いても統一感のある議事録を作成することができた。 ・ 議事録作成・確認のマニュアルがあったため、初めて書く人でもマニュアル通りに書くことで困ることなく作成・確認することができた。		

反省点	・ 共有できていない議事録ができてしまったため、北星ピア・サポーターが確認できないものが出てしまった。 ・ 共有が遅くなってしまったものがあり、確認したいときに確認できないという状況を作ってしまった。 ・ 担当者を決め忘れてしまったことがあり、確認不足を実感することとなった。 ・ 全体へ議事録を共有した際のリアクションを定例会で促しているが、活動の後半になるにつれてリアクションの数が減っていった。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 80 ）点
展望	・ 今年度の定例会議事録では共有できていない議事録ができてしまった。そのため、北星ピア・サポーターが確認したい議事録を確認できない状況が発生してしまった。来年度はそのような状況が発生しないように、メンバー内でも確認・声掛けをし合いながら、北星ピア・サポーターの活動を円滑に進めるサポートができるような活動をしていく。 ・ 議事録作成は総務人事係内のキャリアアップの機会であるため、メンバーで均等に機会を持ち、各々がスキルアップできる環境になるよう配慮を続けていく。 ・ 議事録の書き方を全体で統一することによって毎回体裁が変わることなく統一感を持たせることにつながり、その結果確認しやすい議事録を作成できたように感じる。そのため、来年も体裁を統一させ、北星ピア・サポーターが確認しやすい議事録となるよう意識して議事録を作成していく。

活動名称	2023 年度 北星ピア・サポーターインターンシップ		
日時	【募集期間】 2023 年 10 月 10 日 ～ 2023 年 10 月 24 日 【任期】 2023 年 11 月 10 日 ～ 2024 年 1 月 19 日		
場所	【顔合わせ実施場所】 ラーニング・コモンズ PS エリア(対面実施)		
対象者	北星ピア・サポーター インターン生 (北星学園大学 1 年次生)	参加者数	8 人
目的	・ 1 年次生にピアサポの活動を知ってもらう。 ・ 1 年次生の間にインターン活動に参加してもらうことで、2 年次生以降も北星ピア・サポーターとしての活動を希望する学生を増やすことに繋げる。 ・ ピアサポ内外の企画に参加してもらうことでピア・サポートを理解してもらう。		
準備	8 月 31 日：総務人事打ち合わせ 10 月 10 日：募集開始(ポータルサイト・メール・SNS での告知、ポスター掲示) 10 月 24 日：募集終了 10 月 25 日：顔合わせについての日程調整メール送信 10 月 31 日：インターン生顔合わせ実施(Slack 導入) 11 月 1 日：インターン生顔合わせ実施 (Slack 導入) 11 月 10 日～2024 年 1 月 19 日：定例会出席 11 月 10 日～2024 年 1 月 19 日：カウンターシフト参加 12 月 9 日：キックオフ会参加 2024 年 1 月 19 日：任期終了 3 月 18 日～2024 年 3 月 19 日：最終リハーサル参加(希望者のみ) 4 月 3 日～2024 年 4 月 6 日：なんでも相談会参加(希望者のみ) 【作成物】 ・ 募集要項 ・ エントリーシート(Google フォーム) ・ ポスター(掲示用・Instagram 用) ・ 告知文(ポータルサイト・メール・SNS) ・ インターン生顔合わせ日程調整メール文 ・ インターン生顔合わせの際のスライド ～他係に協力依頼～ ・ キックオフ会インターン生向け企画(三役) ・ インターン生用名刺作成(広報係)		

実施内容	・ インターン生顔合わせ・Slack 導入講座(10 月 31 日、11 月 1 日) ・ 定例会への参加(11 月・12 月・1 月) ・ カウンターシフトへの参加 (11 月・12 月・1 月) ・ ピアサポ企画への参加「キックオフ会」 ※希望者のみ「最終リハーサル」「なんでも相談会」にも参加
良かった点	・ カウンター業務など、インターン活動を通してピアサポの活動を体験してもらう・知ってもらう良い機会となったこと。 ・ 研修やりハーサル、なんでも相談会など、普段ピアサポが行っている活動以外にも積極的に参加し、その中で現役メンバーとの交流・関わりを持てたこと。 ・ インターン活動をした 1 年次生から公募面接への応募があり、当企画の目的の 1 つを達成できたこと。
反省点	・ 学祭やぴあのわ等の他企画準備と当時の総務メンバー 2 年目の実習が重なり、当時の 1 年目メンバーでの準備がメインとなった。そのため、特に顔合わせについては昨年度の反省を活かしたものを実施することができず、前日・当日に慌てて準備することとなった。また、顔合わせを学科ごとに 2 日に分けて行ったが、現役メンバーへの連絡ミスで違う学科の現役メンバーが手伝いに来たことがあった。係メンバー間での情報共有に加え、現役メンバーへの連絡漏れについても確認する必要がある。 ・ 顔合わせの際、手伝いとして来てくれた現役メンバーの人数が、インターン生に対して多かったため、調整する必要がある。 ・ インターン生の活動内容の 1 つである「定例会」について、「入りにくい雰囲気だった」といった意見があったため、組織全体でインターン生を受け入れる雰囲気作りが必要である。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (80) 点
展望	・ 実習等がインターン準備期間と被ってしまう場合は、先を見越して早めに準備を進める。 ・ インターン生が活動に参加しやすい雰囲気を作るために、他学科の現役メンバーがインターン生と関わる機会を設ける等、組織全体で「インターン生を受け入れる」という意識を持つ。

活動名称	2024 年度 北星ピア・サポーター公募面接		
日時	2024 年 4 月 22 日 ～2024 年 4 月 24 日		
場所	ラーニング・コモンズ PS エリア		
対象者	北星学園大学 2 年次生 北星学園大学短期大学部 1 年次生	参加者数	7 人
目的	ピアサポの活動に意欲的な、北星学園大学 2 年次と北星学園大学短期大学部 1 年次を募集する。		
準備	1 月 16 日 総務人事係会議 3 月 8 日 公募面接ポスター・Instagram 投稿・メール文仮完成 3 月 12 日 募集要項確認 3 月 29 日 Instagram 投稿完成、ポスター完成、募集開始メール文完成・三役との会議 4 月 1 日 公募面接エントリー受付開始・ポスター印刷、掲示・日程連絡、合格通知メール文作成 4 月 3 日 面接官日程調整開始 4 月 10 日 公募面接エントリー〆切・ポスター撤去 4 月 11 日 面接日程仮決定 4 月 15 日 公募面接用教室用意・面接日程確定メール送信 4 月 16 日 質問・評価シート仮完成・エントリーシート印刷用意・面接日程変更メール送信・面接日程確定 4 月 17 日 面接台本作成・学科からの質問提出締め切り 4 月 18 日 面接台本作成 4 月 19 日 面接台本作成 4 月 22 日 面接資料印刷、公募面接 4 月 23 日 公募面接 4 月 24 日 公募面接 4 月 25 日 採用者決定会議 4 月 26 日 合格通知メール送信		
実施内容	実際に面接という場を設定し、これから一緒にピアサポ活動をしたいと考えている北星学園大学 2 年次の学生に志望動機や一緒に活動していくうえでの疑問を解消する場とした。		

良かった点	・ 活動できるメンバーが少なかったことに加え、早めの世代交代もあり、昨年度の公募面接の全容を知らない中で企画準備を進め、メンバー間や三役・サポートデスクと協力をし無事に実施することができた。 ・ 生活する中で中々体験できない「面接官」という立場を体験することができた。 ・ 今年度は各学科からも面接官を選出したことで、学科の意見も取り込んだ面接を実施することができた。 ・ 公募面接に関わるメンバー全員に一括で連絡ができるように Teams にて「公募面接チャット」を設立・ファイルの共有をしたことで、連絡漏れなどの伝達ミスが起こらなかった。
反省点	・ 企画の途中でリーダーを交代してしまうなど、無理してほかのメンバーに後々負担がかかってしまう状態となってしまった。 ・ 募集開始メールや公募面接当日に使用する資料の印刷などギリギリとなってしまうことが多く、職員の方に迷惑をかけることになってしまった。 ・ 議事録編集ファイルの共有が遅くなってしまったことにより、面接開始時間が遅くなってしまったことがあった。 ・ 応募者の目線に立って行うことができなかったため、ポータルの使い方が分かっていないうちに募集を締め切ってしまう可能性があるなど配慮に欠ける行動となってしまった。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 87 ）点
展望	・ 新メンバーが入学したばかりでポータルの使い方が分かっていなかったために応募できなかった可能性があるなど、応募者目線の配慮に欠けていたため、来年度以降は応募者目線で考えてから実施するよう心掛ける。 ・ 面接当日に、もう少し雰囲気を柔らかくする工夫をするなど、応募者がリラックスして面接に臨むことができる環境を作るよう心掛ける。 ・ 面接に協力していただいた学科のメンバーや三役の方たちにエントリーシートなどの共有が遅れてしまった。また、募集開始のメールや当日使用する資料の印刷などが、ギリギリとなってしまったため、もう少し余裕を持ったスケジュールで活動できるよう、自分がどれだけ今活動することができるかなどコミュニケーションをとりながら、無理せず活動できるようにする。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/5/24

学科・係名	広報係	
メンバー	1 年目	出口加奈子 飯村咲幸 小田島蒼 佐藤涼美
	2 年目	阿部かりん 小岩大志 山田楓
	アドバイザー	阿部舜平 菅原凜乃 高野大和 中村流星 西田架南 吉田峻人
目的・目標	北星ピア・サポーターの活動を学内外にアピールし、北星の学生へより良いサポートが提供できるようにする。	
活動概要	- 北星ピア・サポーター公式 Instagram や X（旧 Twitter）を用いたピアサポ活動の発信 ➤ 系のミッションとして「北星ピア・サポーターの活動を学内外にアピールし、北星の学生へより良いサポートが提供できるようにする」ことを掲げ、ピアサポ活動を通年で発信してきた。 - ピアサポ写真集の管理・運営 ➤ （北星ピア・サポーターの活動の様子を収めた写真の OneDrive 上の管理場所） - ネームや名刺、ポスター等のピアサポ活動に必要なものの作成を担ってきた。	
良かった点	◆全体について オリエンテーション期間でフォロワー数が増えたため、学内での北星ピア・サポーターの認知度が上がった。 会議や Teams、Slack により、コミュニケーションが増え、係内でのメンバーの現状確認が取れ、分担して行う作業など円滑に進めることができた。 ◆前年度から引き続き行っているもの ○ミーティング ミーティングが必要となったときに実施するようにしたため、効率的で有意義な話し合いをすることができた。また、日程調整を早めに行ったため参加者を増やすことができた。議事録は事前に OneDrive にて共有し、会議の内容を事前に周知することができた。 ○X（旧 Twitter）	

	フォロワー512名（2024年5月8日現在） 月1のまとめ投稿を継続して行うことができた。 ○Instagram フォロワー455名（2024年5月8日現在） イベントの報告など北星ピア・サポーターの活動だけではなく、学生に向けた投稿をすることができた。また、ストーリーでお知らせや現状を発信することにより、より身近な存在であることを示すことができた。DMでの相談対応では、マニュアルに沿って迅速に対応できた。 ○名刺 新規デザインにより、より多くの人にSNSを知ってもらえた。
反省点	◆全体について ○ピアサポ写真集 ピアサポカメラの使用を広報係が担うことが多かったため、ピアサポ全メンバー使用可能であることの周知が不足していたと思う。また、ピアサポ写真集の利用についても全体へ周知が不足しており、写真を使ってもいいかの相談が個人的にきたということがあった。対策としては、新年度だけではなく、ピアサポカメラやピアサポ写真集の使用が増えるタイミングで全体連絡や定例会でルールを改めて全体に伝えるといったことが考えられる。 ○ミーティング 会議に参加していないメンバーに議事録を見てもらうために、会議後に議事録をあげたことを再度報告する必要があったと思う。 ◆各活動について ○SNSの運営「1年間投稿作成を行って生じた課題」 ・X（旧Twitter） 投稿しても反応が少ない、また、フォロワーは北星ピア・サポーターのOB・OGの割合が大きい。まとめ投稿のために労力を費やしてもそれに見合う広報としての成果がみられなかった。対策としては、需要に合った投稿をする、タグを使用し検索によりひっかかるようにするといったものが考えられる。 ・Instagram 活動の報告系の投稿が多くなってしまった。そのため、投稿の案だしに時間をより割く必要があったと考える。ストーリーでの発信は自分たちの現状の発信が少なく感じた。より北星ピア・サポーターを身近な存在だと学生に認知してもらうためにも、より多くの発信が望ましい。

評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 95 ）点
展望	◆全体まとめ 来年度からは Instagram 一本で活動を進めるため、Instagram の機能を使っていくと良い。北星ピア・サポーターのアカウントはビジネスアカウントなので Instagram の機能にインサイトが利用できる。そこを利用して、フォロワーが Instagram をよく使用する時間に投稿するなどの小さな工夫をして認知度を上げていきたい。また、ピアサポの Instagram は何の為にあるのか改めて考え日ごろから自分たちの活動報告だけでなく役に立つ情報を発信していけるようにしていきたい。新体制から少人数体制になるため、各自の状況を互いに把握し活動量を考慮する必要がある。Teams を使うことで認知の差を埋めることができると考える。ミーティング内では、参加メンバーそれぞれから意見を聞きながら物事を進めていくことができたため、組織としての一体感はあったと感じる。各々の都合を考慮したためミーティングの回数が少なく、1 回ごとの内容が多くなったため、定期的な実施が好ましいと感じた。 OX（旧 Twitter）の立ち位置 X（旧 Twitter）を使用しない学生が多い、投稿しても反応がないという近年の傾向を考慮し、X（旧 Twitter）での投稿は止め、Instagram のみの運用とする。X（旧 Twitter）しか運用していない他大学との繋がりを残すためにもアカウントは残す。

年間スケジュール	
2023 年 6 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング なし ▼X ・ 5 月の活動まとめを投稿 ▼Instagram ・ 6/13 2023 年度任命式について投稿 ・ 6/16 北星学園大学「ぴあのお 2023in 北海道」について投稿、発信 ・ 6/23 定例会の様子を発信 ・ 6/24～25 スタートアップ研修の様子を発信

7 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング ・ 7/4 今後の Instagram の投稿 ・ 7/20 新メンバー顔合わせ ▼X ・ 6 月の活動まとめを投稿 ・ 心理学科による勉強方法を投稿 ▼Instagram ・ 7/3 大学内のおすすめスポットについて投稿 ・ 7/14 スタートアップ研修について投稿 ・ 7/18～26 心理学科による勉強方法について投稿 ・ 7/21 夏休みの過ごし方について投稿 ・ 7/14 7/28 定例会の様子を発信 ・ 7/19 7/27 「ぴあのわ 2023in 北海道」について発信
8 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング なし ▼X なし ▼Instagram ・ 8/31 就活に向けての投稿 ・ 8/16 8/23 8/30 「ぴあのわ 2023in 北海道」について発信
9 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング ・ 9/26 今後の活動について ▼X なし ▼Instagram ・ 9/6 9/13 9/20 9/22 9/28 「ぴあのわ 2023in 北海道」について発信 ・ 9/17 授業実施日を発信
10 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング ・ 10/17 ぴあのわに向けての予定確認 ▼X ・ 9 月の活動まとめを投稿

	・ インターン生募集について発信 ▼Instagram ・ 10/10 インターン生募集について投稿、発信 ・ 10/19 経営情報学科ゼミ説明会についての投稿、発信 ・ 10/24 星学祭について投稿、発信 ・ 10/4 10/11 10/18 10/21 10/25 10/27 「ぴあのわ 2023in 北海道」について発信 ・ 10/6 10/13 定例会の様子を発信 ・ 10/31 インターン生との顔合わせの様子を発信
11 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング なし ▼X ・ 10 月の活動まとめを投稿 ・ 経済法学科ゼミ相談会のお知らせを投稿 ▼Instagram ・ 11/9 経済法学科ゼミ相談会について投稿 ・ 11/15 インターン活動初回説明会について投稿 ・ 11/15 経済学科ゼミ相談強化週間について投稿、発信 ・ 11/24 「ぴあのわ 2023in 北海道」について投稿、発信 ・ 11/18 サポートーズフォーラムについて発信 ・ 11/24 北星学園大学学長新聞掲載について発信
12 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング ・ 12/12 Instagram 案出し ▼X ・ 11 月の活動まとめを投稿 ▼Instagram ・ 12/10 Supporters'Forum について投稿、発信 ・ 12/14 心理学統計法勉強会について投稿、発信 ・ 12/14 福祉計画学科ゼミ相談会について投稿、発信 ・ 12/22 キックオフ会について投稿、発信 ・ 12/19 英文学科ゼミ希望調査締め切りを発信 ・ 12/22 定例会の様子を発信 ・ 12/26 経済学科一次ゼミ選考の結果を発信

2024 年 1 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング なし ▼X ・ 12 月の活動まとめを投稿 ▼Instagram ・ 1/11 心理学科ゼミ説明会について発信 ・ 1/19 定例会の様子を発信 ・ 1/24 定期試験中止のお知らせを発信・ ・ 1/25 定期試験時間変更のお知らせを発信	
2 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング なし ▼X なし ▼Instagram ・ 2/9 進捗報告会の様子発信 ・ 2/20 新入生説明会中間リハーサル、新入生歓迎会の様子発信 ・ 2/28 「DOG s × 北星ピア・サポーター」の様子発信	
3 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング なし ▼X なし ▼Instagram ・ 3/28 関西大学研修 & 大阪経済大学交流について投稿 ・ 3/19 新入生説明会最終リハーサルの様子発信	
4 月	◆広報係活動内容 ▼ミーティング ・ 4/25 今後の活動について ▼X なし ▼Instagram ・ 4/1 新メンバー募集について投稿、発信 ・ 4/17	

	新入生説明会 & 新入生歓迎会 & なんでも相談会について投稿、発信 ・ 4/5 祝入学を発信 ・ 4/9 ラーニング・コモンズカウンター相談対応について発信 ・ 4/10 経済学科休講科目を発信 ・ 4/11 教科書販売のお知らせを発信 ・ 4/12 履修登録機関を発信
5 月	◆広報係活動内容 ・ 2023 年度活動報告書作成 ▼ミーティング ・ 5/10 新リーダー決定のための話し合い ▼X なし ▼Instagram ・ 5/22 時短ショートカットキー厳選について投稿

No.1

活動名称	ネーム作成		
日時	2023 年 11 月 1 日 ～ 2023 年 11 月 10 日		
場所	ラーニング・コモンズ		
対象者	インターン生	参加者数	8 人
目的	相談や説明会などのイベントで、コミュニケーションを円滑に行うため		
準備	○データ作成 →11 月 2 日～5 日でリーダーが作成 ○ネームホルダーの準備 →人数分在庫があるか確認 ○印刷用紙の準備（1 枚） →1 枚あたり 10 人対応可能		
実施内容	○ネーム作成の流れ ① 広報係の USB に入っている過去のテンプレートを、Web サイトのラベル屋さんに移行した。 ② インターン生の名前と用いられている漢字を確認した。 ③ テンプレートにインターン生の学科と学年を打ち込んだ。 ④ テンプレート完成後、広報係の USB にインターン生のテンプレートを取り込んだ。 ⑤ 取り込んだ USB をサポートデスクに渡して、印刷作業を行った。 ⑥ 印刷したネームの切り取り作業を行った。 ⑦ 切り取ったネームをネームホルダーに入れた。		



良かった点	・ スムーズに作成に取り掛かり、インターン生に渡すことができたこと。 ➤ すでに作成マニュアルとデザインがあったため。 ・ 作業を分担して効率的に作業できたこと。 ➤ Teams、LINE を用いてのコミュニケーションが活発であったため。
反省点	・ データ作成をリーダーが担ったため、1年目に作成してもらうことで来年度からの活動のためになるのではないかと考えた。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (100) 点
展望	・ データの作成、ネームの印刷は未経験のメンバーも含めて実施することが大事だと考える。

No.2

活動名称	名刺作成①・②		
日時	①2023 年 10 月 19 日 ～ 2023 年 11 月 1 日 ②2023 年 3 月 16 日 ～ 2023 年 4 月 6 日		
場所	ラーニング・コモンズ		
対象者	北星学園大学全学生	参加者数	なし
目的	他大学との繋がり向上、また、円滑な相談へと繋げるため		
準備	○新規デザイン考案 →10 月 19 日、現役メンバーとアドバイザーにより新デザイン考案。係内にて承認後、全体に確認をとる。 ○名刺用紙在庫確認 →不足分は発注。 ○データ作成 →係メンバーによりデータ作成。		
実施内容	○名刺の印刷と切り取り ① 11 月上旬、リーダーが名刺の印刷を完了した。ぴあのわ当日に用紙から名刺を切り取り、全員に配布。 ② 3 月下旬、リーダーが名刺の印刷を完了した。新入生説明会当日に用紙から切り取り、全員に配布。		
良かった点	・ SNS の QR コードを表面に記載したことにより、SNS の認知が広がった。 ➢ わざわざ裏面を見る手間を省き、効率的なデザインにしたため。 ・ 大きなトラブルなく、印刷・配布できた。 ➢ 話し合いや相談がしやすい環境であったため。 ・ メンバー内で役割分担したおかげでスムーズに作成に取りかかることができた。		
反省点	・ 文字のずれや間違いがあった ➢ 確認不足、テンプレートの使い方の共有が十分ではなかった。		
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (90) 点		
展望	・ 名刺のデザインは状況に合わせて変えていくのが望ましい。		

活動名称	X 運用		
日時	2023 年 6 月 1 日 ～ 2024 年 5 月 31 日		
場所	X(旧 Twitter)上		
対象者	北星学園大学全学生	参加者数	なし
目的	北星ピア・サポーターの活動（企画・定例会・新入生説明会等）を北星学園大学の学生に広報すること		
準備	・ 投稿文章の作成 ➤ 担当者が文章を作成する。 ・ 必要に応じた画像の用意 ➤ 投稿内容に関連する画像やポスターなどを用意する ・ 画像に写っている人への掲載許可の確認 ➤ 事前に行った写真使用のアンケートに基づいて、写真を使用した。（アンケートに回答していない人物に関しては、Teams や LINE、口頭等で許可を取って使用） ・ 投稿内容の確認 ➤ 作成した投稿を Teams に載せ、係メンバー・学習サポートデスクの職員と教員から添削・許可を得て投稿		
実施内容	上記の流れを行った後に担当者が X 上での投稿を行う。投稿内容としては、ひと月ごとの活動まとめ・ピアサポの各企画の宣伝・年度間の活動開始の宣伝などがある。		
良かった点	・ 投稿内容を考案し添削や確認作業も係メンバーが行う ➤ 実際に係のメンバーが作業に参加することでデザイン作成の技術を学ぶことができたり、メンバー同士で行うことで互いの意見交換ができたりするため ・ 投稿文章を簡潔にまとめなるべく画像で情報を伝えられるよう工夫したこと ➤ 情報が一目でわかることで理解しやすい		

反省点	・ X 上では、まとめ投稿のみの情報発信が主となってしまったこと ➤ Instagram でも閲覧できる情報のため、あまり必要性がない ・ X の使用者が減ったこともあり、フォロワーが伸び悩んでいた ➤ Instagram に力を入れていたことで、X の投稿がまとめ投稿が多くなってしまうことが挙げられる。（学生目線にとってあまり役立つ情報が載せられなかった）
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 75 ）点
展望	・ 会議の参加数があまり良くなかったのなるべく前年度より多く会議を実施しメンバーとの意見交換やモチベーションの確認をすることが必要。 ・ X は使用者数も減ってきており、Instagram に力を入れるという点から広報系の投稿は廃止し、質に焦点を当てる。 ・ しかし X にて他大学との交流をする場合もあるためアカウントは継続する。

活動名称	Instagram 運用		
日時	2023 年 6 月 1 日 ～ 2024 年 5 月 31 日		
場所	Instagram 上		
対象者	学内外の学生	参加者数	なし
目的	北星ピア・サポーターの活動を学内外へ発信することによる組織の認知度の向上と、日常的な活動やライフハックを届けることで親近感の構築を図る		
準備	投稿のフロー 投稿するアイデアの発案 ↓ 投稿文章の作成＋使用する画像の用意・加工 ・ 投稿内容に関連する画像やポスターなどを用意する ・ 画像に写っている人への掲載許可の確認をとる。北星ピア・サポーターの所属メンバーに関しては、事前に行った写真使用のアンケートに基づいて、写真を使用した。（アンケートに回答していない人物に関しては、slack や Teams、LINE、口頭等で許可を取って使用） ↓ 投稿内容の確認 ・ 作成した投稿を slack・Teams に載せ、係メンバー・学習サポートデスクの職員と教員から投稿内容の不備や間違いがないか確認を依頼 ・ 修正点やアドバイスがある場合は、修正後再度確認を貰う。投稿の許可を得るまで、修正と確認を繰り返し行う。 投稿のフロー及びマニュアルをもとに作成し、担当者が Instagram 上での投稿を行う。 <u>今年度作成した投稿数 20</u> （2024/05/07 時点）		
実施内容	○投稿内容について ●今年度投稿した内容(心理学科の投稿を除く) 活動報告 ・ 任命式(6/13) ・ スタートアップ研修(7/14) ・ 星学祭(10/24) ・ 2023 年度インターン活動初回説明会(11/15) ・ ぴあのわ 2023 in 北海道(11/24)		

- ・ Supporter's forum(12/10)
- ・ キックオフ会(12/22)
- ・ 関西大学&大阪経済大学交流(3/28)
- ・ 2024 年度新入生説明会・新入生歓迎会・なんでも相談会(4/17)

告知

- ・ ぴあのわ開催について(6/16)
- ・ インターン生募集 (10/10)
- ・ 経営情報学科からのゼミ説明会のお知らせ (10/19)
- ・ 経済法学科からのゼミ相談会のお知らせ (11/9)
- ・ 経済学科からのゼミ相談強化週間のお知らせ (11/15)
- ・ 心理学科からの心理学統計法勉強会のお知らせ (12/14)
- ・ 福祉計画学科からのゼミ相談会開催のお知らせ (12/14)
- ・ 北星ピア・サポーター新メンバー募集(4/1)

ライフハック・学生生活

- ・ 大学内のおすすめスポット(7/3)
- ・ 夏休みの過ごし方(7/21)
- ・ 就活に向けてのファーストステップ (8/31)

●ストーリー機能の活用

前年度に引き続きフォロワーへの情報提供として、リアルタイムの配信や質問を行えるストーリー機能を用いた。

メリットとして→なんでも相談会の際に現在の空き状況を伝えること。当日行う説明会などの告知をリポストして、見逃した学生に伝えることができる。

●ハイライト機能の活用

ストーリーの投稿は 24 時間で消えてしまうために、前年度からハイライトを作成して残すこととした。

メリットとして→ 見逃した情報を再度確認できる。

現在までのハイライト 6 個

- ・ 新メンバー募集
- ・ ぴあのわ
- ・ 学外研修 (学外で行った他大学交流)
- ・ ピアサポとは (広報系の活動の様子)→今後は他の係紹介やより多くの活動風景を載せていく。
- ・ ピアサポの日常 (定例会などの日常的な活動を主に発信)

	○さんの1日（通常投稿の「○さんの1日」をNew Postとしてストーリーで再投稿したもののまとめ） ●DM 対応 ○学内：履修登録に関して、ピアサポ主催のイベントに関して寄せられた質問に対し回答 件数：学生 16 名、3 団体（5/7 まで） ○学外：他大学と情報共有 件数：16 大学（5/7 まで）
良かった点	○投稿づくり - 活動報告は各イベントで行えていたの、大学外の組織へ自身の活動を伝えることができた - この Instagram のアカウントがあることで各学科が行うゼミ説明会などの告知ができるため、より多くの学生へ伝えられる ○DM 対応 - ラーニング・コモンズが空いていない時間帯または学生が対面で行うことができない場合に対応することができた - 質問を適切な学科やピア・サポーターに共有して、正しい情報を返答できた。
反省点	- 本学生へのライフハック紹介など学生生活に関する投稿はあまりできなかった。心理学科の投稿に頼ってしまった期間もあった。 - 活動報告系の Instagram 投稿を作成するのに 1 か月以上かけてしまい、適切な時期にアップできなかった。 - 個人で投稿案を企画して作成する機会が少なかった。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 70 ）点
展望	- Instagram の投稿は Canva というアプリを用いています。そのアプリの使い方をあまり教える機会を作れず、作成方法に苦戦し投稿頻度も少なかったの、初回の投稿作成には Canva 講習などをして投稿作成の流れを掴んで投稿頻度を上げたいです。 〇〇さんの一日紹介の企画を全学科分作成し投稿をしたいと考えています。

活動名称	ピアサポ写真集		
日時	2023 年 6 月 1 日 ～ 2024 年 5 月 31 日		
場所	なし		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	広報係全員
目的	北星ピア・サポーター内で活動の様子を写した写真を共有するため		
準備	・ OneDrive 上にアップロードされているピアサポ写真集更新マニュアルを確認 ・ 今年度のピアサポ写真集更新担当者の順番を決定 ・ 北星ピア・サポーターに向けて写真の使用許可をもらう		
実施内容	・ 基本的にピアサポカメラでイベントやミーティングの様子を撮影 ・ （広報係のみで撮影するのが難しい場合にはスマホアップロードを北星ピア・サポーター全体に呼びかけ、別のフォルダに分けてピアサポ写真集へアップロード、今年度の場合ぴあのわとオリエンテーション期間） ・ 更新担当がピアサポ写真集更新マニュアルを参考にしながら前回の更新日以降～最新の写真までをアップロードし、適切なフォルダへ分ける ・ Teams 雑談チャンネルにてピアサポ写真集の更新と次週の担当者を投稿 ・ 定例会の係連絡でピアサポ写真集の更新を再度報告		
良かった点	・ 昨年度から継続してファイル名に月日、活動名、を記載したことにより、振り返りしやすくなっている。 ・ 昨年度から継続して OneDrive へのアップロードを当番制にしたことにより、定期的な更新がされることで直近の活動の写真も閲覧、使用が可能となっている。 ・ 広報係以外の北星ピア・サポーターに撮影を依頼し、ピアサポ写真集のアップロードに貢献してもらったこと。		

反省点	・ ピアサポカメラのデータ枚数が膨大な量になってしまったので、随時消すなど決まりを見直したい。 ・ ピアサポ写真集のフォルダ分けの際にフォルダの誤りがあったので、更新報告前に複数人で確認をしていきたい。 ・ ピアサポ写真更新マニュアルがわかりづらかったため、その改善
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 90 ）点
展望	・ 活動で写真を使用したり、写真を見て過去の活動を振り返ったりできるようにこまめに撮影するよう全メンバーで意識した方がよい。

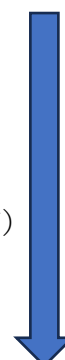
北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/05/27

学科・係名	企画係	
メンバー	1年目	中村恵和
	2年目	堀川香奈、相内詩渚、小木曾ゆり、成田歩未、伊藤皓紀
	アドバイザー	小倉幹司
目的・目標	・ 学生に対する北星ピア・サポーター全体での企画や北星ピア・サポーターのメンバー同士のチームワークを高める企画を立案する ・ 学生をサポートするために必要な知識とスキルをアップさせ、北星ピア・サポーターの資質向上を図る企画を立案する	
活動概要	・ スタートアップ研修 ・ キックオフ会（アイスブレイク、ワークの進行） ・ →ピアサポ内におけるチームワークを高めるとともに、グループワークを円滑に進めるための雰囲気づくりを行なった	
良かった点	・ 会議や打ち合わせの場では発言しやすい雰囲気があり、一人ひとりがしっかりと発言していた ・ 活動的なメンバーが多く積極性が高いので役割分担を早く行うことができた ・ 一人だけに作業が偏ってしまうことがなく、全員がほとんど均一の仕事量であった ・ ごたつきや無駄な時間がなかった ・ 一人ひとり当事者意識をしっかりと持ち、会議や打ち合わせまでの課題をしていた ・ 全員のキャパシティを考え、無理な活動をせず活動が行いやすく自分自身の生活が犠牲になることが少なかった ・ 難しいことや苦手なことを事前に共有し全体を見通した計画を立てることができた ・ 無理に活動を広げることをしなかったため、やると決めた企画は投げ出すことなく最後まで完遂することができた ・ 交流だけでなくスキルアップにも目を向け企画を提供することができた ・ 他の係と連携し定例会内でワークを提供したり、系の体験をしたりなどすることができた	

反省点	・ 活動行っている時期と行っていない時期に差があった ・ 活動が少なかった ・ 集まりのある日に学校がないことが多く、会議にあまり参加できなかった人もいる ・ 去年度は生活に余裕がある 1 年目が多かった一方で、今年度は私生活が忙しい 2 年目が多かったため積極的に新しい企画を立案することができなかった ・ 三役との連携が取れていなかったため企画係と三役で企画係への認識の差が生じた
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 70 ）点
展望	・ 教員と作る研修プログラムに積極的に関わっていく ・ 一時的に忙しくなる活動が多かったが、継続的な活動がしたかった ・ 企画としてぴあのわなど北星ピア・サポーター以外の方がいる場合でも企画を提供できれば良かった ・ 1 年目の企画係のメンバーもっと増やす ・ 企画係だけの定例会を実施し係内で定期的に会議を行い情報共有の場を設ける

年間スケジュール	
2023 年 6 月	・ 6 月 8 日（木） 新体制 （①係体制、②研修での係紹介、アイスブレイク、③学祭について） ・ 6 月 15 日（木） 研修での係紹介の準備 （アイスブレイク、スライド確認） ・ 6 月 19 日（月） 企画係として学祭にどこまで携われるか？ ・ 6 月 21 日（水） kirari 下見（声の聞こえ方、文字のサイズなど） ・ 6 月 22 日（木） 研修のリハーサル（研修前ラストの会議） ・ 6 月 24 日（土） 研修（アイスブレイク、係紹介）
7 月	・ 7 月 3 日（月） 学祭会議 ・ 7 月 4 日（火） 企画会議 研修の反省会、学祭について ・ 7 月 10 日（月） 学祭の分担について（どこまで企画係がやるの



	か)
8 月	
9 月	
10 月	・ 10 月 30 日(月) 企画係として後期どのような活動を行うか
11 月	・ 11 月 6 日(月) 研修のアイスブレイク、ビンゴ大会について (三役から提案のあったスケジュール決め、アイスブレイクの内容など) ・ 11 月 13 日(月) アイスブレイクの内容決定 ・ 11 月 27 日(月) 進捗報告 ・ (歌詞ゲーム、人間ビンゴ、三役ワーク、ビンゴ)
12 月	・ 12 月 4 日(月) 最終確認 (準備するもの、グループ分けなど) ・ 12 月 9 日(土) 研修 (アイスブレイク、三役ワーク、ビンゴ) ・ 12 月 18 日(月) 反省会
2024 年 1 月	
2 月	
3 月	
4 月	・ 4 月 23 日(火) 全体の反省会
5 月	



活動名称	スタートアップ研修（アイスブレイク・夜アイスブレイク）		
日時	6月24日（土）		
場所	kirari		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	55人
目的	・ スタートアップ研修で北星ピア・サポーター同士の交流をはかるため ・ 北星ピア・サポーター同士の趣味や個性などお互いに知り合い、仲を深めるため		
準備	6月8日(木) 企画係会議 アイスブレイク決め 役割分担 6月9日(金) アイスブレイクのルールの共有 6月15日(木) 台本の共有 アイスブレイクのスライド共有 係スライド共有 6月19日(月) 係スライド提出 6月24日(土) 本番		
実施内容	■昼の部 私はだれでしょうゲーム、言葉の並び替え、〇〇といえど？ゲームの3つを行った。 学科ごとにグループを組み、メンバーで答えを考え、話し合うことで交流を促した。 ■夜の部 企画係クエストを行った。今後の交流を図るため、企画係のメンバーの趣味やあまり知られていない個性をクイズにした。		
良かった点	・ アイスブレイクの内容、スライド作成がスムーズに進められた。 ・ 早期に役割分担をし、期限を守って準備をすることができた。 ・ お互いを知る機会になった、交流ができたという声を聴くことができた。 ・ 毎週木曜日と金曜日に定期的に状況報告する機会を設けた ・ 役割分担をし、各々任された仕事を全うしただけでなく、会議で共有してさらにブラッシュアップをしていた。 ・ 大きなトラブルなく終えられた。 ・ 利用した PowerPoint のアニメーションでさらにゲームを盛り上げることができた。		

	・ 企画リーダーの希望に沿った係紹介のスライドを作成することができた。 ・ 司会者は臨機応変に対応し、盛り上げることができた。
反省点	・ 夜のアイスブレイクは時間が押したため、人間ビンゴを行うことができなかった。 ➤ 夕食後は時間が押している可能性が高いので、企画を詰め込みすぎないようにする。 ・ 研修前 PC と TV の接続がうまくいかず、時間を取ってしまった。 ➤ 予め本番で使う PC でリハーサルする。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 99 ）点
展望	・ 人員不足解消のため企画系の魅力をもっと発信できることをプラスした企画をすると良いかもしれない。 ・ 夜のアイスブレイクで予定していた企画は、以前 kirari 交流企画として用意されたアイスブレイクを一部改変して利用した。アイスブレイクの案に詰まったときは、以前の企画を改変したり、実施できなかったアイスブレイクを検討したりするとよい。

活動名称	キックオフ会（昼・夜アイスブレイク）		
日時	12月9日（土）		
場所	kirari		
対象者	北星ピア・サポーター	参加者数	53人
目的	新入生説明会・歓迎会に向けた北星ピア・サポーター同士のさらなる交流促進 インターン生と北星ピア・サポーターとの交流をするため		
準備	11月6日（月）キックオフ会 研修のアイスブレイク、ビンゴ大会について 11月13日（月）アイスブレイクの内容決め 11月27日（月）進歩報告（歌詞穴埋めゲーム、人間ビンゴ、三役ワーク、ビンゴ） 12月4日（月）最終確認（準備するもの、グループ分けなど） 12月9日（土）本番 12月18日（月）反省会		
実施内容	■昼の部 人間ビンゴ 〈ルール〉 1～24のお題が記入されている紙を配布 1～24の数字を紙にランダムに書いてもらう お題についてお互い質問しあい、一致した際にチェックと名前を書いてもらう ※同じ人から何個もサインはもらえない あの子サインしてくれるよ！と教えてはいけない 自分のビンゴカードを見せたり、相手のビンゴカードを見たりしない 質問は1ペア1つまで 歌詞穴埋めゲーム 〈ルール〉 グループで話し合い（交流）しながら歌詞を当ててもらう 歌詞の一部が○(あな)になっているため、○に当てはまる歌詞を考える 三択問題（選択肢なしの問題もある）		

	■夜の部 ビンゴ大会 参加者にビンゴカードを配布 F が司会進行を行い、B、E が景品を贈呈
良かった点	今回の活動でよかったところとその理由を書きましょう。 ・ 準備の早い段階から役割分担が明確にできた ・ 原稿を用意しなかったが、高いクオリティでスムーズに進行することができた ・ ビンゴの時に、参加者にも引いてもらったのが好評だった ・ 臨機応変に対応（ビンゴのガラガラを回して参加者に引いてもらう、PowerPoint から音楽が流れない時に他の媒体から再生するなど）できたのが良かった
反省点	・ 歌詞穴埋めゲームの時に曲を流そうとした際に、ネット環境が悪かったため PowerPoint から直で流せなかった
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 99 ）点
展望	・ 1 年目やインターン参加者が、企画係に入って一緒に企画したいと思われるような企画を運営する ・ 当日の企画運営で事前にアンケートを取り、企画係に興味がある人が運営を体験できるような企画があってもいいかもしれない

学科

北星学園大学および北星学園大学短期大学部における各学科の活動について、以下に報告します。

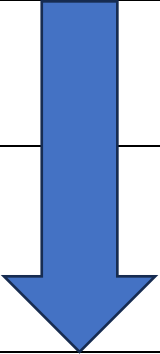
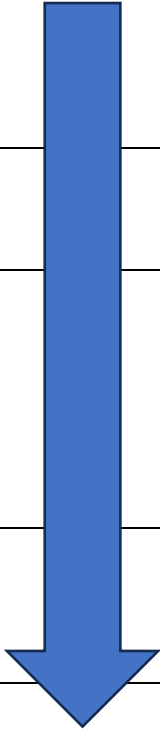
北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/05/11

学科・係名	英文学科	
メンバー	1 年目	飯村咲幸 加藤千弥 佐藤涼美
	2 年目	五十嵐 聡汰 今泉 瑠菜
	アドバイザー	後藤あずさ 関口 実桜 嵯峨綾乃
目的・目標	目的:北星学園大学文学部英文学科に所属する学生が大学の諸システムに苦戦することなく、自らの学びや活動に専念できるよう支援する。 目標:北星ピア・サポーター英文学科として実施する全ての活動で、各構成員が満足 of いく過程と結果を実現する。	
活動概要	ゼミ冊子 3 年次から所属するゼミの選択サポートとして実施 対象者：4 大英文学科 2 年次学生、短大英文学科 2 年次学生 主な活動メンバー：D、E、A、B、C 活動期間：10 月 17 日（初回ミーティング）～12 月 9 日（ゼミ冊子掲載） 新入生説明会 1 年生の不安を解消するためオリエンテーション期間に開催 対象者：4 大英文学科新入生 主な活動メンバー：D、A、B、C 活動期間：12 月 10 日（キックオフ研修内で初回ミーティング）～4 月 2 日（開催）	
良かった点	・ 1 年目が意思発信する場面が多かったこと。 ・ 1 年目と 2 年目の関わり方に良い方向で変化があったこと。具体的には、ゼミ冊子時期には一方的なタスク処理を 2 年目が行うことが多く見られたが、新入生説明会時期には 1 年目が主体となり全ての意思決定と実施をするようになった。2 年目の立場がこの時点でアドバイザーのそのように変化していったことは今後の活動にも役に立つ学びがあった。 ・ 2 年目が過去の作成物を OneDrive 上にアップロードしていたり、1 年目に共有したことで 1 年目の活動計画に具体性が生まれたり、有意義なミーティングができた。	

反省点	・ 学科の企画の実施が少なかった ➤ ピアサポの視点を生かして英文学科の学生に寄り添ったサポートをしたい ・ 1年目が自発的に動けなかった、2年目の指示を待っていた ➤ 特にゼミ冊子ではこの傾向にあった、1年目自身にも関わる企画なので積極的に取り組むべきであった
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 75 ）点
展望	Slack から Teams に移行してからは、グループチャットでのコミュニケーションやオンラインミーティングも増え、役割分担をしつつ学科（チーム）で活動できていたのが良かった。来年度も新たなメンバーと協働していきたい。 新入生関連活動で高評価をつけることができた理由の一つに、1年目と2年目で取り組みへの姿勢や対応方針のすり合わせを実施したことが挙げられる。今後は、そのようなコミュニケーションをとることは2年目 D が入団してから実施されてこなかったために学年間での生産的協働ができていなかったこと、そして今年度はその協働がある程度成功したことを踏まえ、新体制に移行するタイミングや大きな活動の前に学年間でのインタラクションの時間を必ず確保するように努めていく。 また、今年度の活動では構成員全員が活動に対する意見を発信することができていた印象が強く、結果は別として、全員が納得しながら取り組むことができたのではないかと考えている。この点も来年度からの活動で意識していきたいところだ。

年間スケジュール	
2023 年 6 月	22 日 学科長顔合わせについてミーティング
7 月	2 日 学科長挨拶資料作成 3 日 学科長にメール送信 19 日 学科長顔合わせ
8 月	

9月		
10月	17日 ゼミ企画ミーティング 30日 学科長へのメールを作成	
11月	14日 ゼミ企画ミーティング 15日 企画書作成 22日 センター長に企画書提出 24日 Google フォーム作成	
12月	9日 ゼミ冊子掲載 14日 カリキュラム勉強会 21日 新入生説明会学科ミーティング	
2024年1月	16日 新入生説明会学科ミーティング	
2月	8日 新入生説明会学科ミーティング 9日 進捗報告会 15日 新入生説明会学科ミーティング 19日 新入生説明会学科リハーサル 20日 中間リハーサル	
3月	5日 新入生説明会学科ミーティング 14日 新入生説明会学科リハーサル 19日 最終リハーサル	
4月	2日 新入生説明会 24日 活動報告書ミーティング 同日 活動報告書作成	

活動名称	ゼミ冊子		
日時	2023 年 10 月 17 日～ 2023 年 12 月 8 日、掲載日 2023 年 12 月 9 日		
場所	ポータルサイト あなた宛てのお知らせ欄にて掲載		
対象者	大学英文学科 2 年生および編入予定の短大 2 年生	参加者数	
目的	所属ゼミ生のからの情報を提供することで学生一人ひとりが納得するゼミ選択ができるようサポートする。 企画を通じて北星ピア・サポーター自身がゼミ選択について詳しく知ること、普段の相談対応の質の向上を目指す。		
準備	10 月 17 日 引継ぎのミーティングを実施、昨年のゼミ冊子などデータを 2 年目から共有してもらう 10 月 30 日 学科長へのメール（企画実施に向けた質問）を作成 11 月 14 日 具体的な活動開始 メール文のデスク確認、送信 11 月 15 日 企画書の作成、Google フォームの質問作成 学科長から返信を頂く 11 月 17 日 学習サポートデスクへ企画書の提出 11 月 22 日 センター長へ企画書の提出 11 月 24 日 Google フォームの作成 11 月 28 日 学生に向けて Google フォームの回答依頼メールを送信 11 月 30 日 昨年度のパワポを修正 12 月 3 日 ポータルサイト掲載時の本文を作成 （12 月 4 日 学科長によるゼミ説明会開催） 12 月 8 日 ゼミ冊子完成、デスクへ掲載依頼		
実施内容	英文学科長宛てに今年度のゼミ選択スケジュールとゼミ開講の確認メールを送信 （英文学科主催のゼミ説明会とゼミ希望調査に合わせてゼミ冊子を公開する） 英文学科長、各ゼミ教員宛てに企画の説明と協力を依頼するメールを送信（各ゼミで 3 年、4 年学生を 1 名ずつ選出して頂く） 各ゼミ教員から選出学生の学内メールアドレスを教えてください 選出学生宛てにゼミアンケート（Google フォーム）を添付したメールを送信 アンケートの結果をもとにゼミ冊子を作成 （Canva で表紙、目次、ゼミ紹介テンプレートを事前に作成） ポータルサイト掲載時の対象学生に向けた文章を作成し、学習サポートデスクに掲載のお願い		

	Outlook メールでも同上の内容のものを送信 相談対応は英文学科 3 年生、D と E の 2 名で行う。（毎週水曜日 2 講と毎週木曜日 3 講） メールでの相談対応も実施、アドレスはゼミ冊子の裏面及びゼミ冊子公開の際に掲載文とともに記載
良かった点	・ 1 年目からのアイデア出しが積極的であったこと。また、ゼミ企画に対する目標についてそれぞれが適切に考えて発信していたこと。 ・ 対面でのミーティングを企画開始前に 2 回実施できたこと ・ 実際に 1 年目のメンバーがゼミに対して抱えている不安感を解消できるような冊子作成を心掛けられたこと
反省点	・ 学科メンバー内の負担に偏りがあった ➢ 役割分担の際にタスクを洗い出して仕事量が平等になるようにする ・ 作成データややり取りの記録をどこか一か所に整理して引継ぎをしやすくするべき ➢ OneDrive 上にアップロードし、次世代が参照できるような保存状態を目指す ・ メール送信時のルールについて先に全体で確認しておくべき ➢ アカウントミスや返信スピードなど様々な問題点を一括して解決できそう ・ ゼミ冊子公開日が予定より遅れて、対象学生にとって適切な時期に公開できなかった点
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 50 ）点
展望	・ 早めに活動をスタートさせる （学科長の顔合わせが終わり次第、ゼミサポートを開始したい） ・ メールの送信状況を共有するために、Teams や英文学科の Google アカウントなどを活用したい ・ Teams のタスクを活用して優先順位と締切を常に意識できる環境をつくるとよい ・ ゼミアンケートの質問項目を英文学科 2 年次に事前にアンケートを取るなどして、より学生のサポートができるような企画の進め方ができたらよいと思う ・ ここ何世代かはゼミ冊子の形態で学生へ提供しているが、過去の英文学科や他学科はゼミ相談会、ゼミ説明会など別の形態でサポートを行っている学科もあるので、開催方法の変更も視野に入れてもよい

活動名称	新入生説明会		
日時	2024 年 4 月 2 日		
場所	A603		
対象者	英文学科新入生	参加者数	127 人
目的	ピア・サポーターだからできる学生たちに寄り添った説明によって、新入生の大学生活に関する不安を解消する。北星ピア・サポーターがどのような団体なのかを知ってもらい、今後困った時に頼れる存在として覚えてもらう。		
準備	12 月 9 日、10 日 キックオフ会 新入生説明会に向けての準備開始 12 月 14 日 カリキュラム勉強会 12 月 21 日 学科ミーティング 達成したい目標、説明する内容、グラドルール決定 スライドと台本の役割分担 2024 年 1 月 16 日 学科ミーティング 各々のスライド、台本進捗報告 2 月 8 日 学科ミーティング 進捗説明会に向けてスライドと台本作成、共有 2 月 9 日 進捗説明会 2 月 15 日 学科ミーティング 各々作成したスライドと台本共有、全体の流れ確認 2 月 19 日 学科リハーサル 中間リハーサル前の確認 2 月 20 日 中間リハーサル 3 月 5 日 学科ミーティング 中間リハーサルによって出たアドバイスをもとに修正した箇所の確認 3 月 7 日 最終リハーサル前の学科リハーサル① 全体の流れを対面で確認、修正 3 月 12 日 各自スライドと台本完成 3 月 14 日 最終リハーサル前の学科リハーサル② 3 月 19 日 最終リハーサル 3 月 29 日 告知について学科長にメール送信 3 月 30 日 配布資料完成・印刷 4 月 1 日 学科長による説明会で新入生説明会について告知、本番前の最終確認 4 月 2 日 新入生説明会本番		

実施内容	・ 当日のタイムスケジュール：10 分間の中間休憩を含め全体で約 1 時間 40 分 ・ スライドと配布資料を用いて対面で説明を行った ・ 休憩時間や説明会終了後に新入生の質問や相談に対応 ・ 当日の 10 時にポータルサイト上でスライドを配布
良かった点	・ 時間を合わせてこまめにミーティングやリハーサルをして、互いの意見のすり合わせを納得するまで何度も行ったこと ・ スライドのデザインやアニメーションを工夫して、新入生が飽きずに最後まで聞ける説明会にしようと努めたこと ・ 学習サポートデスクや国際教育課との連絡を通じて正しい情報を提供できた
反省点	・ グラドルールの「毎週金曜日に学科のチャンネルに進捗報告を投稿」があまり機能しなかったこと ・ 2 年目としては、1 年目メンバーのリハーサル回数が少なかったように見える。来年度は主要メンバー（1 年目）間でのリハーサル回数を増やし、学科リハや全体リハでのグダグダ感を少しでも無くすことが期待される。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 100 ）点
展望	・ とにかく早めに説明する内容を考えて担当を決めて準備に着手するとよい ・ 教科書販売の説明を当初入れようとしていたが、ページ数の都合で割愛してしまったので来年度も検討してほしい ・ 人前で話すのに自信がなければ練習量でカバーするべきなので、定期的なリハを開催すると良いと思った

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/05/24

学科・係名	心理・応用コミュニケーション学科	
メンバー	1年目	出口加奈子、長谷川理実
	2年目	小木曽ゆり
	アドバイザー	才田悠貴、小島華萌香、滝口達也
目的・目標	心理・応用コミュニケーション学科の学生と先生方の架け橋になるような役割を果たし、学生の不安を解消できる存在として活躍する。	
活動概要	・ 学科長面談（日時：7月11日12:00～ラーニング・コモンズ プレゼンテーション&セミナー エリア） ➢ 1年目全員、2年目全員。アドバイザーEが参加。例年通り、学科長とともに学生に対してどのような学びの支援が必要か検討した。 ・ カリキュラム勉強会（日時：12月20日3講目 ラーニング・コモンズ チュートリアルサポートエリア） ➢ 1年目全員、2年目全員。教育支援課の職員とともに、心理・応用コミュニケーション学科のカリキュラムや大学の単位システムについて勉強した ・ 新入生説明会 ・ なんでも相談会（相談メンバーとして） ・ 新入生歓迎会	
良かった点	・ 早めに新入生説明会に関する打ち合わせをしたことで、無理のない範囲で計画的に余裕を持って活動することができた。 ・ メンバーが打ち合わせを通して積極的にコミュニケーションをとっていたため、仲良くできた。 ・ 主に1年目で活動していたため、横のつながりが強くなった。 ・ 現役メンバーの人数が少ないことから閉鎖的な視点になってしまうのを防ぐため、適宜2年目とアドバイザーに助言を貰い、多角的に活動することができた。 ・ 新入生説明会を開催する意義を理解した上で、自分たちも楽しんで取り組めるような工夫を考えたため、物事の本質を捉えつつも自由な発想や個性を活かした活動ができた。	

反省点	・ 学科独自の企画に挑戦すべきだった。 ➤ 今後、学科のメンバーが増えた時にゼミ説明会などの取り組みに挑戦してみる。 ・ 主に学科の1年目で活動していたため、閉鎖的で視野が狭くなったときもあった。 ➤ 学科の2年目やアドバイザー以外にも、他学科のメンバーにも助言を求めてみる。
評価	今回の活動を100点満点で評価してみましょう→（ 97 ）点
展望	<今後メンバーが出来るようになると良いこと> 全員の予定が合わなかった場合も、対象者の優先順位をきめ、参加したものは情報を共有することでその後の活動が滞りなく進むような工夫をする。 学科内での情報共有をこまめに行い、取り組んでいることが被らないようにする。 情報を限られた人だけが知っているという状況が無いように、連絡は正確に都度行う。 <今後やりたい活動> ・ ゼミ説明会（心コミのゼミ選びのスケジュールは1週間と短く、選ぶ材料も少ないため）

年間スケジュール	
2023 年 7 月	11 日 学科長面談
12 月	20 日 カリキュラム勉強会
2024 年 1 月	23,29 日 新入生説明会準備 1 年目初回打ち合わせ
2 月	2,17,19 日 学科リハーサル 6 日 1 年目打ち合わせ&作業日 9 日 進捗報告会 20 日 中間リハーサル
3 月	15,27,28 日 学科リハーサル 18,19 日 最終リハーサル
4 月	2 日 新入生説明会 3,4,6 日 なんでも相談会



No.1

活動名称	新入生説明会		
日時	2024 年 4 月 2 日		
場所	北星学園大学 C700		
対象者	心コミ学科の 2024 年度新入生	参加者数	104 人
目的	新入生の悩みや不安を解決できるように、学生の経験談を交えながら大学の学びの流れについて理解してもらう。		
準備	2 月 2,17,19,26 日 学科リハーサル 6 日 1 年目打ち合わせ&作業日 9 日 進捗報告会 20 日 中間リハーサル 3 月 15,27,28 日 学科リハーサル 18,19 日 最終リハーサル		
実施内容	スライド・動画を使用した新入生説明会の実施（90 分程度）		
良かった点	・ 妥協せずにメンバーで話し合ったため、履修登録や検定認定の制度に関する分かりやすい資料が作成できた。 ・ 昨年度のスライドと今の大学の状況やニーズを比べて、何が不要かまたは不足しているかを追求したため、心コミ部屋の行き方の説明動画が作成できた。 ・ 新入生だけでなく、自分たちも楽しむことを忘れずに実施したため本番では緊張せず、聞きやすい声で発表出来た。		

反省点	・ 主に1年目のメンバーのみでの活動になってしまい、視野が狭くなってしまった場面があった。 ➤ 他学科のメンバーにも助言を求める必要があった。 ・ 学科リハーサルの際に、もっと積極的に先輩方に見てもらう必要があった。 ➤ リハーサルに先輩方を呼ぶ場合は、先に先輩方の予定を確認してもらう必要があった。
評価	今回の活動を100点満点で評価してみましょう→（ 90 ）点
展望	<今後メンバーが出来るようになると良いこと> 全員の予定が合わなかった場合も、対象者の優先順位をきめ、参加したものは情報を共有することでその後の活動が滞りなく進むような工夫をする。 学科内での情報共有をこまめに行い、取り組んでいることが被らないようにする。 情報を限られた人だけが知っているという状況が無いように、連絡は正確に都度行う。 <今後やりたいこと・やった方が良いこと> 先輩の資料をそのまま使うのではなく、そのときの大学のルールや制度、自分が新入生だった時にあったら便利だったと思う情報を洗い出してどんどんスライドをアップデートする！！

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/5/10

学科名	経済学科	
メンバー	1 年目	浦山勇翔 小田島蒼 福光颯汰
	2 年目	伊藤皓紀 木村駿作 土屋日奈子
	アドバイザー	新田征也 田中志帆 菅原凜乃 西田架南
目的・目標	ピア・サポーターとしての自覚を持ち、学生が学生を支援するという観点から、自らの学びや経験を活かし、学生の悩みを解消するためのサポートをする。	
活動概要	- 学科長と北星ピア・サポーター経済学科新メンバーとの顔合わせ ➤ 2023 年 6 月 29 日に、学科長へ新 1 年目の挨拶と経済学科でのこれからについて話し合いを行った。 - ゼミ相談強化週間 ➤ 1 年生のゼミに対する不安や悩みを解決するためにゼミ相談強化週間を設け、情報を与えるという形でサポートを行った。 - カリキュラム勉強会 - 新入生説明会 2024 ➤ 2023 年 12 月から準備を行い、4 月 2 日（火）に経済学科の新入生を対象に対面形式で実施した。入学時に私たちが困った、履修登録や、単位とは何かなど大学生活で役に立つ情報を提供し、経済学科の専門科目から大学共通科目まで、幅広い分野での説明をした。 - なんでも相談会 ➤ 4 月 3 日（水）、4 月 4 日（木）、4 月 6 日（土）の 3 日間にかけて経済学科の学生を対象に相談対応を行った。	
良かった点	【ゼミ相談強化週間】 - 事前に情報収集をして情報に隔たりがなかったこと。また事前に情報を知っていることでより学生からの悩みを引き出すことができた。 【新入生説明会 2024】 - 学科全体で協力してできたこと。 - 時間割作成と一緒にする時間を設けたことで、経済学科 1 年生全体の時間割作成に対する理解度を底上げできたこと。 【なんでも相談会】 - 多くの学生の時間割作成をサポートできたこと。 【その他】 - S N S 等を活用して周知してもらったこと。	

反省点	【ゼミ相談強化週間】 ・ 今年から新たにできたゼミについて説明できなかった。情報源についての不明確さも見受けられた。また情報共有が遅く学年によって知っている情報の格差があった。役割分担が平等でなく、しっかりと決められていなかった。 ➤ 新たにできたゼミに関しては学科長などから情報共有をしてもらうなどの対策が必要。 ➤ 議事録をその都度共有するなどの方法で学年によっての情報格差をなくし、会議を多く行い役割分担をしっかりと決める。 【新入生説明会 2024】 ・ 時間割作成のスライドに誤りがあったこと。 ➤ 前年と時間割に変更がないか見て正しいか確認する。 ➤ 2年目にこまめなチェックを依頼する ・ 説明会の中に改善すべき点が見つかったため来年度への修正を促す。 ➤ 例えば ① 写真マークにアニメーションをつけて写真を撮るタイミングを統一させる。 ② 昔のアイディアを取り入れてみる。 ③ 配布資料の時間割作成のページを表裏ではなくページを分けて見やすく統一する。 【なんでも相談会】 ・ 新カリキュラムの内容を理解している気でしたが、理解が不十分な部分が多少あったこと。 ➤ 想定される質問を考えておいて、それに対する回答をあらかじめ作成しておく。 【その他】 ・ 確認の流れの手順の徹底をしっかりとる。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 70 ）点
展望	・ ゼミ相談強化週間では、33 人の学生が相談に来てくれたが、人によって仕事の量に隔たりがあったり、役割分担があまりできていなかったり、学科内での情報共有が上手くできていなかった点が課題として挙げられる。そのため来年度に実施する場合は、学科内での情報共有をしっかりと行い全員が進捗度を一目で知れるようにすることや、しっかりとした

	役割分担を行い仕事量に隔たりが出ないようにすることなど様々な改善すべき点が見つかったと考える。 ・ 情報共有の徹底に関しては今年から Teams に変わることとなり、Slack に比べるとメッセージが長時間残るという点や、Teams を使った会議機能があるなど様々なメリットが増えた。そのため、メッセージ等が消えないという点から、議事録等を会議終了後にしっかりと共有すること、会議機能を使い対面での参加が難しい場合は会議に遠隔で参加するなど様々な工夫も必要だと考えた。 ・ 新入生説明会の準備等でのスライド作りでは曜日を決めて集まっていたため、その曜日はアルバイトの時間を遅らせたり、休みにしたりするなどのことが話し合いを行わなくてもできていたのでその点に関しては非常に良かった点だと考える。そのため、来年度も続けていきたいと考える。
--	---

年間スケジュール	
2022 年 6 月	学科長と北星ピア・サポーター経済学科新メンバーとの顔合わせ
7 月	
8 月	
9 月	(10 月 11 日)ゼミ相談強化週間実施決定
10 月	ゼミ相談強化週間準備期間
11 月	(11 月 14 日)企画書提出 (11 月 22 日～12 月 5 日)カウンターでのゼミ相談対応
12 月	カウンターでのゼミ相談対応 新入生説明会準備開始
2024 年 1 月	新入生説明会準備期間
2 月	新入生説明会準備期間
3 月	新入生説明会準備期間
4 月	新入生説明会の実施 なんでも相談会の実施



No.1

活動名称	経済学科ゼミ相談強化週間		
日時	2023 年 11 月 22 日 ～ 2023 年 12 月 5 日		
場所	ラーニング・コモンズ カウンター		
対象者	経済学科 1 年生	参加者数	33 人
目的	私たちがゼミ選択の際に説明会が開催されないところがあるなど、情報がなくて困った経験があったため、ゼミ選択での情報収集の手助けがしたいと考えた。ゼミを選んだ経験のあるピア・サポーターからゼミ選びのポイントを説明するなど、学生目線のサポートをしたいと考えた。 ・ 1 年生のゼミ選択における不安、悩み等を解消する ・ ゼミに関する情報が少ない学生への情報提供		
実施内容	相談件数 ・ 11 月 22 日（水）：14 件 ・ 11 月 24 日（金）：11 件 ・ 11 月 27 日（月）：10 件 ・ 11 月 28 日（火）：4 件 ・ 11 月 29 日（水）：8 件 ・ 11 月 30 日（金）：3 件 ・ 12 月 1 日（金）：7 件 ・ 12 月 4 日（月）：7 件 計 64 件		
準備	10 月 4 日（水）役割分担や活動の進め方の確認 10 月 11 日（水）Todo リストの逆算、ゼミの情報収集開始 10 月 18 日（水）企画書作成開始・配布資料作成・ゼミの情報の共有 10 月 19 日（木）ポータルサイトに送る文章作成開始 10 月 30 日（水）シフト調整 11 月 7 日（火）学科での確認 11 月 13 日（水）企画書提出 11 月 22 日（金）強化週間開始		
良かった点	・ 事前に情報収集をして情報に隔たりがなかったこと。また、事前に情報を知っていることでより学生からの悩みを引き出すことができた。 ・ SNS 等で強化週間について告知したこと。そのため、特に SNS を行っている学生に対して周知させることができた。		

	相談対応のテンプレートを共有して、その都度相談に対する回答やどんなことを相談されたか等の内容を学科全体で共有することができた。また、そのことでピアサポ内（特に1年目）でも、どのような回答が望まれるかについて知ることができた。加えて、前半の週では1年目、2年目、アドバイザーで相談対応をすることで、ピアサポートの在り方についてより理解を深めることができた。
反省点	・ 今年から新たにできたゼミについて説明できなかった。 ➢ 今年度は新しい先生のゼミに所属しているゼミ生に話を聞いてみる。 ・ 情報源についての不明確さも見受けられた。どこから得た情報なのかが不明な部分もあり、所属していないゼミへの情報の正確さについて責任を持てないため、明確にする必要がある。 ➢ あくまでもゼミ生から聞いた主観的な意見であるため、相談に来た学生には注意喚起を促すことを徹底する。 ・ また情報共有が遅く学年によって把握する情報の差があった。そのため2年目、アドバイザーからの指摘やアドバイスについて修正することが遅くなった。また、連携がうまくいっていなかった。 ➢ 1年目が集まり、決まった事項についてはその都度議事録を共有する・進捗段階での報連相を徹底する。 ・ 役割分担が平等でなく、しっかりと役割を決められていなかった。そのため、分量が偏ってしまい、人によって負担が異なっていた。また誰が主体で行うのか（1年目、2年目が主体なのか、アドバイザーはどこまで関わるのか）についても不明確であったため、活動が思うように進まなかった。 ➢ 役割をあらかじめ決めておく・最初の会議で学年ごとの役割を決定しお互いに共有する。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 75 ）点
展望	・ 情報共有の徹底が必要である。また役割分担についてもしっかりと決めておかないと効率的に進めることができないため、まずは最初の会議等で役割分担について確認する必要がある。 ・ 準備の最初の段階で集まる曜日を設定することで準備を円滑に進められた。そのため、来年度も最初の段階でグラドルルールを決めておくのが重要。 ・ また引継ぎがうまくいっておらず、基本的なことを1年目が理解できていないことが多かったので、会議で集まったときなどにしっかり引継ぎをする。分からない部分があればその都度先輩方に聞き、自分たちだけで解決しない。また来年度では新1年目が分からないことや企画の進め方など、聞きやすいような雰囲気や体制を作りたい。

活動名称	経済学科新入生説明会		
日時	2023 年 4 月 2 日 (火)		
場所	A305 教室		
対象者	経済学科新入生	参加者数	170 人
目的	北星学園大学に入学してから、授業のことや履修登録、時間割作成などの分からないことが多く出てきているという観点から、私たち学生目線から授業や履修登録、時間割作成の行い方を説明し、少しでも新入生の不安を解消させ、学校生活の役に立たせる目的。		
準備	・ 12 月 11 日 (月) : 打ち合わせ① ➤ 昨年度のスライドを閲覧し、流れと必ず変更すべきページについて確認した。また、だれがどのスライドを修正するかなどの役割分担を明確にし、どの曜日の何時に集まるのかを決定した (分担: 前半 1,2,3,4 を B、前半 5,6,後半 1,2 を A、後半 3,4,5,6 を C が担当)。 ・ 12 月 20 日 (水) : カリキュラム勉強会を実施 ➤ 私たちとはカリキュラムが変更になっているため、職員と 1・2 年目全員・アド 1 名とインターン生でカリキュラムの変更点を確認した。 ・ 2024 年 1 月 10 日 (水) : 打ち合わせ② ➤ カリキュラム勉強会をうけて、スライドの作り方 (PowerPoint ではなく Canva で作ること、水色のデザインを基調とすること、スライドが作成でき次第配布資料の作成や原稿の作成に移ること) を決めた ・ 1 月 10 日 (水) ~1 月 17 日 (水) : 各自で担当部分の作業を行い、1 週間での仮完成を目指す。 ・ 1 月 17 日 (水) : 打ち合わせ③ ➤ 各自が担当した部分のスライドを説明しあい、修正を行い、配布資料・原稿作成・ポータルサイトに送る資料の作成に取り組んだ。 ・ 1 月 19 日 (金) : 打ち合わせ④ (学科での話し合い) ➤ 学科リハを 2 月 9 日 (金) に行うことを決定し、今後の予定を検討した (スライド微調整後、2 年目に修正依頼をし、1 週間前までには発表できる準備を完成させること)。 ・ 1 月 24 日 (水) : 打ち合わせ⑤ ➤ 各自担当する分野の進捗度を報告し、修正等を行った。		

	・ 1月31日（水）：打ち合わせ⑥ ➤ 修正等の活動が終了し、スライド・原稿が完成したため、2年目にアドバイスをいただいた。 ・ 2月2日（金） ➤ 各自で Teams の学科チャンネルでアドバイスをもらった点のスライドを修正し、再度学科チャンネルに投稿した。 ・ 2月4日（日） ・ 2月2日（金）の投稿に対する指摘を修正し、再度学科チャンネルに投稿した。 ・ 2月7日（水）：打ち合わせ⑦ ➤ 学科リハ・進捗報告会前に読み合わせを行い、スライドに修正点がないか確認した。 ・ 2月9日（金）：打ち合わせ⑧ ➤ 学科リハの前に、教室を借りて読み合わせを行った。その後学科リハを行い2年目やアドバイザーからアドバイスをいただいた。 ・ 2月9日（金）：進捗報告会 ➤ 進捗報告会では自学科で意識していることを共有し、差し替え等が必要だと思うところを確認することができた。 ・ 2月10日（土）～2月16日（金）：各自作業・配布資料完成 ➤ 学科リハや進捗報告会指摘をもとにスライド・原稿の修正を行った。主に履修登録などの部分を修正した。また後回しになっていた配布資料も完成させた。 ・ 2月16日（金）：読み合わせ ➤ A305 教室で、本番のような読み合わせを行った。特に学科リハで言われた速さ・抑揚等を意識した。 ・ 2月19日（月） ➤ 2度目の学科リハを行い、2年目にアドバイスをいただいた。 ・ 2月20日（火）：中間リハーサル ➤ 中間リハーサルで、他学科から指摘をもらった。 ・ 2月21日（水）～3月10日（日）：各自作業 ➤ 3人で集まることが困難だったため、リアクションペーパーを見ながら各自で、中間リハーサルで指摘された点をスライド・原稿などを中心に修正した。 ・ 3月11日（月）学科長との打ち合わせ＆打合せ⑨ ➤ 早く集まり修正点について確認し、読み合わせをした後、学科長へ本番のようにスライド・原稿を読み上げ、修正点を教えてもらった。学科長が来年度の時間割について少し教えてくれたため、その
--	--

	後、主に時間割作成等のページに関するスライドや原稿、配布資料の修正を行った。終わらなかったページは各自での作業とし、16日（土）までに完成させることとした。 ・ 3月17日（日）：打ち合わせ⑩&ポータルサイトに送る資料の完成 ➤ 最終リハーサルを前にスライドの読み合わせ・修正点がないか等の確認を行った。また、ポータルサイトに送る資料を完成させた。 ・ 3月18日（月）～3月19日（火）：最終リハーサル ➤ 全学科の発表を聞き、修正点をまとめたり、よかった点等を取り入れたりするなどの工夫が必要になってくるのではないかと感じた。 ・ 3月20日（水）～3月25日（月）：各自作業 ➤ 帰省等により集まることができなかったため、リアクションペーパーの修正を分担して各自で行った。主に各スライドに挿入されている矢印の変更やフォントが違うページなどの修正を行った。 ・ 3月26日（火） ➤ スライド・ポータルサイトに送る資料&文章・原稿・配布資料の添削を2年目に依頼し、修正内容を確認した。 ・ 3月28日（木） ➤ 修正したスライド・配布資料・ポータルサイトに送る資料&文章を再度学科チャンネルに投稿した。 ・ 3月29日（金）：打ち合わせ⑪&デスクのチェック ➤ 多少のスライド修正作業を行った後、職員にスライド・配布資料・ポータルサイトに送る資料&文章の添削を依頼し、ほとんどが完成した。 ・ 3月30日（土）：印刷依頼完了 ➤ 配布資料の時間割作のページを修正し、印刷の依頼も完了した。 ・ 3月31日（日）：打ち合わせ⑫ ➤ スライドがほぼ完成した状態で1年目での読み合わせを行った。主に、明るく読むことを意識し、抑揚にも気を付けた。 ・ 4月1日（月）：打ち合わせ⑬ ➤ 職員から新たな指摘が追加された（ポータルサイトに送る資料の習得→修得に）ので修正した。また、1年目と2年目で最後の学科リハを行い新入生説明会に関する全工程が終了した。
--	--

実施内容	4月2日（火）：新入生説明会の実施 ➤ 学校生活への不安や悩みを解決するために、新入生を対象とし新入生説明会を実施した。 時間割作成の資料が置いてある席に新入生を誘導した。 A305 教室で 2024 年度の経済学科新入生を対象にプレゼン形式で、学校の仕組み、履修登録の方法などの説明を行い、前半と後半の間に 10 分間の休憩時間を設けた。 説明会終了後は今回の説明会の際に使用したスライドをまとめて、資料を作成してポータルサイトで配布した。
良かった点	【準備】 ・ リモートで話し合うのではなく、毎週水曜日にラーニング・コモンズに集まって、今後の計画・スライド作成・原稿作成などを行うことができた。 ・ 学科リハーサルをたくさん行い、2 年目からのアドバイスを適宜もらえたこと。 ・ 他学科からのアドバイスを参考にして、スライドのデザインや発表姿勢に活用することができた。 ・ スライドや原稿を作成する中で、自分たちも履修登録の仕方や、学校の仕組みを再確認することができ、なんでも相談会の際に活用することができた。 ・ Teams を活用し、2 年目とも連絡を取りながら、活動することができた。 【本番】 ・ 3 人ともリハーサル以上のパフォーマンスを発揮することができた。 ・ 緊張せず、新入生に気を配りながら発表できた。
反省点	【準備】 ・ 打ち合わせの議事録をたびたび忘れていたところ。 ➤ 議事録は備忘録として重要なため、作成する人を事前に決め忘れないようにする。 ・ 事細かく現状を 2 年目に報告して、学科リハーサルをスムーズにできたよかった。 ➤ 話し合いを行うたびに、その日話し合った内容や学科リハーサルの提案日などを Teams に共有して、学科全員が現状を把握できるようにする。

	【当日】 ・ スライドの事前登録日程のところで、「日程記載ミス」があった。中間リハーサルや最終リハーサルで正しい表記であったが、最終調整で確認を怠ってしまった。 ➤ 最終リハが終わった後にも修正点が見つかり修正をしたため、学習サポートデスクに提出する前にもう一度自分たちでの確認をするようにする。 ・ 新入生のざわつきに少し対処が遅れてしまったところ。 ➤ 新入生がざわつき始めた時には、マイクで一度注意を促してから説明を開始するようにする。 ➤ 最後の場面で「ご清聴ありがとうございました」を先に言ってしまうと、ざわつきが生じてしまうため、すべて言い終わってから言うようにする。 ・ 時間割表を表裏にするのではなく、表に前期・後期・分野ごとの単位確認用の表があればもう少し分かりやすくていいのではないかと考える。 ・ 見回りの仕方が1年目と2年目でばらつきがあった。 ➤ 事前に確認し共通の認識を持たせておく。 ・ 写真を撮るときに、写真マークを先に表示してしまうと、説明を聞かずに写真を撮ってしまう場面があった。 ➤ 写真マークにアニメーションを付け、説明が終わった後に表示する。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 80 ）点
展望	・ スライドの事前登録日程で「日程記載ミス」があったため、情報共有や最終確認の厳重さを徹底するべきだと考える。 ・ 1年目だけではなく、2年目への報連相も頻繁に行い、現状をこまめに報告し、リハーサルの調整を早めに相談するべきだと考える。 ・ なんでも相談会で、「説明会を聞いても、全然理解できなかった。」という生徒を少しでも減らすために、スライドと説明の分かりやすさを徹底するべきだと考える。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/5/23

学科名	経営情報学科	
メンバー	1 年目	小森暖乃香、戸沼祐水
	2 年目	相内詩渚、村上晏由
	アドバイザー	小倉幹司、阿部舜平
目的・目標	経営情報学科の学生が有意義な大学生活を送れる手助けをする。	
活動概要	ゼミ説明会 これからゼミを選ぶことになる経営情報学科 2 年次生に向けてゼミを選ぶきっかけとなるイベントにする。 カリキュラム勉強会 新入生説明会 これから大学生活が始まる経営情報学科 1 年次生に向けて時間割の作り方などこれから大学生活で必要となる知識を伝える。	
良かった点	ゼミ説明会、新入生説明会ともに多くの学生に参加してもらうことができた。 冊子作成など学生に役立つ新たな取り組みをすることができた。 1 年目間でこまめに情報を共有しあうことができた。	
反省点	時間の使い方がうまくできなかったため、ピアサポ以外にご協力いただく方たちに迷惑をかけてしまうこととなってしまう場面がいくつかあった。 ➤ 来年度以降はもう少し時間に余裕をもって企画し、活動するよう心掛ける。 資料の確認不足により、当日誤った情報を伝えそうになってしまったり、イベントの進行が止まってしまったりするタイミングを作ってしまった。 ➤ 前日資料やスライドは注意深く確認するようにする。	
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 70 ）点	

展望	もう少し時間に余裕をもって活動するよう心掛ける。 確認はより多くのメンバーでできる環境を作るようにする。 1年目と2年目の間で連携がとれておらず、昨年度に同様なイベントを行ったときの経験をあまり生かすことができない環境となってしまうので、もっと縦のつながりを意識して活動していく。
-----------	---

年間スケジュール	
2023年6月	28日 学科長顔合わせ
7月	
8月	
9月	26日 ゼミ説明会初回ミーティング
10月	4日 学科長とゼミ説明会に関する打ち合わせ 10日 センター長へゼミ説明会企画書の提出 12日 学科長とゼミ説明会に関する打ち合わせ 25日 ゼミ説明会
11月	
12月	18日 カリキュラム勉強会
1月	
2月	
3月	29日 学科長に新入生説明会の台本・スライド・配布資料の共有
4月	1日 学科長オリエンテーション内で新入生説明会の告知 2日 新入生説明会
5月	



活動名称	経営情報学科 ゼミ説明会		
日時	2023 年 10 月 25 日(水) 16:20~17:50		
場所	A501 教室		
対象者	北星学園大学経営情報学科 2 年次	参加者数	45 人
目的	これからゼミを選ぶこととなる経営情報学科の学生に向けて、シラバスの内容も含めゼミの雰囲気などといった情報を提供し、ゼミ学習の意欲を向上させることを目指す。また、詳しくゼミについて記載したゼミ紹介冊子を作成することで、説明会中に参加者にとってより魅力的かつ有益な情報を優先的に提供することを目指す。		
準備	・ 9 月 26 日(火): C、D、A、田中、B で会議を行い、企画書の作成を開始した。 ・ 10 月 1 日(日): 学科長との打ち合わせの日程調整と今年度のゼミ選考スケジュールの確認をメールで行った。 ・ 10 月 4 日(水): 学科長と対面で話し合い、昨年度からの変更点などを伝えた。 ・ 10 月 10 日(火): 学科長に企画書と協力依頼を提出した。また、学習サポートセンター長と企画書を共有した。 ・ 10 月 12 日(木): 学科長と対面で話し合い、冊子作成に関する意見、Google フォーム利用での疑問点などの情報共有を行った。また、昨年度からの変更点と 10 日に共有した資料からの変更点をまとめてゼミ説明会参加予定の先生方にメールで送った。 ・ 10 月 18 日(水): 学習サポートデスクに依頼し、経営情報学科 2 年次にゼミ説明会の宣伝メールを一斉送信した。 ・ 10 月 19 日(木): 広報係に依頼しゼミ説明会の宣伝を Instagram で行った。 ・ 10 月 21 日(土): A と B で Zoom を用いて打ち合わせを行った。 ・ 10 月 24 日(火): 回答してもらった Google フォームを冊子に記入した。また、未回答のゼミには再度メールで確認を取った。 ・ 10 月 25 日(水): 冊子を完成させた。また、ゼミ説明会の宣伝ポスターを立て看板に入れて教室前に配置した。リハーサルを行い、本番の動きを確認した。		

実施内容	・ 説明会を始める前に、参加者に冊子の配布を行った。 ・ 冒頭にゼミ選考スケジュールについて説明した。 ・ 質疑応答用のオープンチャットの説明をし、QR コードから 2 年生にチャットに入室してもらった。 ・ 発表ゼミは、佐藤ゼミ、西脇ゼミ、韓ゼミ、田中ゼミ、黄ゼミ、鈴木ゼミ、大原ゼミ、林ゼミ、南ゼミの 9 つであった。 ・ 各ゼミの発表は 5 分程度とし、その後 2 分間の質問時間を設けた。 ・ 質問の中からいくつか選んでゼミ生に回答してもらった。 ・ ゼミ説明会後に参加者とゼミ生にアンケートを回答してもらった。 ・ オープンチャットのリプライ機能を用いて質疑応答の時間では答えきれなかった質問にゼミ生が回答してくれた。
良かった点	当日 45 人の 2 年生が参加してくれた。 今年度からの新しい試みである冊子作成が 2 年生の役に立っている様子が見られた。 匿名で質問できるオープンチャットが比較的好評だった。 直前の連絡になったにもかかわらずゼミ生が時間に余裕をもってきてくれた。 短い準備時間の中、それぞれがタイムスケジュールをしっかりおこなえた。 ポスターの記載内容とデザインが素晴らしかった。
反省点	全体的にタイトなスケジュールであったため、ゼミ説明会を行うかどうか、またどのような形でやるかについての話し合いを夏休み前から始めるべきだと考えた。 ピアサポ内でのコミュニケーション不足により情報共有が上手くいかなかったため、目に見える形での共有(議事録、LINE など)と役割分担を徹底する。 質疑応答の時間が短く質問しにくい雰囲気を参加者に感じさせてしまったため、オープンチャットの使い方を工夫する。 ゼミ説明会の告知が 1 週間前になってしまったため、企画に取り組む時期自体をはやめる。 当日用の PowerPoint 資料にミスがあったため、全員がリハーサルに参加して確認するようにする。 先生方を通してのゼミ生とのコミュニケーションが難しいため、来年度は事前に担当のゼミ生を決めていただき、その学生と直接やり取りするなどという方法を検討する。 ゼミ説明会当日に、ピアサポの存在や活動などをお知らせし、2 年生へのサポート体制を整える。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (65) 点

展望	・ 学科長との顔合わせの時点で当年度のゼミ説明会をどのようにするのか、ある程度伝えられるように用意する ・ 学科長との顔合わせの前に準備を始める ・ 限られた時間の中で質問をもう少し扱う方法を検討する ・ 2年生が冊子を活用する様子がみられたので、来年度以降も継続していきたい ・ 説明会当日に、ピアサポの活動や Instagram を紹介・宣伝できるといいだろう
--	--

活動名称	経営情報学科 新入生説明会		
日時	2024 年 4 月 2 日(水) 10:32~11:38		
場所	A703 教室		
対象者	北星学園大学経営情報学科 1 年次	参加者数	115 人
目的	経営情報学科の新入生に向けてこれからの学校生活に必要な時間割の作り方など大切な情報を伝える。 説明会を通して、これからの学校生活の不安を和らげ、ピアサポというなんでも相談できる身近な存在があるということを知ってもらう。		
準備	・ 12 月 10 日(日): A・B で役割分担を行った。今後は毎週水曜日を打ち合わせの曜日に決定した。 ・ 12 月 13 日(水): A・B でスライドの内容について打ち合わせを行った。 ・ 12 月 20 日(水): A・B でスライドのデザインを決め、流れを確認した。 ・ 2024 年 1 月 10 日(水): A・B でスライドを作成した。 ・ 2 月 1 日(木): A・B でスライドと台本作成を進めた。2 月 6 日(火)までに修正点を完成させることを目標にした。 ・ 2 月 6 日(火): A が台本、B がスライドの再修正を行い、流れを確認した。アンケートの QR を作成した。 ・ 2 月 15 日(木): E・D・A・B で学科リハーサルを行った。 ・ 2 月 18 日(日): B が配布資料原案を完成させた。A・B で Zoom を用いて、スライドと台本の再確認をした。 ・ 2 月 19 日(月): A・B で配布資料の確認をした。スライド、台本の再確認をした。 ・ 2 月 20 日(火): C・A で中間リハーサルを行った。 ・ 2 月 21 日(水)~3 月 17 日(火): A・B で各自、リアクションペーパーをもとにスライド、配布資料、台本を修正した。 ・ 3 月 18 日(月): A・B でスライド、台本、配布資料の再確認をした。 ・ 3 月 19 日(火): A・B で最終リハーサルを行った。 ・ 3 月 20 日(水)~4 月 1 日(月): A・B でリアクションペーパーをもとにスライド、配布資料の修正を行った。 ・ 3 月 29 日 B が配布資料の最終チェックを受け、資料印刷をお願いした。		

実施内容	・ 説明会を始める前に、机の上に配布資料を用意した。 ・ 新入生に向けて時間割の組み方など、これから大学生活をしていくうえで必要となる知識を伝えた。 ・ 新入生説明会終了後、新入生の質問に対応した。 ・ 新入生説明会終了後、残っていた新入生に声をかけ、不安なことやわからなかったことがなかったか確認した。 ・ 新入生と直接話している中で、これからも引き続き話す必要があると判断した人には名刺を手渡した。
良かった点	当日は 115 名という入学生ほぼ全員に参加していただくことができた。スライドが自動切換えになってしまっている部分があり、途中、新入生を待たせてしまう場面があったが、C が最後に告知を頼まれていた FM ラジオの告知をするなど工夫してスライドを直す時間を作ることができた。準備を始めた段階で毎週水曜日に対面で確認しながら作業することができた。 スライド操作トラブルにも冷静に対応できた。
反省点	当日の教室が小さく、かなり隣の人との距離が近い状態にさせてしまった。本当は自由に友達と座ってほしかったため、入口で資料をとってから座る方式にしたかったが、場所の都合上うまくスペースを確保することができないと判断し、資料の置いてある席に着いてもらうよう新入生が自由に座れない状況を作ってしまった。 スライドを直前で確認できなかったことで当日スライドのせいで進行が止まってしまう状況を作ってしまった。 最終リハ後の修正でお互いの作業状況をうまく伝え合うことができなかった。 台本の最終版完成が前日になってしまい、最終確認が当日になってしまった。その結果、最終リハの後で変更点となっていたところを直せていなかったり、本番で事前登録の日付を誤って伝えそうになったりしてしまった。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 80 ）点
展望	・ 学科内で完成版を確認しあうことができる状況を作るなど、ミスなく本番を迎えられる状況を作る。 ・ 何かミスをしてしまっても学科内でお互いにカバーしあい、参加者により充実した内容を届けられるよう努力する。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/5/8

学科・係名	経済法学科	
メンバー	1 年目	難波杏介、東山歩叶、中谷光汰
	2 年目	正木瑛翔、土屋萌、内堀湧一郎
	アドバイザー	斎藤千優
目的・目標	・ 経済法学科の学生の学びを促進するためのサポートを行う。 ・ 経済法学科生が学びに対しての意識向上を目指す。	
活動概要	・ 経済法学科ゼミ相談会 ・ 経済法学科の2年次生の今後のゼミ選択の参考となるような支援 ➢ ゼミ履修によるメリットについても発信 ➢ より多くの学生にゼミを履修してもらうきっかけをつくった ・ カリキュラム勉強会 ・ 経済法学科新入生説明会 ➢ 経済法学科の新入生が抱えている不安や疑問を解消し、今後の学生生活を快適に送ることができるような学生支援	
良かった点	・ 経済法学科として、学科の企画を成立させることができた。 理由：学科の企画を1つも実施できなかった年も過去にあったので、経済法学科の学生が求めているようなサポートができる企画を1つでも実施できたことが良かった為。 ・ 企画当日の参加者が予想以上に多かった。（ゼミ相談会、新入生説明会） 理由：事前準備におけるポスターの作成や各種 SNS での告知、学科長との協力等により、企画実施について積極的な発信が行っていた為。 ・ 学科長や先生方との協力により、企画実施につき、円滑に進めることができた。企画実施当日においても、目立った問題が起きずに、無事企画を終えることができた。 理由：企画準備期間中に学科長とのメールでの連絡や、打ち合わせ等を綿密に行っていたことにより、相互で情報共有をしっかりと行っていた為。 ・ 企画を通して、メール作成能力の向上がみられたこと。 理由：企画実施にあたり、学科長や先生方と連絡を取る場面が多かった。メールの文章を書く機会も付随的に増えていたことから、メールの作成についての上達が見られた為。 ・ 1年目が気付いていない情報を2年目から、連絡を行うことで、全員が正	

	確な情報をつかむことにつながった。 理由：Teams やメールが来た際に共有を行うことで、情報の漏れが無かった為。
反省点	・ 秋頃のスケジュールに余裕がなかった。 理由：学校祭やびあのわの後にゼミ相談会の準備を早急に行ったため、余裕を持って準備を行うことができず、張り詰めた空気の中、準備活動を行った為。 ・ 先生方の希望通りに動いてしまう傾向にあった。 理由：様々な企画の中で、学科の先生の協力を得ることができた。しかし、先生方の「やってほしい」を取り入れる傾向が強く、私たちができるピアサポートの幅を無理して超えてしまおうとしてしまう為。 ・ 近年の経済法学科では、学科の企画がゼミイベントに偏りがちである。 理由：ゼミ関連のイベントは、2022 年度に行ったアンケートで需要が高いのは、把握している。一方で様々な支援活動ができる反面、勉強会の企画を開催しない理由は後輩に教えることへの自信がないというのがメンバー全員の思っているところであった。そのために、ゼミ関連の企画を選択しがちになっている為。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 78.2 ）点
展望	先輩方から続く、学科の先生方との様々なやり取りを通して、経済法学科の先生方とは、協力できている体制がとれている一方で、時には、先生が希望する指示に従って、動いてしまう傾向がある。 先生方と我々の目的や支援活動の軸が合致していれば、問題ない。しかし、我々の活動軸とズレている、我々の活動容量の幅を超えてしまうものに関しては、無理して引き受ける必要はない。 そのような時に、我々の活動軸を示したうえで、先生方とやり取りを行っていくために、メールだけでなく、対面で定期的に学科長や先生方と打ち合わせを行い、経済法学科生へのより良い学習支援活動を行っていく。 我々の支援活動の中で、近年は、ゼミ関連のイベントが開催しがちという改善点をあげた。 その改善策として、メンバー内でも、法律系と経済系で得意科目が異なり、先生方と協力できる体制がとることが可能であるため、勉強会系のイベントも視野に入れることができる。また、経済法学科のコース選択の時期に、新入生説明会でも扱っているコースについての情報を改めて、提供し、相談会のような形をとることができるのではないかと案も出た。 説明会の情報も見直しを図り、時期によって、需要が高い情報があるため、その時々経済法学科生に寄り添った活動を展開していく。

年間スケジュール	
2023 年	
6 月	定例会参加 24 日、25 日スタートアップ研修参加
7 月	13 日：学科長顔合わせ
8 月	
9 月	
10 月	ゼミ相談会準備開始 19 日：ゼミ相談会初回会議
11 月	7 日：ゼミ相談会企画書完成 17 日：ゼミ相談会実施 28 日、30 日：ゼミ相談会振り返り
12 月	9 日、10 日キックオフ会参加 新入生説明会準備開始 19 日：カリキュラム勉強会参加
2024 年	
1 月	冬休み終了後:新入生説明会初回会議
2 月	10 日：進捗報告会参加 13 日：学科リハーサル 20 日：中間リハーサル参加
3 月	19 日：最終リハーサル参加 25 日：学科リハーサル
4 月	2 日：新入生説明会実施 3 日、4 日、6 日：なんでも相談会実施
5 月	

活動名称	北星ピア・サポーター経済法学科主催ゼミ相談会		
日時	2023 年 11 月 17 日		
場所	C502 教室		
対象者	経済法学科 1 年生	参加者数	52 人
目的	・ ゼミの学びに対して学生に興味・関心を持ってもらい、ゼミの履修を考えるきっかけにしてもらうことを目指す。 ・ ゼミに対しての悩みや疑問を解消し、学生が納得のいくゼミ選択ができることを目指す。 ・ 相談会を行い、ゼミの履修率を上げることで経済法学科生の学習意欲の向上を目指す。		
準備	10 月 19 日 第 1 回打ち合わせ(G、D、F、B、C) ・ 今年度ゼミ説明会を実施するか否か ・ 今後の動きの確認 ・ 企画書に書く内容の案出し 10 月 26 日 第 2 回打ち合わせ(G、D、E、F、A、B、C) ・ どのような形式で行うか ・ 企画書作成の役割分担決定 ・ どのような準備が必要か 11 月 1 日 第 3 回打ち合わせ(G、D、E、B) ・ ゼミ相談会実施日程決定 ・ 開催形式の決定 11 月 3 日 第 4 回打ち合わせ(E、F、B、C) ・ ゼミ相談会の役割分担決め 11 月 6 日 一斉メール/ポータルサイト/SNS 用広告文作成 11 月 7 日 企画書完成、学科長へ企画書共有 & 打ち合わせ依頼のメール送信 11 月 9 日 広告ポスター完成 11 月 10 日 学科長打ち合わせ、学科長に広告ポスターのデータ送信、代表学生用資料完成 11 月 14 日 代表学生へのメール送信(ゼミ相談会当日の動き・注意事項) 11 月 15 日 当日の配布資料・アンケート(Google フォーム)完全版完成 11 月 16 日 第 5 回打ち合わせ(G、D、F、A、B、C) ・ 当日の動き等の事前確認 11 月 17 日 ゼミ相談会実施 11 月 23 日 協力していただいた教員の皆様へお礼メール送信		

	11月28日 ゼミ相談会活動報告書作成に向けての振り返り①(E、A、B、C) 11月30日 ゼミ相談会活動報告書作成に向けての振り返り②(D、F、B、C)
実施内容	1年生にはあらかじめ Moodle で各ゼミのシラバスを見たうえで相談会に来てもらい、ゼミに対する悩みや疑問などを質問してもらう。 各ゼミに所属する2年生(以下、代表学生)は、その質問に答える。 円滑な相談対応を行うために、代表学生にはゼミの概要説明を口頭で行った上、1年生からの質問に回答。 ゼミの概要説明はゼミで学ぶ内容・ゼミの形式・雰囲気の説明する。 経済法学科は2024年度に、教員 A1 ゼミ、教員 A2 ゼミ、教員 I1 ゼミ、教員 I2 ゼミ、教員 S ゼミ、教員 N ゼミ、教員 H ゼミ、教員 I3 ゼミを開講予定の為、これら9つのゼミのブースを設け相談対応をした。
良かった点	準備期間 - 作業量に偏りが無く活動を分担したことで、少ない時間で広告が無駄なくできた。 理由：各々、学科長との連絡や宣伝活動、当日の資料作成等分担して行っていた。また、急遽必要となった立て看板についてもメンバー間でコミュニケーションを取り、対応できた為。 - メンバー皆の仕事が早かった(期限を守って順調に仕事を行うことができた) 理由：各々期限を守りながら各仕事に取り組み、早急な対応もできていた為。 - 特に大きなミスもなくスムーズに進めることができた。 理由：事前の準備が手厚く行われていたことから、目立った問題は発生しなかった為。 - 追加の仕事もこなすことができた→よりレベルの高い説明会に！ 理由：急遽必要となった立て看板についてもメンバー間でコミュニケーションをとり、早急に対応できた為。 当日 - 実施当日は悪天候だったにもかかわらず、多くの学生が参加してくれた(参加学生数 52 人。経済法学科 1 年生の半数程度が参加)。 理由：事前の宣伝活動により、説明会で得られる役立つ情報や、ゼミの魅力、履修によるメリット等の対象者を惹きつけるような周知が行えていた為。 - 積極的な学生が多かった。→それだけ学生に興味を持ってもらえた。

	理由：各ブースでゼミの代表学生が、ゼミの魅力を知ってもらえるように努力していたことから学生の興味を引き出すことができた為。 ・ カウンターを用いて、参加人数の把握がしっかりできた。明確に人数を知ることができた。 理由：当日の運営について、どのような方式がベストなのか、事前準備での話し合いがしっかり行えていた為。 ・ 余裕を持って開設準備ができた。 理由：各メンバーの当日の集合時間を事前の打ち合わせでしっかり共有できていた為。 ・ 1年生 102 人がゼミを履修してくれた。 理由：学生がゼミを履修したいと思えるような的確な説明を、各代表学生が行えていた為。参加者の満足のいく相談対応を各代表学生が行い、沢山の履修につながった為。 ・ どのような事柄に関心があるのか、学生の需要が分かった。 理由：相談対応の際に学生の疑問点・不安点を引き出して、そこから一体どのような情報を学生は求めているのかや、需要が高いのかを得ることができた為。 ・ ゼミについて、楽かどうかなどの情報は一切与えずに、参加者のためになるようなサポートができた。各代表学生がこれを守り、しっかりと対応できていたこと。 理由：楽かどうかを教えるのでは、学生のサポートにはならず、そのことについて事前に代表学生に注意として共有できていた為。 ・ 代表学生に楽しんでもらえた。 理由：多くの学生に相談会に参加してもらい、対応件数も多くなった分、様々な学生とのかかわりを大切にできたと思う為。
反省点	準備期間 ・ 準備を始める時間が遅かった。 理由：学校祭やびあのある中で、準備が始まったが、学科長や先生への企画書の提出がゼミ選考の直前に送る形となってしまった。原因としては、活動の分担をしたものの、誰がどの順番で、作業を進めるのかが不明確であったことがあげられる。 改善策：来年度このような企画を行う場合は、夏休み前くらいから準備を始める。

	- メール送信は学科長から先にすべきだった。 理由：学科長に企画書の共有を図り企画に賛成をもらってから他の先生方に情報共有を図るべきだったが、学科長を除く自学科の先生方に企画の連絡を行ってしまった為。 改善策：メール送信を行う前に、学科内で内容の共有と、送信しても大丈夫かの確認を徹底する。 メール送信に限らず、タスクの優先順位を明確にする。 当日 1年生に、説明会と相談会の違いを理解してもらえなかった。 理由：先生、2年次以上の学生を含めた内容の周知不足 改善策：先生方へのイベント内容の共有の際に、情報の齟齬が生じた可能性が高い。昨年度とは、形式が異なることを明確に示すことで改善できると考える。 - 話を聞きたい参加者が入りづらいブースになってしまった。 理由：友人との参加者が多い様子だった。まとまった人数がブースに入ってしまうと、その中に入りづらく、他のブースに話を聞きに行く参加者の様子が見られた為。 改善策：少人数が座ることができないブースだったため、まとまった人数が入れるように椅子を多めに設置しておくことで改善できると考える。 - アンケートが4件しか来なかった。 理由：アンケートの周知が足りなかったこと。確実に回答を得ることができる方法を模索できていなかった為。 改善策：相談対応終了時にアンケートへの回答を呼びかける。または、参加後、アンケートを確実に回答してもらってから、退出してもらう。
評価	今回の活動を100点満点で評価してみましょう→（76.5）点
展望	今回の反省を活かし、早めに計画を立て始め、夏休みあたりから準備を始める。また、ゼミ紹介の冊子を作り、ゼミのイメージをよりもってもらい、区切りを設けて、複数人対応できるようにすることで待ち時間を少なくし、効率化を図る。

活動名称	新入生説明会		
日時	2024 年 4 月 2 日		
場所	A403 教室		
対象者	経済法学科 1 年生	参加者数	134 人
目的	・ 新入生に北星ピア・サポーターを知ってもらう ・ 新入生にそれぞれのコースの特徴を知ってもらう ・ 新入生に履修の仕組みについて理解してもらう		
準備	・ 12 月 9 日、10 日のキックオフ会で新入生説明会のおおまかな内容を教わり、目的を考えた。その後、Teams の使用方法とスケジュール管理の確認。 ・ 12 月 19 日にカリキュラム勉強会で経済法学科 23 年度以降の新カリキュラムと 24 年度のカリキュラムを確認 ・ 冬休み直後に 1 年目で役割分担 ・ 2024 年 1 月下旬にスライド・台本作成開始 ・ 1 月下旬から毎週水曜日に 1 年目で進捗報告会開始 ・ 1 月 3 日の会議にて役割分担、大筋の流れ確認(A、B、C) ・ 1 月 10 日の会議にて進捗報告(A、C) ・ 1 月 17 日の会議にて進捗報告(A、B、C) ・ 2 月 5 日の会議にて進捗報告、修正(A、B、C) ・ 2 月 13 日 学科リハ(A、B、C) ・ 2 月 20 日 中間リハ (ピアサポ全体) ・ 3 月 19 日 最終リハ (ピアサポ全体) ・ 3 月 19 日 最終リハ後の修正(対面) ・ 3 月 25 日 学科リハ ・ 4 月 1 日 学科長説明会にて宣伝		
実施内容	A403 教室にて、パワーポイントで作成したスライドを用いて学科についての説明を行った。 説明した内容は、経済法学科について、コースについて、単位について、履修について、Moodle とポータルサイトについて、成績についてである。 スライドでの説明終了後には Google フォームにて、満足度やどれだけ理解できたかなどについてアンケートを行った。		

良かった点	・ 仕事の分担をしっかりとすることで仕事の量が偏らなかった。 理由：冬休み直後に分担を行ったことで各々の仕事量と内容が明確化されていた為。 ・ 困った時、何かあった時にしっかり、確認を怠らずできていた。 理由：何か疑問等が出たときに1年目内でLINE等で確認できていた為。 ・ 自分たちの経験をもとにした説明会にすることができた。 理由：説明会でも自分の体験談を多様にいれたことで同じ学生目線での説明会になった為。 ・ 説明会終了後のアンケートでは7割以上の人が十分に理解できたという結果に。 理由：シンプルで新入生に分かりやすい発表を心掛けた為。 ・ 説明会の時間がぴったりでよかった。 理由：リハーサルでも時間を気にしながら練習できていたのも本番でも説明時間が的確だった。 ・ 本番が最も良い発表をすることができた。 理由：リハーサルごとに修正を怠らずしたため、本番で最も良い発表ができた。 ・ 新入生説明会の準備を始めた時から本番当日まで、あくまで1年生がターゲットだということを忘れずに軸をぶらさず活動することができた。 理由：自分たちが1年生の時のことを思い出しながら、新入生の目線に立った説明会にすることを心掛けた為。 ・ 想定よりも入学者数が多く、急な教室変更があり、アクシデントがあったなかでも迅速に対応できた。 理由：急なアクシデントに対しても、報告、連絡、相談がしっかりできていた為。
--------------	---

反省点	【準備期間】 配布資料の完成が本番当日の2日前だった。 理由：スライドの共有に関する仕様やQRコードに変換する方法に関する知識がなかった為。 改善策：あらかじめ変換する方法を調べておくなり、先輩に聞いておく。 1年目内での会議のとき、議事録の共有が上手くいかなかった。 理由：全員メモ自体は取っていたが、互いに共有していなかった為。 改善策：ファシリテーターや議事録担当などの役割をはっきりさせて、会議を行う。 忙しさもあり、会議が毎週、継続して行えなかった。 理由：中々予定を合わせることができなかった為。 改善策：会議を行わなくても、作業状況に変化があった場合に情報共有を行う。 仕事を分担しすぎるあまり、スライドや内容にまとまりがなかった。 理由：お互いのスライドのデザインやレイアウトの共有ができていなかった為。 改善策：自分が使った枠の色やその他の色味、フリー素材サイトをLINEまたはZoom会議の際に共有する。 練習不足でスライドの発表がずれることが多かった。もっと練習できた。 理由：3人台本の読み合わせをする機会が少なかった為。 改善策：対面で会うのが難しければ、オンラインの都合上多少のラグはあるかもしれないが、Zoom上で読み合わせを行う。 全体的にまとまりに欠けていた。 理由：他の人が担当した部分に無関心だった為。 改善策：一つの企画を作り上げていくうえで、様々な配慮に気を遣うために、当事者意識を持って活動を行うこと。 共有することはできていたけど、共有する頻度が少ない。 理由：Zoomを用いての共有が難しければ文章を用いてでも、こまめに共有をするべきだった為。
------------	--

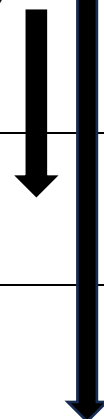
	改善策：LINE、Teams 上での共有を徹底する。 - 個々で仕事をしすぎたので、対面で会う機会を作って準備していけばよかった。 理由：春休みで各々予定があったため、機会を組むのが難しかった為。 改善策：Zoom 上で同時に作業する機会を設ける。 【当日】 - 新入生の求める説明と提供する説明に若干のずれがあった。特に履修登録の方法の説明に力を入れたが時間割の組み方の説明をしなかったため、後日開催したなんでも相談会では履修登録・時間割作成に関する相談が多く来る結果となった。 理由：新入生がわからないこと、知らないことに対する理解が乏しかった為。 改善策：初心に戻り、自分が1年生の時に時間割を組むにあたって何がわからなかったのかを思い出す。 1点スライドのミスがあった。 理由：ダウンロードした場合やオンライン上(共有)の場合との比較の確認不足。 改善策：ダウンロードしたファイルとオンライン上（共有）のデータとの確認を徹底する。 - 遅れてきた新入生が座れる席に配布資料がなく、それを渡すのに時間がかかってしまった。 理由：配布資料の印刷数にあまり余裕が無かった為。遅れてきた学生に考慮し、遅れても資料が手に渡る仕組みが必要である為。 改善策：学生の数+10枚ほどしか印刷していなかったため、今後は学生の数+30枚ほどを印刷する。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 70.8 ）点
展望	仕事の分担は良かったが、個々で仕事をしすぎてしまったため、学科で統一感がなかった。そのため、次年度の説明会作りでは、レイアウトの確認をこまめに行う。使ったフリー素材のサイトや飾り枠、色味などを共有してデザインを統一する。具体的なスケジュールを作りスライド、台本の完成を早め、リハーサルの実施回数を増やす。1年目内だけで解決しようとするのではなく、2年目への進捗報告や確認を徹底する。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/05/26

学科・係名	福祉計画学科	
メンバー	1 年目	阿部のの子、山崎日和香
	2 年目	小岩大志、白崎快、土開楓
	アドバイザー	菊池亜椰花、中村文怜、中村流星
目的・目標	・ 前年度の活動を引き継ぎつつ、計画学科の最後のピア・サポーターとして活動に取り組む。	
活動概要	・ 学科長面談 ・ ゼミ相談会 ・ カリキュラム勉強会 ・ 新入生説明会 ・ なんでも相談会 ・ カウンターシフト	
良かった点	・ 学科長と年間の活動を確認することができた点 ➤ そうしたことで、ゼミ相談会の動きがスムーズに進んだ。 ・ 学年関係なく、活動の主体となって動くことができた。 ➤ 特に、ゼミ相談会は1年目が主体となって企画・実施を行った。	
反省点	・ 学科のメンバーが全員集まれることがほとんどなく、意思疎通やコミュニケーションをうまく取れなかったことがあった。 ➤ メンバーそれぞれの活動に対しての意思や、どこまで情報を把握しているのかなどが分からず、一体となって活動することができなかった。改善方法として、「何日までに決める」「1日1回は必ずteamsなどの連絡を確認し、リアクションする」など期限付きのルールを学科のメンバーの中で決めるようにすると良いと感じた。	
評価	今回の活動を100点満点で評価してみましょう→（ 60 ）点	
展望	・ メンバーが多いと全員のスケジュールを合わせるのは難しいが、そうした状況の中でも連絡や報告が来た際には、必ず返信したり、リアクションをしたりするなどを心がけたりする。 ・ メンバー1人1人が「自分がピア・サポーター」の一員であるという自覚を日頃から持つとより良い活動ができると思う。	

年間スケジュール	
2023 年 6 月	・ 定例会参加 ・ 24 日、25 日 スタートアップ研修参加 ・ 28 日 学科長顔合わせ
2023 年 7 月	
2023 年 8 月	
2023 年 9 月	
2023 年 10 月	
2023 年 11 月	・ 3 日 福祉計画学科ゼミ相談会 学科初回ミーティング ・ 24 日 センター長に企画書提出
2023 年 12 月	・ 9 日、10 日 キックオフ会参加 ・ 15 日 ゼミ相談会
2024 年 1 月	
2024 年 2 月	
2024 年 3 月	
2024 年 4 月	・ 3 日、4 日、6 日 なんでも相談会
2024 年 5 月	



活動名称	ゼミ相談会		
日時	2023 年 12 月 15 日		
場所	C502		
対象者	2024 年度「専門演習Ⅰ」履修予定の福祉計画学科 2 年次及び北星学園大学短期大学部からの編入予定者	参加者数	12 人
目的	自らの希望する勉強、研究に取り組めるようなゼミ選択ができるよう、相談対応を行う。 ゼミに所属する先輩から直接話を聞くことで、自分の興味のあるゼミを発見・選択できるようになる。		
準備	準備のスケジュール、実施したこと等を具体的に書きましょう ・ 11 月 3 日 学科会議① ・ 11 月 22 日 学科長との打ち合わせ実施 ・ 11 月 24 日 ゼミ代表生への依頼 ・ 11 月 30 日 学科会議②、各ゼミの先生に企画書とゼミ生のメンバーリストを送る ・ 12 月 5 日 ゼミ代表者確定 ・ 12 月 8 日 2024 年度「専門演習Ⅰ」履修予定者への告知開始 ・ 12 月 14 日 学科会議③ ・ 12 月 15 日 企画当日		
実施内容	・ 教室内に各ゼミ(7つ)のブースを作り、各ゼミに2人ほど相談対応のゼミ生が居るようにする。 ・ 相談に来た学生は、自分が相談したいゼミのブースに行き、自由に相談できるようにする。		
良かった点	・ わからないことや困ったことがあった際に、分かる人にすぐに助けを求められることができた。 ・ ゼミに所属する先輩に直接ゼミの雰囲気や学習内容を聞くことができた。 ・ 各ゼミに一人必ず先輩がいるので、ゼミ選択を悩んでいる学生が選択を絞る、考えるきっかけができた。		
反省点	・ 企画準備に取り掛かる時期が遅かった。 ➤ 学科でどのような企画を実施したいのかについて、新体制が始まった時期くらいから学科メンバーで話し合い、意思確認しておく。 やりたい企画があればその企画を実施する際のスケジュールや段取		

	りを確認し、計画を立てていくと良い。学科メンバーのスケジュールなども見越した早めの計画が必要。 ・ 1年目の作業の負担が多かった。 ➤ メンバーのスケジュールが忙しい際には、対面や遠隔で作業できる日、連絡がつく時間帯などをメンバー間で共有し、できるだけ一緒に作業できる日をあらかじめ把握し、時間を作れるよう工夫する。 ・ メンバー間での連絡の確認ができていたか分かりづらい部分もあった。 ➤ 学科メンバー全員が毎日 teams などの連絡を確認し、リアクションなどをするようルールを決める。 ・ メールの確認をしていたのがアドバイザーが中心であった。 ➤ 現役メンバーが、メールを送信した後に返信が来っていないか細目に確認することをしていなかった。メールを送った後も Outlook をしっかりと確認し、最後まで責任を持って取り組むようにする。 ・ メンバー全員が集まって企画を行うかどうかの話し合いができなかった。 ➤ 企画を実施するかどうかの話し合いはとても大切なことであるため、メンバーのスケジュールが合わず、対面で実施することが難しい際には遠隔で話し合いをするなど、メンバー全員で必ず一度話し合いをできるよう工夫する。 ・ アンケートを回収したが、その直後に集計をしていない。 ➤ 企画のスケジュールや段取りを計画していく段階の際に、アンケートを集計する日にちについても一緒に決めておく必要がある。 ・ アンケート集計 総回答数：6件
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 65 ）点
展望	・ 企画～準備は早めに取り掛かる ・ 全員が集まって一度は意思確認を行う。 ・ 学科のメンバーのスケジュールと照らし合わせて企画を考える。 ・ 今回の相談会の参加人数が少なかったため、相談会の宣伝を余裕をもって早く行い、もっと多くの人に来てもらいたい。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/5/27

学科・係名	福祉臨床学科	
メンバー	1 年目	大西小桜・吉田侑夏
	2 年目	阿部かりん・遠藤幸花・斉藤弥沙紀・堀川香奈
	アドバイザー	大久保秀哉
目的・目標	福祉臨床学科の学生に対しての支援	
活動概要	・ 3 年次から始まるゼミに向けたゼミ選考の参考資料としてゼミ冊子を作成・公開。 ・ 昨年度から創設された社会福祉学科の学生に対して、福祉計画学科と協力し、新入生説明会・なんでも相談会の企画準備及び各種企画の実施。 (社会福祉学科としての活動報告については、社会福祉学科のページを参照)	
良かった点	・ 企画準備や研修を行う中で、1 年目・2 年目の交流を盛んに行うことができた。 ➢ 昨年度の活動の様子を聞くことで、今年度実施できそうな内容の企画を考えることができた。 ・ 学科内で疑問や聞きたい事が出た際、すぐに相談し解決することができた。 ➢ その時対応できる学科メンバーがチャット等にすぐに反応し早急な解決をすることができた。 ➢ 場合によっては必要な資料も一緒に送ってもらったため、二度手間を防ぐことに繋がった。	
反省点	・ 企画を実施していく中で、しっかりとした打ち合わせの時間を取ることが少なかった ➢ 実習やサークル等で、メンバーの都合を合わせることができず、定例会前後の短時間での話し合いとなってしまう場合が多かった。	
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (90) 点	
展望	・ 実習等があり厳しいかもしれないが、企画を実施していく中でできるだけ対面でしっかり時間を取って打ち合わせや作業をする時間を取りたい。	

年間スケジュール	
2023 年 6 月	
7 月	18 日 ・ 学科長顔合わせ →6 日、学科長に日程調整メールを送信
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	6 日 ・ 臨床学科ゼミ冊子の企画書作成 12 日 ・ 学科長と打ち合わせ 14 日 ・ 学科の先生方へ学科長から依頼メール送信 ・ 各ゼミアンケート回答者の選出開始 21 日 ・ アンケート回答者の選出締め切り ・ アンケート回答者へアンケート(Google フォーム)送信 26 日 ・ アンケート回答締切
2024 年 1 月	9 日 ・ ゼミ冊子完成、学科長へ共有 11 日 ・ 臨床学科ゼミ冊子を Moodle にて公開
2 月	



3月	
4月	3日、4日、6日 ・ なんでも相談会参加
5月	

No.1

活動名称	ゼミ冊子作成		
日時	2024 年 1 月 11 日(公開日)		
場所	Moodle に掲載 (書庫内「福祉臨床学科」に保存済み)		
対象者	2024 年「福祉臨床専門演習」 履修予定の 2 年次	参加者数	公開形式のためなし
目的	・ 実際にゼミに所属している学生の声聞くことで、対象学生が希望する分野に合わせたゼミ選択を行えるようにサポートする ・ ゼミ選択の際のミスマッチを防ぎ、ゼミ学習がより有意義なものにする ・ 学生が主体的にゼミ選択を行うきっかけをつくる		
準備	2023 年 12 月 12 日 学科長との会議 12 月 14 日 学科の先生方への依頼メール送信 12 月 22 日 アンケート開始 12 月 26 日 アンケート締切 2024 年 1 月 9 日 ゼミ冊子完成 1 月 11 日 ゼミ冊子を Moodle に掲載		
実施内容	2024 年 1 月 11 日 Moodle にて掲載		
良かった点	・ 2 人で作業を分担できたため、スムーズに進めることができた。 ・ 学科の先生との関わりができ、次年度の活動のアイディアをもらうことができた。 ・ 提供する側もゼミを選ぶ立場であったことに加え、田中学科長の協力もあり「同じ悩みを持つ学生目線」での内容となったものを提供できた。		
反省点	・ 作ると決めた日時が遅かったため、全体的にぎりぎりのスケジュールとなった。 ➤ 対処方法：早めに余裕を持って企画を立てる。 ・ スケジュールに余裕がなかったため学生一部から回答が届かず、届かなかった場合の対処を行うことが出来なかった。 ➤ 対処方法：回答が返って来なかった時のことも想定して動く。		
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (83) 点		

展望	・ 余裕を持ったスケジュールを組み、もう少し計画を立てて活動したい。 ・ 冊子公開後、実際に冊子を見た学生の意見を聞くために、アンケートを実施すべきだった。 ➤ 次年度以降、何らかの活動を行った際にはアンケートを行う。 ・ 本企画を提案した際、田中学科長から「卒論テーマに関する調査も行うとおもしろいのでは？」といった意見を貰っているため、実施を検討したい。
--	--

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/5/27

学科・係名	社会福祉学科	
メンバー	1 年目	阿部のの子・大西小桜・山崎日和香・吉田侑夏
	2 年目	阿部かりん・遠藤幸花・小岩大志・斉藤弥沙紀・白崎快・土開楓・堀川香奈
	アドバイザー	
目的・目標	社会福祉学科の学生に対しての支援	
活動概要	・ 新入生説明会、なんでも相談会の企画準備及び実施 ・ カリキュラム勉強会	
良かった点	・ 自身が所属していない学科を対象としたサポートがメインだったが、計画学科と臨床学科で協力をし、社会福祉学科のカリキュラムに沿った説明会や相談対応をすることができた。 ・ 対面や遠隔、SNS でのコミュニケーションが取れたため、迅速に物事に取り組むことができた。 ・ 1 年目が主となる活動の際に、議事録・情報の共有が頻繁であったため 2 年目も状況を把握することができた。	
反省点	・ 自身が所属していない学科であるため、新入生支援において「どのようなことに困っているのか」等、新入生の目線に立ったサポートを考えることが難しかった。 ➤ 次年度からは「社会福祉学科」の現役メンバーが活動を始めため、次回新入生支援を行う際に今年度の反省を活かし、よりよいサポートを計画していきたい。	
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 90 ）点	
展望	・ 学科は違えど、実習等自身の経験が活かされる場面はあるはずなので、社会福祉学科のメンバーに活動を任せきりにせず、計画学科・臨床学科も協力してピア・サポートを行っていきたい。 ・ 実習に行く学生の割合が高くなると考えられるので、より一層各々の状況の共有が重要になってくると考える。スケジュールの共有、話し合いの場の設置なども考慮する必要がでてくる。	

年間スケジュール	
2023 年 6 月	特になし
7 月	特になし
8 月	特になし
9 月	特になし
10 月	特になし
11 月	特になし
12 月	特になし
2024 年 1 月	11 日：学科長面談 30 日：第 1 回会議：スライド・台本の編集役割分担
2 月	6 日：第 2 回会議：進捗報告 9 日：進捗報告会 16 日：第 3 回会議：学科リハに向けた準備 17 日：学科リハ(1 回目) 20 日：中間リハーサル 23 日：第 4 回会議：当日の印刷物について
3 月	8 日：第 5 回会議：新入生応援ブックについて 11 日：学科リハ(2 回目) 15 日：第 6 回会議：最終リハに向けて 18 日～19 日：最終リハーサル 22 日：第 7 回会議：当日に向けて 25 日：学科リハ(3 回目) 29 日：学科リハ(4 回目)
4 月	2 日：新入生説明会
5 月	特になし



No.1

活動名称	社会福祉学科 新入生説明会		
日時	2024 年 4 月 2 日		
場所	A503		
対象者	2024 年度社会福祉学科入学者	参加者数	117 人
目的	大学生生活を送る中で必要な情報や学科の特徴を説明することで、新入生にとっての不安や悩みを解消、長期的に見た大学生生活をイメージしてもらう。		
準備	2024 年 1 月 11 日：学科長面談 1 月 30 日：第 1 回会議 2 月 6 日：第 2 回会議 2 月 9 日：進捗報告会 2 月 16 日：第 3 回会議 2 月 17 日：学科リハ(1 回目) 2 月 20 日：中間リハーサル 2 月 23 日：第 4 回会議 3 月 8 日：第 5 回会議 3 月 11 日：学科リハ(2 回目) 3 月 15 日：第 6 回会議 3 月 18 日～3 月 19 日：最終リハーサル 3 月 22 日：第 7 回会議 3 月 25 日：学科リハ(3 回目) 3 月 29 日：学科リハ(4 回目) 4 月 2 日：新入生説明会		
実施内容	2024 年 4 月 2 日：新入生説明会 ・ 事前に資料を席に置いておき、入ってきた学生に資料がある席に座るよう誘導(2 年目) ・ 説明会終了後は教室内を回り、随時質問を受け付けた		

良かった点	・ 実習期間により全員で会議を行う事が難しい中で、Teams を利用してオンラインでの会議を週 1 で必ず実施した ➤ 役割分担や学科リハーサルの日程等、スムーズに決めることができた ➤ 毎回議事録を作成し共有することで 1 年目だけでなく 2 年目にも会議の内容を共有することができた ・ それぞれのキャパシティに合わせて仕事の分担量を調節することで、無理のない範囲で準備を進めることができた
反省点	・ 対面で作業する時間が少なかった ➤ 特にスライド修正に関しては対面で会話をしながら進めたほうがやりやすい場合が多いため、なるべく対面で作業する時間を設けたい ・ 説明会直前まで配布資料等の準備をしていた ➤ サポートデスクの都合も考え早めに取り掛かりたい
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (95) 点
展望	・ 次年度からは社会福祉学科の現役メンバーが活動するため、自分たちの経験や反省を活かし、よりよい説明会を実施できるようにサポートしていきたい

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/5/09

学科名	心理学科	
メンバー	1 年目	北島楓 川除拓夢 石本大
	2 年目	山田杏樹 中井優花 成田歩未
	アドバイザー	森零 瀬川大輔 吉田峻人
目的・目標	学生に寄り添うために学生視点で考える。例年以上に学生支援の機会を増やしていく。	
活動概要	・ 学期中は、カウンターシフトを行い、心理学科の学生支援に努めた。 ・ 学科の企画としては以下の 4 つの企画を実施した。 ➤ SNS を使用した勉強方法の発信 ➤ 心理学統計法勉強会 ➤ ゼミ説明会 ➤ 新入生説明会 ・ 新入生説明会に向けてのカリキュラム勉強会も行った。 ・ 活動を企画する際は、対面での話し合い、Teams や LINE での情報共有を行なった。	
良かった点	・ メールでの個別相談にも柔軟に対応することができた。 ・ 昨年度より多くの企画を実施し、経験を積んだことで、1 年目が主体的に行う新入生説明会に向けてのキャリアアップに繋がった。 ・ 心理学科の学生のニーズに合わせて新しい企画を実施し、2 つの企画を同時進行で実施することができた。2 つの企画を同時進行するにあたって、作業効率を上げるために学科メンバーの得意分野を考慮して役割分担した。 ・ 昨年度の反省を生かして、対面での打ち合わせや役割分担をすることで、全員が責任感を持って、意見交流を活発に行えるようになった。 ・ 心理学科と北星ピア・サポーター心理学科で例年以上にかかわりを持つことができた。北星ピア・サポーターとして得た知識を使って、オリターや学科長、担当職員の方々との情報共有を円滑に行うことができた。	

反省点	・ 告知方法の強化（データから授業内のお知らせが多数） ・ アフターケア不足（企画が終わった後の対応方法の告知） ・ ラーニング・コモンズ（以下、ラーコモ）開催ならピアサポの日常活動の広報になるため、カウンター相談に来てもらいやすくなる。 【課題①】新しい企画の実施を決定するのが遅くなってしまった。 ➤ 企画当日から逆算して予定を立てるべきだった。 ➤ 新しい企画に関する情報が不足しており、企画実施の決定が困難だったため、企画に対する需要や例年と異なる点（教科担任の変更等）の情報収集を早めに行うべきだった。 ➤ 2つの企画を同時進行する際に、リスクばかりを考えるのではなく、両方を成り立たせる解決方法を積極的に考えるべきだった。 【課題②】2つの企画を同時進行している際に各企画同士で連絡をとれていなかった。 ➤ 定期的に全体で集まって進捗状況を確認するべきだった。 【課題③】メールでの個別相談に対応するのが遅くなってしまったことがあった。 ➤ 全員がメールの通知を定期的に確認すべきだった。 ➤ 全員がTeams上で発言できる雰囲気づくりをしておけば、通知に気づいた人が全体に伝えることができ、早めの返信につながるだろう。 【課題④】多くの学生が企画に参加してもらえるように工夫すべきだった。 ➤ 「心理学統計法勉強会」という企画名が堅く、学生が参加しづらいものと捉えた可能性が考えられる。参加しやすい企画名に改善することが、参加者を増加させる要因になるだろう。 ➤ 今年度の各企画のアンケートの結果から、授業内の告知が告知方法として最も効果があったことが示されたため、今後は授業内告知の強化をするべきだった。 ➤ 1年目と2年目でペアを作り、誰に聞けばいいかを明確にして相談しやすい環境づくりを整える。 【課題⑤】誰かがやってくれるだろうと任せっきりになる部分があった。 ➤ 当日運営、当日までの準備など、役割分担がしっかりできていればよかった。
評価	今回の活動を100点満点で評価してみましょう→（84）点
展望	◆1年目と2年目間の交流、1年目の積極的な企画参加、目的・目標の明確化の3点に重点を置いて、以下のように活動していきたい。

	・ 前期末に心理学科の学生を対象に、アンケート調査を実施したい。 ➤ 学生が何を必要としているか、何に困っているかを知ることによって企画立案の際の参考になる。また、それらは新入生説明会で新入生に伝えるべきことにもつながる。 ➤ 新入生説明会の準備に向けての1年目のスキルアップにつながる。 ・ 心理学科顔合わせは来年度も実施したい。 ➤ 今後の活動に向けて、1年目と、2年目の関係構築につながる。 ➤ 顔合わせ実施時に、スケジュール共有を提案したい。 ・ 心理学科顔合わせで、目的・目標を決めたい。 ➤ 来年度の1年目と2年目の意識のすり合わせになる。 ➤ 活動していくうえで、常に目的・目標を意識して活動していく。
--	--

年間スケジュール	
2023 年 6 月	1 日 心理学科 1 年生対象勉強方法の発信 初回会議 23 日 心理学科顔合わせ
7 月	13 日 心理学科 1 年生対象勉強方法の発信 企画書提出 18 日～26 日 心理学科 1 年生対象勉強方法の発信 企画実施 21 日 学科長挨拶
8 月	
9 月	
10 月	19 日 心理学統計法勉強会 初回会議 23 日 心理学科ゼミ説明会 初回会議
11 月	29 日 心理学統計法勉強会 企画書提出 30 日 心理学科ゼミ説明会 企画書提出
12 月	21 日 心理学統計法勉強会 企画実施



1 月	11 日 心理学科ゼミ説明会 企画実施
2 月	
3 月	
4 月	3 日 2024 年度心理学科オリエンテーション 企画実施
5 月	

活動名称	心理学科 1 年生対象勉強方法の発信		
日時	2023 年 7 月 18 日 ～ 2023 年 7 月 26 日		
場所	北星ピア・サポーター公式 Instagram、X（旧 Twitter）		
対象者	心理学科 1 年生を中心とした、全学生	参加者数	
目的	心理学科ピア・サポーターが実践する勉強方法等を紹介し、参考にしてもらうことで、勉強方法等に不安を感じている学生の不安を取り除くことが目的であった。 その他、勉強方法に不安を感じている学生が将来的に自分なりの勉強方法を見つける手助けをする目的があった。		
準備	◎スケジュール 6 月 1 日(木) 第 1 回 2 年目打ち合わせ 企画内容の検討 6 月 7 日(水) 第 2 回 2 年目打ち合わせ 企画内容の検討 1 年生向けアンケート実施決定 6 月 9 日(金) アンケートの原案を作成、添削のために提出 6 月 13 日(火) 心理学概論・心理学研究法でのアンケート実施のために、 教員 N に依頼の連絡 6 月 20 日(火) アンケート実施 6 月 26 日(月) SNS を用いた企画に決定 企画内容の決定 企画書の作成 7 月 3 日(月) SNS 投稿作成の手引き作成・共有 投稿作成開始 7 月 7 日(金)～7 月 13 日 心理学科 1 年生向け告知メール作成 7 月 13 日(月) 学習サポートセンター、センター長に企画書提出、メールで実施 7 月 14 日(火) 学科長へ企画の報告、メールで実施 企画告知メール送信、ポータルサイトへの告知の掲示 7 月 18 日(火)～7 月 26 日(水) 企画の実施		
実施内容	心理学科 1 年生に向けて、心理学科北星ピア・サポーターが実践している勉強方法や試験対策を紹介する投稿を行った。 投稿は、北星ピア・サポーター公式 Instagram、X(旧 Twitter)を活用した。 投稿内容は印刷して 2 冊の冊子にしたものをラーコモに置いた。 投稿した内容は以下の通りであった。 ・ 心理学科ピア・サポーターがラーコモのカウンターシフトにいる時間 ・ 心理学科の必修科目に関連させた内容 ・ 暗記方法 ・ ノートのまとめ方 ・ 空き時間の使いかた		

	・ 時間の組み立て、予定の立て方 ・ 体調管理の方法 ・ 睡眠時間の確保の方法 ・ 学習に関しての相談をできるところ ・ オフィスアワーの活用 ・ 日本語ライティング（レポートなど）をはじめとした学習サポートセンターの活用 ・ 文章の考え方、組み立て方法 ・ 勉強できる場所 学生への告知は、心理学科 1 年生に向けて学習サポートセンターからのメールを通して行った。 また、その他学生に関しては、ポータルサイトに告知を掲載した。また、A 館の階段と社会福祉学部の掲示板、ラーコモに告知ポスターを掲示した。 今回の企画の計画段階で、学習面での困難を知るために心理学科 1 年生を対象としたアンケートを行った。
良かった点	◎アンケートに関して ・ 事前アンケートをとるまでの手配（添削・配布など）を素早く行うことができた ・ 事前アンケートをして、心理学科の学生の困ったことを知ることができた ・ 確認事項や提出物などの確認・返信を素早く行うことができていた ◎企画全体について ・ 前年にはなかった新しい企画をおこなうことができた ・ 初めてのテスト期間を迎える 1 年生などに向けて各々の勉強方法を発信することができた ・ 1 年目も巻き込んで企画ができた ・ 学科メンバーのスキルアップにつながった（Canva 等の活用） ・ ポスターを作成、大学構内に掲示し、心理学科 1 年生を中心とする全学生に向けた企画を告知することができた ・ SNS を利用していない人のために、投稿を印刷したものを用意することができた
反省点	◎アンケートに関して ・ 心理学科 1 年生向けのアンケートだったが、再履修者を考えておらず他の学年の意見が混ざってしまった。 ➢ 心理学科 1 年生向けのアンケートとするなら、最初に 1 年生のみ回答することを言うことと、回答欄にそう記載するべきだった。 ・ 科目を自由記述にしたため、科目の正式名称と略されたものの回答があり、集計しにくさを感じた。 ➢ 自由記述ではなく、複数回答の選択肢にすると良い。

	◎企画全体に関して - 企画を行うにあたって、準備の日程が足りなかった。 ➤ お互いのペースを予め把握し、動き出しを早くすることでスケジュールに余裕を持たせる。 - 広報係や教職員の方々等、関係する人の予定や余裕について確認できていないまま、協力を依頼してしまった。 ➤ 企画が固まった段階で協力してほしい係には、企画ができるかどうかを含めて関係するすべての人に相談すべき。 ➤ SNS 企画と決定した時点で広報の人も巻き込むべきだ（企画を行っている期間だけでも心理学科のチャンネルに入ってもらうなど）。 ➤ 他学科、係などを巻き込む場合は予想している日程よりも余裕を持って、話し合う時間を増やすべきだった。 - 投稿の添削を学科外に頼り切りだった。 ➤ できるだけお互いに（同学科内で）確認してから、さらに関係する係や教職員の方々に確認をもらう。 - 投稿内容が被ったり、内容が浅かったりした。 ➤ どのような内容にするかを予め確認、全員が把握する機会を設ける。全員の予定を合わせることは困難なときはオンライン、チャット等ツールを活用すべきだった。 - 学科内で企画内容を共有しきれなかった。 ➤ 学科内でも情報共有や依頼を丁寧に行い、企画の段階から 1 年目のメンバーを巻き込む必要があった。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（80）点
展望	◎アンケートに関して 事後にアンケートを行わなかったため、企画がどの程度 1 年生やその他学生のサポートになっているのかが不透明になってしまった。そのため、SNS を活用した企画を行った後は、「どの程度見てもらえたか」「どの程度役に立ったか」などの情報を集めることで改善点等もわかる。企画前にアンケートを作成する必要があるため、来年度行う場合は今年度の事前アンケートを作成の参考にすると効率的である。 ◎SNS の活用に関して SNS を活用した企画を行うなら、SNS を利用していない人のことも考えて別途対応する必要がある。今回行ったように企画で使用した資料を印刷することも可能であるが、利便性や拡散度を考えると他の媒体に掲載する可能性を模索する必要がある。例えば、心理学科の学生に役立つ内容に絞り、電子資料で送ったり、Moodle にリンクを貼るなどの手段も考えられる。 ◎企画の告知に関して

	企画の告知は、学科を対象とするものは学習サポートセンターに協力を依頼し、メールを送ることができる。だが、全学生に対してメールを送るということは、重要な内容のものが主となるため、ピア・サポーターの企画の告知をすることには適さない。そのため、今回のように全学生向けの告知はポータルサイトでの掲示やポスターの掲示をすること、その他方法で行うことが良い。ポスターをA館の学部の掲示板に掲示する場合は教育支援課に許可をとり、ラーコモで掲示する場合は学習サポートセンターに許可をとる必要がある。教育支援課への依頼はピアサポ外への依頼となるため、信頼関係の維持のため学習サポートセンターに相談すると良い。 ◎係や他学科への協力依頼に関して 広報係等、係や他学科のピア・サポーターに協力を依頼する場合は、なるべく対面で打ち合わせる機会を設けるべきである。また、その上で係や学科の中で誰が主となり協力をしてもらっているのかを心理学科ピア・サポーター内でも明確に周知しておくことで、置いていかれる人がいなくなり、スムーズな動きができる。 SNSを活用する際は、そのSNSの特性をよく考えて計画することが必要となる。今回はInstagramとXを活用したが、Xでは文字数制限があり、Xを活用する際は、Instagramと同じ文面の投稿ができなかった。最初から文字数制限を考えた文面を作成することが必要となる。また、Instagramは画像を必ず使用するため画像がメインの投稿であるが、Xでは文面がメインの投稿となる場合が多い。そのためXでは画像を使用することがInstagramよりも効果を示さない可能性が考えられる。様々な学生に対応するために両方のSNSを活用したり、紙資料を作成したりしたことは良かった点であるため、企画内容と活用するものの特性を考えて、活用するものを判断すると良い。
--	---

北星ピア・サポ | タ |

乗り越えろ! 学期末!

先輩たちのアドバイスを添えて

配信日時

7月18日(火)～7月26日(水)

心理学科北星ピア・サポ | タ | が
心理学科の1年生を中心とした全学生へ
北星ピア・サポ | タ | 公式Instagram 公式Twitterにて
期末試験・期末レポートに向けた勉強方法などを発信します!
9月下旬までラ・ニングコモンズ内で冊子でも閲覧できます。

Instagram



@HOKUSEI_PEER

Twitter



質問・問い合わせ 心理学科北星ピア・サポーター
(peer-shinri@hokusei.ac.jp)

北 星 ピ ア ・ サ ポ | タ |

期末に向けてのアドバイス

ためになる! 先輩たちの声を添えて

内容

7月18日(火)～7月26日(水)

心理学科北星ピア・サポ | タ | が
心理学科の1年生を中心とした全学生へ
北星ピア・サポ | タ | 公式Instagram、公式Twitterにて
期末試験・期末レポートに向けた勉強方法などを発信します!
9月下旬までラ・ニングコモンズ内で冊子でも閲覧できます!

Instagram



@HOKUSEI_PEER

Twitter



ご質問
問い合わせ先

心理学科北星ピア・サポ | タ |
(peer-shinri@hokusei.ac.jp)

活動名称	心理学統計法勉強会～jamovi の操作に慣れよう～		
日時	2023 年 12 月 21 日 13:00~17:50		
場所	C502		
対象者	心理学統計法履修者及び、jamovi の操作方法に不安のある心理学科 2、3 年生	参加者数	6 人
目的	jamovi の操作を中心とした心理学統計法の内容を勉強する場を提供し、jamovi の基本的操作を身につけてもらうことを目的とした。自習の重要性を伝えることで、春休みに自習を行なうきっかけを作り、次の学習に進む時に jamovi の操作に困らない環境づくりを目指した。		
準備	◎スケジュール 10 月 19 日(木) 心理学統計法勉強会実施についての打ち合わせ 10 月 20 日(金) 学科長打ち合わせのための確認 10 月 23 日(月) 眞嶋学科長と心理学統計法勉強会・ゼミ説明会についての打ち合わせ 10 月 25 日(水) 学科長打ち合わせの内容共有 11 月 1 日(水) 科目教員の T 先生との打ち合わせ 11 月 6 日(月) 心理学統計法授業時にピアサポから 1 年生向けのアンケートを担当教員 T から配布 11 月 9 日(木) アンケートの回答確認、企画内容の検討 11 月 10 日(金) 心理学統計法・ゼミ説明会の役割分担決定 11 月 14 日(火) 心理学統計法チーム第 1 回打ち合わせ 企画内容の検討 11 月 17 日(金) 第 2 回打ち合わせ 企画内容の検討、企画書作成 11 月 22 日(月) 企画書添削 開催教室予約 11 月 24 日(金) 第 3 回打ち合わせ 担当教員 T との打ち合わせ内容の確認 作成する問題の内容を考える 11 月 29 日(水) 企画書完成 センター長へ企画書を送信 11 月 30 日(木) 眞嶋学科長へ企画書を送信 担当教員 T に企画の協力依頼のメールを送信 12 月 1 日(金) 第 4 回打ち合わせ 12 月 7 日(木) 第 5 回打ち合わせ 担当教員 T との打ち合わせの内容確認 12 月 8 日(金) 担当教員 T との打ち合わせ 12 月 11 日(月) 心理学統計法授業内で企画の告知 告知ポスターの掲示 12 月 14 日(木) 担当教員 T との打ち合わせ 企画の告知をメールで送信 インスタで告知を投稿 12 月 15 日(金) ピアサポ内統計法勉強会		

	12月18日(月) 体験談プリント、参加者アンケート完成 12月20日(水) 前日準備(資料印刷、当日の流れ確認) 12月21日(木) 企画当日
実施内容	心理学統計法履修者及び、jamovi の操作に不安のある学生を対象に、勉強会を実施した。春休みの自習を促すために、問題用紙の最後のページには心理学科のピア・サポーターのこれからの学習に関する体験談や自習方法を記載したページを用意した。 流れは以下のようになっており、当日の変更点は矢印の後に記す。 - 勉強会の目的を説明する - jamovi のインストールを行なってもらう - 問題の配布を行う ➤ 説明会開始時に学生が集まらなかったため、来た学生に対して順次個別に対応した。 ・ 勉強会と並行し、心理学科の勉強に関する相談を受けつけた。 ・ 問題の解答は、教室の前方に置き、問題が解き終わった人から持ち帰るという形式にした。 ➤ 対応中・対応後に手渡しした。 ・ 企画が役に立ったかどうかなどを聞くアンケートの QR を問題用紙の表紙裏に記載し、解答してもらった。 配布したもの ・ 分析に使用するデータ データの配布は Moodle の学習サポートセンターのコースにて配布した。その際、解答のデータは、企画後半に配布した。 ・ 問題用紙(冊子にして配布) 1. プログラムとアンケートの QR を記載した表紙 2. t 検定の分析 3. 相関 4. 分散分析 5. 体験談プリント 余った配布物は、1 月の心理学統計法の授業内で希望者のみ先着で配布した。 広報 ・ 1 年生に対しては、心理学統計法の授業内で告知をした。 ・ 1 年生から 3 年生の 3 学年を対象に学習サポートセンターを通してメールでも告知をした。 ・ A 館 1 階の掲示板、センター棟の 1 階と 2 階に告知ポスターを掲示した。 ・ 北星ピア・サポーター公式 Instagram で告知をした。

良かった点	◎準備期間 ・ 全員で意見を積極的に出すことができたこと。 ・ 体調不良などの不測の事態でも当初予定していた制作物を作りきることができたこと。 ・ 与えられた役割をきちんと遂行することができたこと。 ・ 分からないところなど相談し合うことができたこと。 ・ 本番を想定した準備をすることができたこと。 ・ チームに分かれて少人数で進めることで、対面での話し合いの予定がつきやすかったこと。 ・ 少人数だったため、お互いの作業の進捗を確認しやすかったこと。 ・ 先の予定を考えて、作成できるものから取り組み始めたこと。 ・ 集まらない時でも Slack・Teams 内での意見交換が活発だったこと。 ・ 何に重点を置いて企画を行うか、企画を通して学生にどうなってもらいたいかという願いを、自分たちのスキル面や余裕を考えて内容を定めることができたこと。 ・ 問題用紙の作成を分析ごとに分担したことで、ピアサポ内でもお互いに内容を教え合えることができたため、ピアサポ内での学習はスムーズだったこと。 ・ 問題だけではなく、自分たちの体験談を掲載したことで、ピアサポならではの学生目線の企画になったこと。 ・ 学科長、科目担当教員と対面で意見を聞いて、話し合うことができたこと。 ◎当日 ・ 参加者に積極的に話しかけ、統計法を教えることができたこと。 ・ 参加者を不安にさせるような発言を控えられていたこと。 ・ 本番を想定した準備ができていたため、スムーズに勉強会を進行することができたこと。 ➤ 参加者数と参加のタイミングにより予定していた進行から変更があったが、戸惑わずに対応できていたため。 ・ 参加した学生が、心理学統計法以外の来年度の学習に関してなども相談しやすい雰囲気を作れていたこと。 ・ 想定よりも jamovi のダウンロードに時間がかかり、先生に対応してもらった部分があったが、その間に他の学生のパソコンで一緒に問題を解いてみたり、学生の宿題を一緒に考えたりするなどの対応ができたこと。 ・ 当日の流れを事前にゼミ説明会チームに共有していたため、心理学統計法勉強会チームが少ない時間帯でも学生の対応ができたこと。 ◎後日 ・ 余った配布物を後日配布することで、当日参加できなかった人へのサポートができたこと。
--------------	--

反省点	◎準備期間 ・ 役割が集中していたこと。 ➤ 積極的にやるべきことを自主的に探す習慣を持つ。 ・ Teams の確認が少し遅かったこと。 ➤ Teams を定期的に見る習慣をつける。 ・ メールの作業と他の作業の同時進行で進めていたが、一つのことに時間がかかっていた。そのため、準備に余裕を持てなかったこと。 ➤ 毎日計画を立てて、作業を進める。 ・ 配布物を企画の1週間前には完成するように予定を立てる。 ・ デスクに確認してもらいたいメールや資料の提出に余裕がなかった。余裕のないスケジュールで添削の依頼をしてしまったこと。 ➤ 3日間～1週間近く余裕を持つ。基本的には添削してもらいたい前日にはアポを取るべき。 ・ 問題用紙の体裁を問題作成開始後に変更したため、揃えることに時間がかかったり、揃えられなかった部分があったこと。 ➤ 先に仮でできたものをデスクに相談し、決まってから問題を作り始めると良い。 ・ 問題の精度を完璧にできなかったこと。数値間違いがいくつかあったこと。 ➤ 科目担当教員のチェック前に、ピアサポ内で数値の確認までする。 ◎当日 ・ 問題に関して答えが曖昧な部分があった。 ➤ 事前にピアサポ内で分析のリハーサルを行い、曖昧な部分を必ず解決する。 ・ パソコンの充電器などの用意が少し足りない部分があった ➤ 何がなかったら困るかを考え、必要なものを考える ➤ 常に最悪の場合を想定し、行動パターンをいくつか用意しておく。 ➤ パソコンを使うので必要な人は充電器を持ってくるように伝える ・ jamovi のインストールを可能なら事前に実際に自分たちでやるべきだった（インストールに苦戦し、時間がかかりかかってしまったため） ・ 参加者にラーコモで相談受付をしていることを伝えられていなかった。 ➤ 配布した問題冊子か解答冊子にピアサポの紹介を書いたり、相談業務のことを口頭で説明したりする。ラーコモでの相談に繋げるようにする。 ・ ピアサポ内での勉強会を全員で時間をかけて行うことができなかった。 ➤ 問題と解答を余裕を持って用意し、それを活用するか、問題用紙作成と並行して jamovi や統計の本を活用して分析の演習を行う方法が良い。
------------	---

評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (75) 点
展望	・役割担当者に何かあったときに、誰がその役割を引き継ぐかを定める ・分からない事があったら担当教員と協力を求める ・Teams を見る習慣をつけると、何か問題が起きた際すぐに動くことができるため、意識して見るようにする。 ・jamovi の操作メインの企画だったため、心理学統計法という固定の科目名を使うのではなく、jamovi 勉強会でも良い。他の学年が来にくくなる可能性が考えられる。 ➤ 勉強会という名前を変える ➤ テスト勉強の意味合いや勉強という言葉にマイナスイメージがある可能性を考え、「jamovi をマスターしよう!」「jamovi に慣れよう!」など親しみやすいタイトルにする。 ・事前のアンケートでは企画自体の需要はあったが、実際には参加者が少なかったため、jamovi 自体がとっつきにくいものであり、危機感を引き出すことができなかったと考えられる。来年もし行うのであれば、告知でさらに jamovi の重要性を伝えたり、気軽に参加できる内容、あまり年末すぎない日程にしたりするなどの対策が必要。 ➤ 早すぎても授業が進んでいないため、1 年生の授業内容を参照する場合は注意する。 告知で具体的な分析の紹介をすると、当日何を知ることができるのかが分かり、足を運びやすくなる。 ・開催時間を 17:50 までと告知していたため、参加人数によらずその時間まで開催する必要性が出ていたが、来年からは開始時間のみの告知で、臨機応変に対応できるようにしても良い。または、最初からラーコモでの人数を限定した開催(その場合は複数日程、事前申込制度でも良い)を検討する。 ➤ ラーコモでの開催にすることで、1 年生でもラーコモを活用しやすくなり、相談にも来やすくなることも期待できる。 ・余った問題等を後日授業内で配布する場合は、科目担当教員に事前に交渉する ・事前に jamovi のインストール方法の動画を載せても良い。 または、Jamovi のインストールを別の企画として行うことも検討する。 ➤ →1 年生向け企画として行い、jamovi の勉強会自体は対象を考え直す。 ・今回は問題用紙と解答はデータでも Moodle に掲載した。データで見たいという人もいるため、次回も分析データと共に載せても良い。問題を閲覧した人だけ解答が見られるシステムがあればそのようにしても良い。

活動名称	心理学科ゼミ説明会		
日時	2024 年 1 月 11 日(木)16:20~17:50		
場所	C502 教室		
対象者	心理学科 2 年生	参加者数	50 人
目的	4 月初頭の専門演習（ゼミ）の選考に向けて、心理学科のゼミについて雰囲気や内容を知ってもらうことを目的とした。春休みなど時間に余裕があるうちに興味のある分野について調べるきっかけをつくり、4 月の選考に自信をもって挑めることを目指した。		
準備	●スケジュール ※10 月は「心理学統計法勉強会～jamovi の操作に慣れよう～」と同時に企画内容の検討、打ち合わせを行ったが、その後心理学科内でメンバーを分けて 2 つの企画の準備を並行して行った。 10/23(月) 眞嶋学科長と統計法勉強会・ゼミ説明会についての打ち合わせ 11/9(木) アンケートの回答の確認 心理学科会議にて日程決定と内容決め 11/10(金) 心理学統計法とゼミ説明会の役割分担の決定 11/14(火) 説明会方式に決定、時間の設定と 2 年目への内容についての打ち合わせ 11/30(木) 心理アセスメントでの授業内告知の依頼を担当教員へ送信 12/8(金) ゼミ生にスライド作成・発表依頼メールを送信 12/15(金) 心理学科 2 年生にむけて告知文とともに一斉メールを発信 同内容をポータルサイトにも掲示 12/22(金) 心理アセスメントの授業内にて説明会の告知を行う 2024/1/9(火) 北星ピア・サポーター公式 Instagram に告知ポスターが投稿 1/11(木) 企画当日 1/15(月) オープンチャット閉鎖		

実施内容	- 心理学科の2年生（次年度に専門演習を履修予定の学生）を対象に説明会を実施した。各ゼミのスライド作成、発表はそのゼミに所属する3・4年生が担当した。 - 企画当日の15時からリハーサルを行った。 - 説明会はピア・サポーターによるゼミについての簡単な説明の後、ゼミ生の発表→質疑応答を繰り返した。質問はLINEオープンチャットを利用し、質問を司会者が読み上げてゼミ生がその場で答えた。質問が多い場合は、オープンチャット内でゼミ生が回答した。 - 最後にアンケートのQRコードを提示し、回答してもらった。 [配布] - 心理アセスメントの授業内告知でチラシを配布した。 - 当日は紙媒体としてスライド配布はしていない。 - 使用スライドをMoodle上の学習サポートセンターのコースに掲載した。 [広報] - 心理アセスメントの授業内での告知 - A館1階の掲示板、センター棟の1階と2階に告知ポスターの掲示 - 心理学科の2年生に向けてメールを配信 - ポータルサイトに掲載 - 心理学科の公式Instagramに投稿
良かった点	●事前準備 - 想定していたゼミ全てからスライド作成・発表の協力を得ることができた。 - 必修科目である心理アセスメントの担当教員から協力を得られ、授業内で告知を行うことができた。 1カ月以上前という早い段階から開催日程、開催場所など予定を組むことができた。 - 分担した役割をそれぞれがきちんと遂行することができた。 - ポスター、チラシの記載内容とデザインが秀逸だった。 ●当日 - 事前告知をメール、ポスター、授業内告知など様々な場で行ったため、50人以上の参加者が得られた。 - ゼミ生が時間に余裕を持ってくれたため、余裕をもってリハーサルを行うことができた。 - LINEオープンチャットを使用した質問・回答に活気があった。 - 質問が少ないときは司会者からの質問を投げかけることができた。 - 終了後のアンケートからもおおむね満足したとの回答が得られた。

	・ 発表が長くなったときは質疑応答をオープンチャット内に切り替えるなど、柔軟に対応することができた。そのため予定通りの時間に終了することもできた。
反省点	●事前準備 ・ 北星ピア・サポーター公式 Instagram への投稿は、広報係が善意で投稿してくれたため、事前にこちらから先回りして依頼できると良かった。 ・ メンバーが対面で集まる機会が少なかった。 ➢ 日時、曜日を決めて定期的に集まるようなスケジュール作成をする。 ●当日 ・ 教員へスライドの確認をしていなかったゼミがあった。 ➢ スライド作成依頼のメールに注意点として記載していたが、もっと目立たせるなどして見落とさない工夫をする。 ・ 答えづらい質問への回答を考えておくべきだった。(ex. 選考の倍率、公認心理士希望は臨床コース確定なのか、ゼミ合宿は強制なのか…等) ➢ ゼミ生を含めた主催者内で、答えにくい質問についての対応方法を決めておく。 ・ 録画はしなかったが、録画する・しないの話で時間を使った。 ➢ 事前に録画するかどうか話し合っておく。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (96) 点
展望	・ オープンチャットを利用した質問をする際は、どのゼミに対する質問であるかを必ず述べてもらう。→質問が多く寄せられた際に次の発表ゼミと混ざってしまうため。 ・ スライド依頼の締め切りは長めに設定する。 ➢ 準備期間が年末年始に近いならば、作成するゼミ生にも予定があることが予想される。少なくとも 2、3 週間は設けたい。 ・ 使用したスライドを後から 2 年生が見返せるように、Moodle 上に掲載、紙で配布するなど、なんらかの手段で残す。 ・ アンケートの結果より、授業内告知が大きな効力を発揮したと考えられる。来年以降に行う際は、可能であれば受講人数の多い講義（必修科目等）にて告知を行いたい。 ➢ 早い段階から担当教員と連絡を取り合い、協力を求める必要がある。

活動名称	2024 年度心理学科オリエンテーション		
日時	2024/4/3（水）13:00～17:00		
場所	C400 教室		
対象者	心理学科新 1 年生	参加者数	82 人
目的	新入生が他学科に自分の学科の仕組みを説明できるくらい理解できるような説明を行う		
準備	12/10 キックオフ会 12/19 カリキュラム勉強会 12/22 会議（説明会目標・グラウンドルール確認） 12/23 会議 4 講（大まかな流れの確認） 2024/1/19 学科長打ち合わせ 1/30 会議 12：30～（説明会と交流会を進める際の条件について） 2/09 進捗報告会 10:00～12:00 2/13 1 年目打ち合わせ 15：00～ 2/15 第一回学科リハ 12:00～17:00 A408 2/16 学科長打ち合わせ 9：30～10：30 チュート 2・3（決定事項と今後の動きの確認） 2/19 1 年目打ち合わせ 15：00～ 2/20 中間リハ 3/12 第二回学科リハ 12:00～16:00 A408 3/19 最終リハ 3/20 オリターとの進捗報告会 3/28 最終学科リハ 18：00～ C400 4/03 本番		

実施内容	・ 新入生の受付を行い、学籍番号順に席を振り分けた。 ・ 時間通り 13 時に説明会を開始した。 ・ 説明会を行った（科目・履修、資格について、よく使うアイテムについての紹介、事前登録、履修登録について）最後にお知らせやアンケートのお願いを行った。 ・ 発表のスライド操作と新入生の見回りを発表担当以外の人が行った。 ・ Wi-Fi の設定を説明会中に行い、オリターと協力し設定の手伝いを行った。 ・ 新入生にポータルサイトと Moodle へのログインを実際に行い、オリターと協力しログインの手伝いを行った。 ・ オリターを中心にレクを行い、C、B がレクの手伝いを行った。
良かった点	・ オリターの方々ときちんと連携し、より新入生のことを考えることができていた企画になった。 ・ 中間リハや学科リハ、最終リハで受けた改善点を速やかに改善できていた ・ メンバーが不在したときも、各自自主的に動き、きちんと活動を行うことができた ・ 学生のパソコン所持率に合わせて、スライドを 2 パターン用意するという工夫を行い、柔軟に対応できた。具体的には学科長説明会の時に新入生にパソコンの所持事情を調べ、パソコンの所持率が過半数を下回っていた場合はスマホの Wi-Fi 設定の仕方を解説するスライドを使うようにするという工夫を行った。今年度はパソコンの所持率が過半数を占めていたのでパソコンの Wi-Fi 設定を解説したスライドを利用した。 ・ Wi-Fi 設定の手伝いをする際にオリターと協力することで多くの人を効率よく見ることができた ・ 自分たちがどこまでできてどこまでできないかを学科長に伝えられた ・ 発表中に自分たちの合図でできた
反省点	・ 役割、仕事量が偏っていた ➢ 事前にきちんと役割分担を行い、自分の役割をやり遂げるようにする ・ 全体の見通し（本番までの流れが特に）が甘かった ➢ 学科リハや会議の日程を事前にきちんと決めるようにする ・ 問題が生じたときの情報共有が遅かった時があった ➢ 問題が生じたり、企画に疑問点が生じたりした際は出来るだけすぐにチームズや LINE にて共有する ・ オリターに当日の動きを伝えるのが遅かった ➢ オリターに協力してもらった部分は出来るだけ早く決め、オリターを困惑させないようにする ・ Wi-Fi の設定だけを見回って手伝うことにすればよかった。

	➤ ポータルサイトのログインなどの見回りは特に必要ないと今回感じたので、来年度から実施しないようにすれば、時間に余裕が生まれる ・ 発表の練習が不足していた ➤ 学科リハをより多く行うだけでなく、各自自主練をより多く行うようにする。またデスクのプレゼントレーニングを利用するのも良い練習になる。 ・ スライドに必要なスクショ等事前に撮っていなかった ➤ 事前にどのようなスクショが必要かをきちんと確定させ、素早くスクショを撮るようにする。具体的にはポータルサイト、Moodle、事前登録、履修登録の画像のスクショが必要だった。 ・ なんでも相談会の2日目とかぶってしまった（学科と合同でするなら日程調整必須） ➤ 学科長と日程に関する打ち合わせをなるべく早くに行うようにする ・ 当初の予定（金曜に集まる）は全く達成していない ➤ 集まると決めた日はきちんと集まるようにする。また会うのが厳しいと感じた際はすぐにメンバーに共有し、別日を集まる日にするようにする
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (50) 点
展望	・ リハーサルや会議日を見通して予定を立てるべき。その場の流れで決めるのではなく、日程を先に確実に決めてそれまでに終わらせる ・ 2年目にもっと話を聞ける機会を作るために、2年目の迷惑にならないことを前提とし2年目を巻き込んだ会議やリハーサルをおこなうようにする。 ・ 経験者である2年目の意見をもっと重要なものだと思うようにする ・ 集まると決めた日はきちんと集まるようにする。集まるのが厳しい時はきちんとメンバーに共有し、別日を集まる日にするようにする ・ 部屋の予約や備品の準備などを行う人をローテーションで行うようにする。またスライドと台本は自分が担当する単元の部分を作成する。 ・ 来年もオリターと合同で企画を行うようにする。そのためキックオフ終了後の学科で合同でやる協議の後に学科長にオリターと共同で行う旨のメールを送る。学科長と早めに打ち合わせを行うことを意識する。 ・ パソコン所持率調査は来年も行う。来年も Wi-Fi 設定を行うのであれば、今年度同様、パソコン用とスマホ用の2種類のスライドを用意し、新入生のパソコンの所持率に応じてスライドを使い分けるようにする。 ・ 学科長顔合わせで心理学科オリエンテーションの話をし、来年度に向けた準備を早めに始めていく。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2024/05/27

学科・係名	短期大学部英文学科	
メンバー	1 年目	大川原未羽 武藤綸花 中村恵和
	2 年目	山田楓
	アドバイザー	高野大和
目的・目標	短大英文学科の学生の短大生活での困りごと解決のサポートを行う。	
活動概要	・ 学生の相談対応をするカウンターシフト ・ 2023 年 6 月 新体制となった北星ピア・サポーター短英のメンバーで学科長挨拶 ・ 12 月 21 日 カリキュラム勉強会 ・ 昨年の 12 月～3 月まで新入生説明会に向けた、パワポと原稿の準備 ・ 2024 年 4 月 新入生説明会となんでも相談会を実施	
良かった点	・ 役職関係なく活発な意見交換ができていて、その結果今後の短大英文の活動(短大英文独自の企画など)に関して非常にクリアな指標ができた。 ・ イベントの休憩時やアイスブレイクなどで短大英文のメンバーだけでなく、他の学科との交流を頻繁に行い、それにより活動内で困りごとがあれば他の学科のメンバーに気軽に相談でき、解決の糸口をつかむことができた。 ・ 経験豊富なアドバイザーが会議や研修に積極的に参加してくれた。そのおかげで新入生説明会が質の高いものに仕上がった。特に、編入学試験の経験談は人脈や自身の体験があったからできた。 ・ 個々の長所を発揮できる場面が多く、また、互いに助け合いながら活動を進めることができた。学生のニーズに応えられるよう調査や声掛けを積極的に行っていた。	
反省点	・ 短大英文の LINE グループで話し合いをすることが多く対面での話し合いが少なかったため、返信が遅くなることがあり作業自体も滞ってしまったことがあった。 ・ 個々の予定で全員で集まれる回数が少なかったため、日程調整は皆が集まりやすそうな定例会後に進捗状況を聞きながら話し合う。 ・ 短英独自の企画を実施することができなかったこと。	

評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（77）点
展望	・ 2 週間に一回や 1 か月に一回のペースで、対面で学科全員で話し合う機会を作る。 ・ 今年で北星短大がなくなってしまうため、何か短英（短大）独自の企画を行いたい。 ・ もっと Teams を活用すること。 ・ 誰かがやっているから大丈夫という考えるのではなく、自分もできる限り手伝おうという意識を持つ。 ・ 全員が今よりさらに主体的に物事を考え、動くことができるようになりたい。 ・ 短大が無くなってしまうまでに、後悔のないよう短英の北星ピア・サポーターの役割を果たしてほしい。

年間スケジュール	
2023 年 6 月	1 日 対面式 29 日 学科長挨拶について打ち合わせ
7 月	20 日 学科長挨拶
8 月	
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	21 日 カリキュラム勉強会

2024 年 1 月	16 日 新入生説明会について打ち合わせ
2 月	10 日 進捗報告会 20 日 中間リハーサル
3 月	17 日 学科リハーサル 19 日 最終リハーサル
4 月	2 日 北星ピア・サポーターによる新入生説明会 3・4 日 なんでも相談会 22 日 企画について打ち合わせ
5 月	

No.1

活動名称	2024 年度新入生説明会		
日時	2024 年 4 月 2 日(火)10:33-11:50		
場所	B405 教室		
対象者	短期大学部英文学科	参加者数	38 人
目的	新入生の疑問を解決に繋げられる手助けを行う。 新入生にこれからの学生生活を想像させやすくする。		
準備	12/10(日) 新入生説明会をどんな説明会にしたいかの話し合い 12/21(木) カリキュラム勉強会 2/1(木) パワポと原稿の役割分担についての話し合い 2/3(土) パワポと原稿の役割分担決定 2/8(木) パワポの一時完成 2/10(土) 進捗報告会 2/19(月) 訂正後のパワポの完成 3/9(土) 対面で集まりパワポと原稿の修正 3/17(日) Zoom でリハーサル 3/19(火) 最終リハーサル 3/29(金) 学科リハーサル		
実施内容	09:00~会場準備 マイク確認、パワポをスクリーンに接続 黒板装飾 10:33~説明会開始 ➤ 自己紹介 ➤ 北星ピア・サポーターについて ➤ 講義について ➤ 単位と履修登録について ～休憩～ ➤ 留学について ➤ 進路選択について ➤ 北星ピア・サポーターの SNS・募集についての告知		

	～11:55 説明会終了 ➤ 質問タイム
良かった点	・ 中間・最終リハで指摘されたことをしっかりと理解し学科練習で克服しようとして努力していたので、本番で短大生活で大事なことを伝えるという意思が新入生に伝わっていたと思う。 ・ 「トークタイム」という新入生がリラックスして短大生活の話を聞くことができる時間を設けることで、緊張をほぐすだけでなく今後の短大生活のクリアなイメージを持たせることができた。 ・ 新入生が困っていることはなにか、私たちが新入生だった時に困ったことを考えながら、スライドの内容を決めることができた。 ・ 役割分担がスムーズに行えたこと。 ・ 自分の担当している部分で準備するのが難しかった箇所を、他の短英メンバーが臨機応変に対応できたこと。 ・ 分からない箇所（留学の内容についてなど）をすぐに相談し、早めに解決することができたこと。 ・ さまざまな方たちからの協力のおかげで、編入や留学についての"リアルな声"を新入生に届けることができたこと。
反省点	・ 個々のスケジュールの事情もあるが、対面での練習量が足りなかったと思う。 ➤ 対面で難しい場合は、Zoom などの利用回数を増やす ➤ 全員が集まれなくても、何人かが集まれる場合は集まる ・ Teams の活用が少なかった。 ➤ やりとりを Teams に移行し、メンバー全員に情報を共有できるようにする ・ パワポと原稿の作成し始める日が遅かった。 ➤ 個々の予定を共有し、日程調整を行う
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（89）点
展望	・ たとえ人数がそろわなくても、対面での練習は必ず行う。 ・ Teams をもっと活用し、短英メンバー全員にこまめに情報を共有する。 ・ 準備に早めに取り組み、余裕を持つ。 ・ 短英最後なので楽しく、後悔のないイベントを行いたい。

北星ピア・サポーター活動報告書

提出日 2023/ 5 /20

学科・係名	生活創造学科	
メンバー	1 年目	渡辺くるみ、為国結菜
	2 年目	
	アドバイザー	
目的・目標	ピア・サポーターとしての自覚を持ち、様々な人の助けになるよう努める。	
活動概要	通年 カウンターシフト、定例会の参加 カリキュラム勉強会 新入生歓迎会の実施	
良かった点	【新入生歓迎会】 ・ 新入生歓迎会を行うにあたり、新しく入学してくる新入生に対しての心情に配慮したゲーム内容を計画できた。 ➢ 気軽に話しかけられるような内容の作成（ゲームの順番、内容、空間の雰囲気など）ができた ・ 計画的に進められた点。 ➢ 定期的なミーティングを行い、意見のすり合わせを行った。 【普段の活動】 お互いに遅刻などをすることもなくできた。	
反省点	【新入生歓迎会】 ・ 仕事量の違いが大きく出た点。 ➢ 一人の仕事量が多く、負担になった。 ミーティングで謝罪済。次の仕事では均等に分けて仕事をする。 ・ 当日のハプニングに対する対処。 ➢ 音楽が流れない、サポート役の人がいないなどの急なハプニングに対する対処が遅かった。	

	様々なトラブルに対応できるように、事前に可能性を考え対処法を用意する。
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→（ 80 ）点
展望	今後は仕事量を均等に分け、お互いの負担を考えて計画・進行することを目指して頑張りたいです。また、様々なトラブルに対しても迅速に対応ができるよう、入念に準備をし、様々なトラブルに対応できるように進行をしていければよりよかったと思いました。 学科全員が参加でき、良い友好関係が築ける企画をしたいです。

年間スケジュール		
2023 年 12 月	新入生歓迎会準備開始（14 日開始）	
2024 年 1 月		
2 月	中間リハーサル（20 日）	
3 月	最終リハーサル（19 日）	
4 月	学科リハーサル（1 日） 新入生歓迎会（4 日）	▼
5 月		

活動名称	新入生歓迎会		
日時	2024 年 4 月 2 日		
場所	C702		
対象者	生活創造学科新入生	参加者数	4 6 人
目的	これからの大学生活における不安解消。 友達づくりのきっかけとなる機会にすること。		
準備	・ 新聞集め・ハサミとガムテープの用意 ・ 人生ゲームの作成 ・ スライドにてタイマー表示 ・ スライド作成 ・ 読み練習 ・ ゲームの景品の用意		
実施内容	1. ピア・サポーターについての説明 2. ネームプレートづくり ➢ 自分を表す特徴と名前を書いてもらい、お互いのことを知ってもらいやすいようにする 3. 人生ゲーム ➢ これからの短大生活で楽しみなことなどを語ってもらう 4. 新聞タワーゲーム ➢ グループをつくり、協力して新聞タワーをつくってもらう。一番高く積み上げたグループに景品をプレゼント。 5. 友達ビンゴ ➢ 教室内を歩き回って、多くの人と交流してもらう 6. なんでも相談会の案内 7. ピアサポイン스타그램の紹介 8. フリータイム ➢ 話したいことを自由に話してもらう		
良かった点	準備 ・ 連絡を常に取り合うようにしていた ➢ 理由) お互いの考えを確認し合いながらスムーズに話を進めることができたから		

	当日 ・ 歓迎会が終わった後も新入生はしばらく話している様子で打ち解け合うことができていた ➤ 理由) ゲームに話す要素や協力して作るという要素を盛り込んだため参加しやすかったと思う ・ 新入生同士が話すきっかけづくりができていた ➤ 理由) 新入生が話しやすいように人生ゲームなどを利用して話題提供ができていたから ・ 司会進行、ファシリテーター、備品管理など参加者全員で役割分担ができていた ➤ 理由) 参加していただいたピアサポーターと生活創造学科の方と事前に打ち合わせを行い、どのような目的で新入生歓迎会を行うのかと、そのためにどんな立ち位置で参加すると新入生のためになるのかを伝えておくことができたから 新入生歓迎会を開始する2時間前から準備を始め、最終確認もできた
反省点	・ 新入生に話せる人が多かったため、ファシリテーターの存在が逆に圧を与えてしまっている状況ができてしまった。すぐに対応しファシリテーターの数を半分に減らしたが、撤退していただいたファシリテーターの方に対して指示を出すことができず配慮が足りなかった。 ➤ 理由) 新入生が緊張で話せない人が多いと思い込んでしまったため、ファシリテーターがもしも必要ではなくなった時のパターンを事前に考えられていなかった。 ➤ 対策) 事前にいくつかのパターンを予測してファシリテーター達に動いていただけるよう伝えておく
評価	今回の活動を100点満点で評価してみましょう→ (80) 点
展望	・ あらゆる可能性を考えて早めに計画するように心掛けるようにする。もしもの事態を想定しておき準備を念入りにする。 ・ 誰かに協力してもらう時はその人の役割と動きをすべて把握したうえで、的確な指示を仰げるようにしていきたい。また、今回は当日を迎える2週間ほど前からピア・サポーターに急遽ファシリテーターをお願いしたが、次回からはもう少し前から相談するようにし、打ち合わせの時間を十分設けて、全員が同じ目的意識をもって取り組めるようにしていきたい。 ・ 当日トラブルもあったが冷静に臨機応変に対応できていたため、これからは柔軟にとらえてすぐに対処していくように心掛けていきたい。

イベント参加

北星ピア・サポーター
イベント参加報告書

提出日 (2024 年/5 月 11 日)

イベント名称	関西遠征 (1 日目) 関西大学ピア・コミュニティ
開催日時	2024 年 2 月 27 日 (火)
開催場所	関西大学
参加メンバー	小倉幹司 (経情アドバイザー)、正木瑛翔 (経済法 2 年目)、中谷光汰 (経済法 1 年目)、為国結菜 (生活創造 1 年目)、佐藤涼美 (英文 1 年目)
準備	☐ 参加メンバーでの打ち合わせ (約 0 回) ☐ イベント主催校やイベントに関する情報収集 ☐ 発表準備 - ホームカミングデーで使用した北星ピア・サポーターの活動報告スライドを使用。一部、写真の入れ替え、他大学向けに内容を変更した。 ☐ 発表練習 - 読み合わせを行い、流れを確認した。 ☐ その他
参加内容	◆活動報告 ◆キャンパスツアー ◆他大学交流 ピアサポ新生に先輩としてできることとは何かを話し合った。
感想	プレゼンテーションによる活動報告においては準備不足だったと思う。もっと簡潔に誰が聞いてもわかる内容にまとめるべきだった。北星内でしかわからない単語を使用しないと説明しづらいところは事前に資料を配布するなど工夫が必要だった。また、3 人で分担しながら発表していたがどのタイミングでスライドを切り替えるべきかなど話あっておくべきだった。今後はスムーズに進められるように仲間ときちんと話し合い事前練習を怠らないようにしていきたい。(D)

	新メンバー加入について各団体それぞれの工夫が聞けて良かった。特に DOGs のあだ名を決めて積極的に呼ぶことは、意識すればすぐにできることなので取り入れる。また、北星ピア・サポーターではピアサポ辞典や交換ノートが新メンバーが組織に馴染むうえで重要な役割を果たしていると気づけた。来年度も引き続き行うと同時に、裏面の質問欄やノートの余白を使って交流できるようにしていく。(E) 昨年度も同イベントに参加したが参加大学数が減少し、他団体との意見交流の場としては少々インプットする情報が不足してしまう印象を受けた。ぴあのわなどの大型イベントではなく少数の団体が集まる今回のようなイベントでは各団体と意見交換する時間が深く取れるため利点もあったのだが、参加団体が少ない現状に少々寂しさも感じた。ただ、他団体のリーダーと話し、リーダー特有の悩みを聞き、経験者である自分の解決策を伝えることができたため、「ピア・サポート」という我々の根幹においては意義のあるイベントであったと思う。自団体の発表においては、発表した現役3名にとっては今回のイベントがよい経験になったと思う。我々先輩が事前に発表原稿を確認していなかったのはこちらの落ち度であるが、説明内容が少し間違っていたり、言葉足らずであったりしたため、今回研修に参加したメンバーに限らず、自団体の中で自団体について学ぶ時間は、これまで以上に設けても良いのではないかと考えたため、三役である E には頑張ってもらいたい。離れても応援している。(A) 他団体の活動を客観的にみて、「こうできたら良くなるのでは?」と他団体が良くなるためにどのような方法があるのかを考えながら参加したイベントだった。このように、他団体の足りないところを探す、補う視点は、自団体でも活かせることであって、組織を客観視する方法を身につけるためのきっかけとなった。 グループワーク中の北星ピア・サポーターは、ワークに慣れていると感じた。それぞれグループ分けされていたが、どのメンバーもグループ内でファシリテーションを行い、出てきた案をまとめて発表ができていた。そのような力は、日々の活動の中でしっかり磨かれているものなのだなということを強く感じた。 関西大学のサポーターともつながりが持てたことは、非常に良かった。今は北星ピア・サポーターがアドバイスを渡すことが多いかもしれないが、北星ピア・サポーターが困ったときに、相談できるサポーターの仲間を見つけることができたのは、嬉しいことである。(B) 活動報告では準備不足の状態でした。そのため、伝えるべき情報の取捨選択を誤り北星ピア・サポーターが何をして何を学んだかを十分に伝
--	---

	えられなかった。今後は発表時間を意識した台本を作るなどして、発表の目的に沿った情報を伝えられるようにしたい。他大学との交流では北星ピア・サポーターでは行われていない支援活動を知ることができ、その中で個人的に一番の学びは LINE の活用である。インスタや X (旧 Twitter) と違い連絡ツールを使うため、学部・学科ごとにグループを作れば、相手にとって必要な情報や企画のみを伝えられることが期待できると思う。(C)
展望	自団体を客観視することで、組織が良くなるための方法を見つけることが可能。他者のような視点で、「こうしたら良いの」を見つけて、自団体でそれを実現するための方法を模索していく。(B) 事前にミーティングを行い、研修の目的やスケジュールについて全員が把握すべき。また、発表練習を時間を計測しながら行い質疑応答の時間を確保できればより良い発表になる。(E) イベント内容に限らず、内容や工程を確認するという基本を損なわず、より良いものにしようという高みを目指す姿勢は受け継いでほしいものである。我々が満足いくまでできなかったという悔しさも含めて。(A) 活動報告をする際には台本の作成も必須だが本番を想定したりハーサルも最低1度は行う。また、情報の質と時間配分を意識した発表にするために、先輩等に確認をお願いするべきだった。(C) 他大学の活動発表の際、質疑応答では積極的に質問し疑問に思ったことに対して他大学の学生と解決しようとする姿勢がとても素晴らしかったので今後も続けていきたい。また、グループディスカッションにおいて、学内やピア・サポーター内の新入生に対して何ができるのかをテーマに他大学の学生と考えた。学内の新入生に対しては新入生歓迎会や新入生説明会などのサポート企画を行えているが、ピア・サポーター内の新入生に対してのサポートはまだまだできそうなのがたくさんあったため、これから新たに仲間入りするピア・サポーターにとって成長し学びとなる場を提供できるようなサポートをしていきたい。(D)

北星ピア・サポーター
イベント参加報告書

提出日 (2024 年/5 月 11 日)

イベント名称	関西遠征 (2 日目) 大阪経済大学交流会
開催日時	2024 年 2 月 28 日 (水)
開催場所	関西大学
参加メンバー	小倉幹司 (経情アドバイザー)、西田架南 (経済アドバイザー) 正木瑛翔 (経済法 2 年目)、中谷光汰 (経済法 1 年目)、為国結菜 (生活創造 1 年目)、佐藤涼美 (英文 1 年目)
準備	☐ 参加メンバーでの打ち合わせ (約 0 回) ☐ イベント主催校やイベントに関する情報収集 ☐ 発表準備 ☐ 発表練習→アドリブ ☐ その他
参加内容	当日の参加内容を書きましょう ◆アイスブレイク すごろくを用いて、他大学の学生とお互いのことを深く知ることができた。 ◆大阪経済大学による活動報告 ◆ぴあのわについての質問 ◆新入生オリエンテーション現状報告 ◆各大学の改善点を話し合い、発表 ◆面談 大阪経済大学でぴあのわを行うために北星のみんなで大阪経済大学のセンタ一長を説得

感想	新入生サポートについて、双方の良い点と改善できる点について話し合う場面で、私たちのグループではどこまでがサポートと言えるだろう、という疑問が話題の中心だった。DOGSでは新入生数名とDOGSメンバーがグループとなって履修登録のサポートをしているが、北星ピア・サポーターでは新入生説明会で得た知識と新入生応援bookの時間割表ページを活用してもらうことで、1度新入生自らの力で履修登録について考えてもらおうとしている。今年度は説明会当日のなんでも相談会開催を行わないため、特にその傾向にある。私は学内研修で学んだサポートとレスキューの差異についてDOGSに共有し、お互いの新入生支援のゴールは「新入生が履修登録を個人の力で継続的にできる、大学に馴染んで学習に集中できる」ことだと再認識できた。(F) 大阪経済大学での研修において一番印象に残っていることはぴあのわに向けての面談会だ。大阪経済大学の皆さんと交流してみて、北星の取り組みと似ているところもあるが少し違った大阪経済大学ならではの別視点の発想がありすごく学びとなる貴重な経験となった。この経験から私自身も大阪経済大学の皆さんにぴあのわをぜひ開催してほしいという気持ちが強くなり、ぴあのわ開催を自分事と捉えて大阪経済大学の副センター長にプレゼンできてよかったと思う。また、私だけではなく北星の学生全員が緊張感と責任感をもち、それぞれの価値観と経験で説得できたということもすごく刺激となり、お互いに意識を高め合っていて素晴らしい体験ができたと思う。(E) 我々と同じように目的をはっきりさせて活動している点や年間通してDOGS内や一般学生に向けた企画を実施しており、我々と共通している点が多いという意味も含めて、十分な目的意識と能動的に活動するメンバーがあるDOGSには今後も元気に活動してほしいと願うばかりである。事前準備が無い状況で、緊張な面持ちの他大学の学生と共に他大学の副学長と面談した経験は言わずもがな最高である。後輩たちにとっても非常に良い刺激になったであろう。みんな輝いていて素敵でした。(A) DOGSの方々との話し合いでは、お互いの活動が新入生支援が中心とのことで、それに関して改善点を出し合った。特に履修登録に関してどこまで支援すべきかが話題となり、最終的に支援の目的が学生が自分の力で持っていくように自分の力でしてもらうとなった。このことを念頭に置きなんでも相談会では、新入生のためになる支援を行い、領分を間違えないよう気をつけたい。またぴあのわに向けての面談会では、副学長にぴあのわが自分にとってどうだったかを話す際にかなり緊張してしまい伝えたいことが十分に話せなかった。しかし、このような自己の学んだことを実際に口に出し相手に伝える機械は貴重なため良い経験となった。(D)
----	---

	率直に、北星ピア・サポーターと似た支援活動を行っている組織との交流は、活動面で共感できることや共通の悩みがあったりで非常に参考になった。我々も DOG s も 4 月に向けた準備を行っている中で、より良くするためのアドバイスを聞きあい、取り入れていこう。 また、DOG s の現役とアドバイザーの距離感には、感心した。適度な距離感を保ちつつ、必要な時には心強い味方である距離感は、アドバイザーとして活動するための良い参考材料となった。 大経大訪問の最大のイベントである副学長との面談は、北星ピア・サポーターの底力を見せつけることができた。重苦しい雰囲気の中、研修メンバーがぴあので経験したことを存分に伝えることができ、我々が日々培っている能力は、今回のような場所でも通用することに自信が持てる。大経大にとっても、北星ピア・サポーターにとっても有意義な時間とすることができた。(C)
展望	・ DOG s では新入生の交流のサポートにも積極的に取り組んでいるので、今後北星ピア・サポーターで交流目的のイベントを開催することがあれば是非 DOG s を参考にしていきたい。(F) ・ 今後北星ピアサポーターの活動に活かせる点 大阪経済大学とのグループディスカッションより、北星の改善点として新入生説明会開催時に新入生が眠くならないような工夫が必要なのではないかということが議題にあがった。改善策としては新入生が説明を聞いているだけでなく、新入生自身にも自分から参加してもらえよう形をとるようにすることだ。(E) 大阪経済大学は広報のために使っている SNS の種類によって使い方を分けていた。特に LINE のメッセージアプリという側面を活かして新入生に直接情報を届けたり相談を受け付ける場にしたりと広報と実際のサポート活動の 2 つのことを 1 つのツールでこなしていた。すべて真似するのは難しいと思うが、24 年度から学内でも LINE と一部機能が似ている Teams の活用が勧められているため、これを機に新しい支援のやり方に挑戦できればと思う。(D) 私は、現役とアドバイザーの距離感に感心したので、6 月にアドバイザーとなる身としては、大経大のように、日常の活動に強くは介入せず、後輩が困っている状況、助けが必要な状況で手を差し出すことができるアドバイザーを目指していきたい。あくまで、後輩のスキルアップを優先し、様々な壁を乗り越えていくお手伝いをする。(C)

北星ピア・サポーター
イベント参加報告書

提出日（2024/5月11日）

イベント名称	成城大学 Supporter's Forum2023 at Seijo University and Konan University
開催日時	2023 年 11 月 18 日
開催場所	成城大学（別会場で甲南大学）
参加メンバー	斎藤千優（経済法学科）、今泉瑠菜（英文学科）、土屋日奈子（経済学科）、相内詩渚（経営情報学科）、正木瑛翔（経済法学科）、難波杏介（経済法学科）、中谷光汰（経済法学科）
準備	主催校から、活動紹介用 PowerPoint ファイルの事前提出を求められた。 「ぴあのわ 2022 in 東京」の際に作成したポスターをもとに、2023 年度の情報（新入生企画の参加人数の更新、ぴあのわ 2023 in 北海道の開催等）を取り入れたファイルを作成し提出。
参加内容	<当日のスケジュール> 13:30 受付 14:00～14:10 開会挨拶 14:10～15:20 全体ワーク「もう一歩踏み込んで本音を話せる関係づくり」 15:20～ 休憩 15:35～17:05 分科会【①学習・キャリア、②国際交流、③ライブラリー、④高大連携】 北星ピア・サポーターは①学習・キャリアに参加。 17:05～ 移動 17:10～ 閉会挨拶 終了後～ 懇親会
感想	E: 個人としては 2 回目の学外研修となった本研修。昨年は、本イベントにオンラインで参加し、交流面で、対面で行いたいという振り返りがあったので、今回は、対面参加ができたことに喜びを感じていた。全体ワークでは、アサーティブコミュニケーションについて学んだ。世の中には、自分が苦手だと感じる人間もいるが、そんな人とでも臆せずに、意見を言うヒントを得た。決して相手の意見を否定しないことを念頭に置いたうえで、問題を客観的に、具体的に説明し、正直な感情を伝える。それから解決策を具体的かつ率直に伝える。このように、自分の主張を 1 つずつ整理して、伝えることは、相手に話を聞いてもらうための方法の一つだと学んだ。話を聞いてもら

	えると感じる事ができれば、今後も話しやすいし、関係も途切れる可能性も少ない。自分が納得しないなと感じる、「モヤッと」を感じた際は、アサーティブにコミュニケーションを行うチャンスだということを心がけていきたい。 分科会で、私のグループは「意欲はあるが参加できていない学生をどう活動に巻き込んでいくか」を考えた。実際に、もっと活動に参加したいのになかなか一歩を踏み出せないという悩みを持つサポーターがグループのメンバーにいた。積極的に活動しているメンバーは、どうしても固定していきがちなので、その人たちの中で、グループ化してしまう。一歩を踏み出せない人からすると、その輪に入って良いのかわからず、入りづらいと感じてしまうようだ。定期的にごはんに行くなど、活動の時間外で様々なメンバーと交流を行うことは一緒に活動するメンバーへの不安を取り除くことができそうだという案が出た。私も、ピアサポでご飯に行くときは、どんなメンバーでもその人を知る機会に毎回なるので、交流を持つという点でかなり効果的だと感じている。他にも、活動に活かせる技術を伝えるなど、経験値をアップさせることができる機会を設けることは、モチベーションアップにつながり、活動意欲を聞き出せる機会になりそうだと案として出た。 北星ピア・サポーターは、ラーニング・コモンズや定例会があるので、メンバーと顔を合わせる機会は、多い。そんな機会を活かして、まずは、様々なメンバーを一人一人知ること、企画を行う際に、あの人にも声をかけてみようという活動に巻き込むことができるなと感じた。 懇親会では、交流を持ったことが無い団体が多数いたので、お互いの団体の活動を話す時間となった。また、びあのお 2023 in 北海道で交流を持った東工大と再会した。名刺を交換していたのもあって、自分の名前をおぼえてくれていたことはとてもうれしかった。改めて、名刺の効果を実感できた。本イベントでも名刺を配ったので、関わりを持てた団体ともいずれ再会できることを期待したい。 D：前回他大学のピア・サポーターと交流し、非常に刺激となったため今年度も参加を決めました。全体では「一歩踏み込んだ会話」をするためのアサーティブコミュニケーションについて研修を受けました。この研修にて、自身がどんな点で全体に意見を言う際気を付けているのか再確認するだけでなく、さらにうまく伝えられるようなフレームワークも覚えることができました。このフレームワークのステップは「ちょっと言いづらいんだけど」というクッション言葉を伝えること、次に率直な気持ちを伝えること、最後はポジティブに終わることです。簡単なことですがこれを覚えるだけで非常にコミュニケーションが円滑になることを知れ、非常に学びとなりました。 分科会では成城大学、東京経済大学、嘉悦大学の方と交流し、各大学が行っていることや現状抱えている課題について話し合いました。その際、前回の
--	---

ぴあのわにより、北星ピア・サポーターの認知度や関心度が高まっているという嬉しい言葉を頂き嬉しかったです。印象に残っているのは嘉悦大学がピア・サポーターのサポートをしている、という活動があるのに驚きました。また、悩みを話し合う中で出てきたものは業務の偏り、人材不足、認知度、運営方法など似ている悩みを取り上げ話し合いました。結果人材不足でも活動し、ブランド力（表現があっているかわかりませんが）をあげていくことで組織のモチベーションが向上していくのではないかと、というのが個人的な見解です。

交流会では成城大学の司会者の若手の話を聞けたり、全然自分の専門外の工業科の若手にも将来についてのアドバイスができたりとピア・サポートのみならず、様々な方と交流できました。交流した方々に最後には北海道に気を付けて帰るよう暖かくお送りしていただき嬉しかったです。この経験をもとに、今後も学外研修や他大学と交流する機会があれば積極的に参加したいです。

A：前回のイベントに参加した他のメンバーの活動報告を聞いて興味があって、今年も開催されるということで参加を決めました。全体で行ったアサーティブコミュニケーションについての研修では、自身の意見を抑え込むでも貫き通すでもなく相手の意見を尊重しながら自分の意見も活かすためのコミュニケーションの取り方を学びました。周りの人とのロールプレイングを通じて実際に自分の意見を聞いてもらうための方法を実践する等もしました。フレーズとして「大変言いにくいことなのですが…」のような言葉を最初につけるなどすると良いというのが印象に残っています。

分科会では「メンバーの活動意欲の差による活動量の差」について話し合いを行いました。最後の方の各班の発表も似たような内容の悩みを話し合っていたところが多かったようで、どこでも課題になっているのだということを実感しました。私がいた班では全体の目標として決めたことを個人の目標として落とし込んだりまた改めて決める、熱意の差を可視化する工夫、コミュニケーションの場を増やすなどがモチベーション向上などに繋がるのではないかという話がありました。

その後の懇親会では分科会の時に同じ班だった人やまた別の他大学の方と交流することが出来ました。談笑したり名刺の交換をしたりと充実した時間を過ごせたと感じています。また成城大学の方から前回のサポーターズフォーラムに参加していたピアサポのメンバーの名前が出て、よろしく伝えて欲しいと言われたのが印象的でした。

ピアサポとして最後の学外研修への参加となりました。これまでに参加してきた研修の中では比較的時間が短かったですが、しっかりとした事前準備がなされていたのかとても内容の濃い時間を過ごすことが出来ました。同行出来て本当に良かったです。

	F：学外研修は初めてでしたが、他大学の学生と交流できる貴重な機会だと思い、参加を決めました。全体ワークでは、段階ごとに分けてのアサーティブの仕方を学びました。アサーティブの前には自分の主張を整理する。物事を伝える際には相手に配慮をして切り出し、整理した内容を「事」にフォーカスし、客観的・具体的に伝えるということを学びました。話し合いの終了時には前向きに着地することを最終目標とします。分科会では、北星学園大学のピア・サポーターが抱える悩みの解決について話し合いました。悩みは「団体での意識やモチベーション、活動量の差があるためこれを同じくらいにしたい」というものです。その結果、「行事などに非協力的な人には、どれだけ大変かを具体的に数量で伝え、自分事として捉えさせる」という結論に至りました。グループとして解決に取り組んだ悩みは北星学園大学のピア・サポーターが抱えるものでしたが、他の大学の方々から悩みを聞いた際には、非常に多種多様で色々な視点から考えることができ、良い刺激になりました。来年度は私は2年目として活動することになるので、今回話し合ったことを活かして、今までよりもモチベーションの差を小さくできるよう努力します。 C：前回の Supporter's Forum はオンラインで参加したため、今回は現地に行ってみたいと思い参加を決めた。 全体ワークでは、もう一步踏み込んだ会話をするために「アサーティブ」を活用しようと学んだ。自分の正論を押し付けるのではなく、相手に合わせて我慢するのでもなく、自分と相手のリスペクトを保ちながら誠実・率直・対等に話し合っていくことの大切さを学んだ。ワークでは、参加者が質問にスマホで投票したり、チームを作って実際にアサーティブな会話を行ったりした。特に、チームを作って会話をした時は、他大学の学生と一緒にさまざまなシチュエーションを想定したことで、イメージを持ちながら行うことができた。 分科会では、チームの悩みとその解決策を考えた。まず、グループの中で各団体の悩みについて共有した。私のグループでは「認知度」を上げたい、個人の活動量に差があるという悩みがあった。その解決策として、団体外部の人も巻き込んだイベントの企画を行うというのが出た。具体的には、イベントを行うことで団体の広報活動につながる、今まであまり活動してこなかった人にも仕事をふるチャンスにもなると考えた。それにより、サポーター団体同士の交流にもつながると考えた。また、グループで出た案を全体に発表したのは、緊張したがとてもいい経験になった。 最後に各団体にさまざまな悩みがあったが、全団体に共通していたのは「活動量の差」だった。この悩みについては、団体の規模や活動内容が違ってても多くの団体が抱える悩みなのだと知ることができた。この「活動量の差」に関してはずぐに解決できるものではないため、今後の活動を通して解決策を探していきたいと思った。
--	---

G：ぴあのわ以降、さらに他団体の活動内容について知りたいと思ったため参加を決めた。全体ワークでは自己の意見を相手、特に先輩や上司のような目上の人に伝える際に、遺恨を残さない方法について学びました。その中で特に大事にしたいと思ったのは、自分の主張を整理するのに「事実と問題」、「自分の感情」、「要望・提案」の三点に分けることです。その他には、日頃から信頼関係を築くことや、自分が最初の一步を踏み出す勇気を持ち、そこから具体的にもう一步踏み込んで率直に意見を伝えるなどのことを学びました。全体ワークで学んだことは組織に属する上で重要なことばかりなので忘れずに実践していきたい。分科会では各団体で交流し、団体の悩みを相談し合いました。そこで多かった悩みは自団体の活動が大学内で知られていないというものでした。その解決策として出たのは、新入生を巻き込んだイベントを企画するというものでした。北星ピア・サポーターでは新入生支援が多いのでやる必要は薄いと思いましたが、企画の内容は新入生の学習支援ではなく生活支援であり、もっと具体的に言うと「友人作り」のための企画というものでした。この企画の案を出した方によると、自団体が新入生に人間関係を新たに構築する場を提供することで、大学生活の大きな悩みである孤独による不安を解消できると共に、早い時期に自団体のことをアピールできるということでした。様々な団体との交流では、大学そのものの特色によって活動内容、支援の需要が変わっているため、北星ピア・サポーターにはない視点からアドバイスをもらうことができた。またこのような機会があれば積極的に参加したい。

B：ぴあのわをきっかけにより多くの大学のピア・サポーターと交流を図りたいと思い、参加することを決めました。全体ワークではアサーティブコミュニケーションについての講演がありました。この講演では相手の気持ちを尊重しながら自分の意見や思いを誠実に伝えることの大切さや秘訣を学びました。アサーティブな対話をするためにこれから意識しようと思ったことは事実・問題と自分の感情を分けることです。これを意識することで、相手に情報を誤解のないように、正確に伝えられるなと感じたからです。また、講演の合間に複数回周りの人と実際に学んだスキルを試してみるという機会がありました。この時に強く感じたことは学んだ知識をもとに実践することは自分が考えている以上に難しいということでした。

分科会では各団体の課題とその解決策を考えました。私のグループでは活動意欲の違いによる活動量の差について考えました。その解決策として活動量を可視化することや、縦割りグループを作成しグループごとにタスクを割り当てる、1年目に大きな役割をあえて与えて経験させる等の考えが挙がりました。北星ピア・サポーターでもこの課題は以前からあり悩んでいることな

	ので、他大学の団体が実践していることやアドバイスをもとに改善に向けて検討していきたいと思いました。 この研修ではより多くの他団体の活動を知れただけでなく、自分の団体の活動を客観的に見ることができたと思います。また、ピア・サポートの活動における同じ悩みを持った学生同士が交流をし、どう改善できるのか一緒に考えたことは今後の活動のモチベーション維持の支えになったなと感じました。
展望	E：「モヤっと」を感じた際の、自分の意見を言う際の話の切り出し方。「ちょっと、言いづらいのですが、、、」 活動の中で、より良い方法の案の切り出し方として使ってほしい一方、自分だけが、楽になる（面倒な活動をさける）ためにこの切り出し方が多発して欲しくはない。 ピアサポ活動・企画の幅を広げていく、メンバーを巻き込んでいくためにも、メンバー間の得意分野、興味分野等の把握をする。そのようにすると、任せてみようと思うメンバーへの選択肢が増えるのではないかな。把握をするには、日々の活動、活動外の交流を通して定期的にメンバーを知ることが重要。 D：アサーティブに意見を言い合う雰囲気作りは普段から行われているが、フレームワークを北星ピア・サポーター全体にインプットしてもらえようなしかけをしたい。 C：アサーティブな会話について、今回学んだことを北星ピア・サポーターにも伝えたいと思った。ただ伝えるのではなく、成城大学でやったようにロールプレイしながらやると効果的だと考える。 また、多くのピア・サポート団体で出た悩みである「個人の活動量に差がある」ということに関しては、すぐに解決できるものではないため、ピアサポ内でしっかり話し合うことが大切だと考える。そして、今回の研修でできたつながりも活かせたらいいなと思う。 G：先輩、後輩間の建設的なコミュニケーションが活発になれば、ピアサポの目的がより達成しやすくなると思う。なので、まず同じ学科内からアサーティブな会話について学んだことを伝えていきたい。また、大学内で知名度が低いという課題について、個人的にはピアサポ外向けのイベントの参加率は決して低すぎとは思わないので、今まで通りの活動をするだけでも大丈夫だと思う。 F：来年度、私は2年目として活動することになるので、今回話し合ったことを活かして、今までよりもモチベーションの差を小さくできるよう努力します。他にも、後輩が入ってくるので、アサーティブに伝えることを今までよりもより意識します。

その他

北星ピア・サポーターその他活動報告書

活動名称	アドバイザー企画		
日時	2024 年 3 月 8 日		
場所	北星学園大学 C701,C702 教室		
対象者	北星ピア・サポーター 現役メンバー全員	参加者数	17 人(運営 9 人含)
目的	① 引退し卒業するアドバイザーから、これまでに得た経験や知識、スキルを現役の北星ピア・サポーターに伝える。 ② 4 月に行われる北星ピア・サポーターの一大イベントである新入生説明会やなんでも相談会で活かせるような企画を提供する。 ③ 本企画を通じて北星ピア・サポーター同士で交流することで、今後全体で協力しやすい環境を作り、モチベーションの向上につなげる。		
準備	・ 2024/01/16(火) Zoom 会議 ー決まったこと及び検討内容ー 開催日時の候補日…3月4日、5日、8日 企画目的…現役メンバーへ応援を届ける。春に控えている相談会に活かせることだけではなく、参加者それぞれのやる気やモチベーションアップにつなげることを目指す。 企画内容…他己紹介、ピアサポ内相談会、小運動会 ・ 2024/02/01(木) 企画書作成 企画内容の決定(他己紹介、プレ・ピア・サポなんでも相談会) ・ 2024/02/09(金)「プレ・ピア・サポなんでも相談会」スライド作成 ・ 2024/02/15(木) 開催日程調整 Teams の全体連絡へ調整さんを流した。 ・ 2024/02/16(金) 8 期生からの贈り物冊子を作成。 ・ 2024/02/24(土) 全体スライド、他己紹介スライド、配布プリント作成 ・ 2024/02/28(水) 開催日程及び参加者の確定 (出欠確認に Google フォーム使用) ・ 2024/03/05(火) 電話での会議を実施…企画内容の変更 ・ 2024/03/07(木) 配布資料等の印刷と当日の流れの確認		

実施内容	プログラム内容 ・ 開会式 ・ 他己紹介～おしえて！〇〇さんの魅力～ (ペアを組んで相手の魅力を他者に紹介する。活動を共にするだけでは知れない素顔を知る。) ・ プレ・ピア・サポなんでも相談会 (なんでも相談会に向けて一度イメージを膨らませる。どんな対応であるべきかを考える。) ・ 閉会式 使用したスライド：ピアサポ Web 書庫＞アドバイザー企画＞2023
良かった点	・ プログラムのアイスブレイク枠として用意した「他己紹介」の時間が想定以上に盛り上がったため時間を少し引き延ばし、「プレ・ピア・サポなんでも相談会」で時間を削るなど状況に応じて臨機応変に対応できたため、温かい空気感になったことが良かった。 ・ 企画を担当したプレ・ピア・サポ相談会について。 ・ 「現役の成長のために何を伝えるべきか」について考えて企画を考案した。その結果、今回の企画では悩みを抱えた相談者の目線を知り、より良い対応とはどんな姿なのか考える機会を設ける事ができた。実際に、企画を実施して、現役がそれぞれイメージを膨らませる事ができた様子が見られたため、実施してよかった。 ・ プロジェクトメンバーになったアドバイザーの意見が満遍なく反映された企画になったんじゃないかな～というところ。 ・ 当日も臨機応変に対応することができて良かった。 ・ 皆、わいわいと盛り上がっていたみたいなので良かったかな！準備も当日の進行も特に問題なくできてたと思う！ ・ 急遽準備内容を変更してよりよい支援を形にできたこと。 ・ 後輩が楽しんで参加してくれたこと。臨機応変に対応できたこと。
反省点	・ 日程調整が遅くなってしまい、参加者側にも混乱を招く結果になったため、企画開催日の調整は1か月程度前に出来るようにした方が良い。 ・ 相談会について。相談会がどのように実施されるのかイメージを膨らませることができた。しかし、現役自身としては「まだまだ自分の対応する力には不安がある。」など、現役それぞれの自己効力感を高めることまでは出来なかった。相談対応には臨機応変に相手の不安に寄り添う力が求められる。そのため、改善するには、もっと模擬的に場面を複数想定して実践する機会を多く設けることで解決できるのではないかと考えられる。 ・ 企画の内容を本番の数日前に練り直すことになって、ちょっとだけごたついたところ。

	・ バイトのシフトとかでどうしても難しいとは思うけど、参加する現役のメンバーにどんな人がいるのか早めに知れていたら、企画した段階から参加メンバーに合った内容にできていたんじゃないかなと思う。 ・ 最初の他己紹介で時間がかかって、少し時間から遅れたところ（でも最初で盛り上がってたから良かった）。 ・ 他己紹介の組み合わせが気づいた時にはその場で決まっててちょっとだけビックリした！笑(臨機応変も大事になるので全然👍) ・ まあーもっと参加者いたらうれしいきもちだよね。でも逆にたくさんいたらいでセンチメントくらってた可能性もあるので、センチメンタルな僕にはよかったのかも。 ・ 当日参加のアドバイザーへの動きの説明が実施直前だったこと。議事録等で確認できる状態ではあったけど、LINE グループ等でももう少し早く直接の説明ができれば、当日参加のアドバイザーも準備する余裕があったと思うので、もっといい内容にできたかも…と思いました！
評価	今回の活動を 100 点満点で評価してみましょう→ (99) 点
展望	企画運営を通じての感想 ・ 他己紹介を通じて、北星ピア・サポーターと一緒に活動してきたメンバーの素顔を知ることができただろう。他者を理解しようとする力を、今度の活動に活かして欲しいと思う。また、プレ・ピア・サポなんでも相談会を通じて、参加者全員でオリエンテーション期間に行うなんでも相談会のイメージを膨らませた。当日起こり得るものを事前に想定しておき、対応準備を整えることでスムーズな活動とより良い支援に繋げて欲しい。 ・ 他己紹介がめっちゃ盛り上がって、楽しかった。知ったつもりで、知らなかった部分がまだまだある事がわかった。また、最後にアドバイザーで企画を運営できてよかった。ここで培った経験を今後に活かしたい。 ・ 2 年半くらい一緒に活動してきたメンバーでの企画だったので、リラックスした雰囲気話し合いができたのが良かった。 ・ どの企画も楽しかったですー！ ・ 皆と最後にいろいろ頑張って企画を作れて良かったです😊全部楽しかった！ありがとう！ ・ 別に大人になってから同期でなんかやってもいいですからね？何できるかしたいかだけだね。だって面白そうじゃん。大人だから色々幅とか広がっちゃったりして。うけるね。 ・ なんでも相談会の、あえて「間違っている」姿を見せたのは、難しい部分もあったけど、これまでにない試みでとても面白かったし楽しかった！